

道腎協結成20周年記念誌

風と大地と微笑みと



北海道腎臓病患者連絡協議会

道腎協結成20周年記念誌

風と大地と微笑みと



限りなき道へ



北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫

透析医療の進歩、その医療による患者の寿命も世界一と著しいものがあります。過去、私達が死に直面した危機意識のなか厳しい食事制限、透析症候群、そして膨大な医療費、これら様々な苦しみと耐え、仲間の死を目前にしながら、生きることを目的に闘ってきた数年前と現在とを比べて全く様相を異にしております。透析機器の増設、透析医療に対する昭和四十七年十月からの更生医療の適用などは一朝一夕に達成されたものではありません。

そこには全腎協運動における人びとの努力なしにはとうてい考えられないことなのです。

この更生医療適用の頃からわが国では透析医療が急速に普及し、社会全般へ広がりを見せたのであります。慢性腎炎、腎不全等をあつかう病院、医師、テクニシャン等が増え、研究改善の努力がなされてきたのもこの頃からです。しかし透析医療の進歩に連れて患者自身の意識の上にも大きな変化を見ることができます。近年とくに私達患者同士内部での長期透析患者と新しく透析を始めた患者との間に透析医療、会の活動等に対して意識の格差が目立つようになってきました。このことは会活動の上にも一つのブレイキとなっているのです。以前目の前で倒れて行くわが友を見て「明日はわが身」と感じながら必死にのり越えてきた長期透析患者、そして透析医療の恩恵を初めから享受している患者との隔たりは少なからざるものがあります。「今のところ別にさしさわりなく透析をしていて調子も良い、腎友会等は自分にとって必要ではない」という患者が増えています。私達は忘れてはなりません、どんな時代でも「共に力を合わせて生き抜くんだ」ということを。私達会員はここに次の活動へのステップとして二十周年記念誌を発刊することになりました。最後に結成二十年の活動の中で不幸にして亡くなられた療友に対し、私達に、そして、あなた達に、記念誌を捧げます。

道腎協結成20周年記念 によせて



北海道知事

堀 達也

腎臓病の治療のため、人工透析を受けている皆さんによって組織された「北海道腎臓病患者連絡協議会」が、その活動を始められてから二十年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

協議会の皆様が、結成以来、だれもが安心して透析を受けられるよう、人工透析施設の増設や医療費の自己負担の軽減などに向けた運動に取り組むとともに、「全腎協」と連携して「腎提供登録者拡大・街頭キャンペーン」を全道で展開するなど、腎臓病の克服とその取り巻く環境の整備のためにご尽力され、大きな成果を上げてこられたことに、心から敬意を表します。

道としては、慢性腎不全の根治療法である腎移植の推進を図るため、昭和五十九年に財団法人北海道腎臓バンクを設立したのをはじめ、コーディネーターの配置、HLA検査センターへの助成など、腎臓提供者の登録推進や移植希望者の検査体制の整備等を行うとともに、どこに住んでも安心して透析が受けられるよう、人工腎臓不足地域における人工透析機器の整備に努めてまいりました。

こうした中、国民の幅広い理解を得ながら、より公平で適正な腎臓移植を推進するため、平成七年四月から新しい腎臓移植のネットワークがスタートし、平成八年には北海道にこのブロックセンターが設立され、さらに、平成九年十月に、臓器移植法が施行されるなど、近年、腎臓をはじめとする臓器移植を取り巻く環境は大きく変化しております。

道としても、こうした時代の流れを踏まえ、道民のニーズに的確に応え、今後とも、皆様と力を合わせて、腎臓移植の推進や人工透析機器の整備・充実に向けて取り組んでまいります。

終わりに、会員の皆様のご発展と、貴会の活動のますますのご進展をお祈りし、祝辞といたします。

道腎協結成20周年 おめでとうございます



北海道透析医会 会長
札幌北クリニック 院長

今 忠正

北海道腎臓病患者連絡協議会が結成20周年を迎えたことに心からお祝い申し上げます。

結成以来腎臓病の予防対策の普及、患者の福祉の向上、移植推進のために献腎の啓蒙、疾病やそれに伴う合併症などその時の重要な話題についての勉強講演会の開催、通院費用の助成など様々な地道な運動を続け、多大な成果を上げられたことに対して敬意を表しております。

二十一世紀を見据えて、我が国ではあらゆる分野においてより合理的、効率的な方向への変革が求められる時代となりました。医療保険制度、福祉の仕組みも例外ではなく、すでに改革への検討が進行中であります。必ずしも透析患者にとつて有利な方向へ展開しているとは言えず、むしろ非常に困難な問題が今後提起されることが予想されます。更に透析医療の環境は患者数とともに長期透析患者の増加、それに伴う病態の変化や合併症など新たに深刻な問題を抱えることになりました。

北海道透析医会では日本透析医会とともに世界一である日本の透析医療の質を堅持する責務があると考えており、あらゆる方面の英知を結集し、他力本願でなく、自力でこの問題の解決に努力する所存であります。

貴会におかれましても会員一同団結し、共通の問題意識をもって運動を展開されるのが大切ですが、原点である療養生活をないがしろにしているために余分な治療が必要とされていかを自ら反省することから出発することが、これからの運動に対する国民の支持・コンセンサスを得るための重要な課題になると考えます。

貴会の益々のご発展をご祈念いたしましてお祝いのご挨拶といたします。

道腎協結成20周年によせて



社団法人全国腎臓病協議会

会長 **油井 清治**

北海道腎臓病患者連絡協議会が結成二十周年を迎えられたとのこと、心からの敬意とお祝いを申し上げます。道腎協は全腎協にとり北の要、広大な土地、寒い季節の長い中で患者会活動は大変きびしいものと推察されます。この間活動を続けてこられた役員を始め会員の皆様のご努力は誇り高い歴史として、これからも語りつがれていくと思います。

日本透析医学会の統計によると、全国患者の数は十六万人を超え二十一世紀初頭には、二十万人に到達すると言われています。同時に国は膨大な医療費の抑制をあらゆる角度から行うとしています。平成十年度の診療報酬改定には慢性疾患医療費の定額制を実施するとの情報もあり、私達をとりまく情勢は一段ときびしさを増しつつあります。このことが行われれば我々が目指すよりよい透析医療の後退につながることは申し上げるまでもありません。全腎協は厚生省交渉の中で、このことを強く訴え続けていく所存です。又私達が数年来、一日も早い成立をめざして運動してまいりました臓器移植法が施行されました。内容的には不十分と言われていますが法治国家としては何はともあれ法律の実施が急務であり、これから不足の部分は皆さんと論議をしながら修正を求めてゆかなければならないと思います。

患者会活動に休みはありません。私も及ばずながら皆さんの先頭に立って頑張つて参る所存です。

皆さんの変わらぬご支援をお願いいたします。

北海道腎協がこの二十年の活動経験を踏まえ、組織の拡大を強固なものとし、質的にもより一層高いレベルでの患者会活動を目指されるよう心からご期待をいたしております。会員の皆様には充分お体をご自愛下され、次の二十五周年に向けて共に歩んで参りましょう。

道腎協結成20周年によせて



財団法人北海道難病連

代表理事 **矢野 肇**

北海道腎臓患者連絡協議会結成二十周年を迎えるにあたり心から連帯のこあいを申し上げます。

二十年の間、病氣そして時間的制約のある中、会員ご家族のためにご尽力され、現在もなお活躍されておられる役員の皆様にご敬意を表すものであります。

また、この二十年の間、腎臓病部会の活動ばかりでなく、北海道難病連の各事業、運動におきましても常に積極的な役割をはたしておられることを心から感謝申し上げます。

今、私たちの運動や患者の声はかき消されるかのように、障害や難病患者を取り巻く情勢は大変厳しいものとなっております。

ご存じの通り平成九年九月から健保本人二割負担が実施され、高齢患者負担定率性の導入、さらに難病患者にまで医療費を負担させようとしています。

障害や難病を持ち、入院や退院を繰り返す生活の中で、どれほどの収入を得られるのか、毎日、毎月払いつづければならない医療費はこの後どれだけ患者の負担になっていくのか、行政は明らかに障害者、難病患者を社会の隅に追いやろうとしています。

これまで以上に障害者、難病患者は力を結束しなければなりません。これまで培ってきた大きな力と、北海道難病連に参加する多くの仲間と一緒に難病対策の改善、福祉の向上を訴えていかなければと思います。

患者一人の声は小さなものかも知れません。しかし、その小さな声を集める事によって大きな声となり、大きな力となります。

全道の三千五百会員の道腎協会員の皆さんを含め、北海道難病連一万三千家族が力を合わせ、これからの活動をすすめてまいりたいと思います。

今後とも北海道腎臓病患者連絡協議会の益々のご活躍とご協力をお願いいたします。ましてご挨拶いたします。

20周年総会記念交流会 (平成9年5月24日)



交流会風景



司会の棧勇氏



来賓の故中村信夫事務局長
夫人正子さんから
祝辞をいただく



あいさつをする道腎協会長岩崎 薫氏



会長のあいさつに聞き入る出席者



左から上田 弘(釧路)、佐藤利國(室蘭)の各氏





それでは皆様おまちなね?の



私キレイ?



思わず吹き出す場面も

道腎協第20回総会記念交流



札幌のメンバーが歓迎の笑劇場を

第20回総会記念交



3ヶ月も前から猛練習、その成果は?



会場ロビーでの受付も



温泉にも料理にも満足



ジャガイモを使ってゲームを楽しむ





梅后流江戸芸“かっぱれ、(故留目事務局長夫人も出演)



楽しく歓談する光景も



何やらむずかしい話も



まあ、堅い話は抜きにして



厚生病院（札幌）の皆さん



カメラを向けられるとつい



美味しいですか？はい美味しいです！



交流会には全道から約100名の参加者が



北見から西木戸隆博氏（中央）も

20周年記念総会 (平成9年5月25日)



総会で歓迎のあいさつをする札幌の会長代行 宮本好和氏



透析食栄養士研究会会長 佐藤妙子氏



北海道議会議員 大橋 晃氏



会長 岩崎 薫



キドニー会会長 松浦信博氏



(財)北海道難病連事務局長 伊藤たてお氏



北海道議会議員 佐藤英道氏



全道からの出席者で満席となった



祝電・メッセージ披露 椿分百合江さん (江別)



真剣に討議する参加者



決算報告をする村本徳雄会計(札幌)



議長団左から田中政夫、澤内繁雄両氏



熱心に聞き入る



活動方針を説明する会長



会場風景▶



スローガンを読み上げる
斎藤一子さん(小樽)



総会宣言をする
三沢祥子さん(札幌)



200名越える出席者で熱気であふれる会場



岩崎薫会長が新役員を紹介



総会の裏方さん(札幌の皆さん)



室蘭地方腎友会の皆さんと会長



記念講演をして下さった今忠正先生(札幌北クリニック院長)



真剣に聞き入る参加者



講演風景 演題は「透析で長生きする秘訣」でした

もくじ

限りなき道へ	北海道腎臓病患者連絡協議会会長 岩崎 薫	1
道腎協結成20周年記念によせて	北海道知事 堀 達也	2
道腎協結成20周年おめでとうございます	北海道透析医学会長 札幌北クリニック院長 今 忠正	3
道腎協結成20周年によせて	社団法人全国腎臓病協議会会長 油井 清治	4
道腎協結成20周年によせて	財団法人北海道難病連代表理事 矢野 肇	5
20周年総会・記念交流会		6
20年のあゆみ		17
道腎協のあゆみ		17
一年間のあゆみ(昭和52年～平成9年まで)		19
ブロック活動		
十勝地方腎友会		43
苫小牧腎友会		44
紋別地方腎友会		45
釧路地方腎友会		46

座談会

20年をふり返って Ⅱ 道腎協結成以来の20年間の会活動の歩み Ⅱ

オホーツク腎友会	47
留萌地方水無人腎友会	48
北見地方腎友会	49
小樽後志地方腎友会	50
夕張腎臓病友の会	51
浦河地区腎友会	52
深川腎友会	53
道南腎臓病患者連絡協議会	54
腎友会滝川クリニック透析者の会	55
室蘭地方腎友会	56
江別腎臓病患者会	57
札幌腎臓病患者友の会	58
旭川地方腎友会	59
稚内地方腎友会	60
根室地方腎友会	61
岩見沢腎友会	62
千歳腎友会	63
座談会	65

北海道の透析事情

北海道の血液透析治療のながれ

渡井医院院長 渡井幾男

83

医療講演の歴史

85

人工腎臓の歴史

92

私もひとこと

95

筑田 清子／井上

茂／新山 正紘／齋藤 義生／加藤 健爾／故今村ツヤ子

薄木 理／樋谷 内修／杉本 修一／馬飼野秋雄／齊藤 郁子／廣岡 達夫

庄子ヨシエ／井草 典朗／福田 一成

腎バンクキャラバン

腎登録促進全道一周キャラバンキャンペーン

103

〓二、〇〇〇キロ走破！会を挙げての協力実を結ぶ〓

資料編

年度別役員名簿

131

あゆみ

143

編集後記

165



20 年 の あ ゆ み

道腎協のあゆみ

わが国では慢性腎不全の治療法として人工透析療法が始められたのは一九六〇年代後半以降でした。この治療法は一九六七年（昭和四十二年）十二月に医療保険の適用になり一般に普及されることになりました。

しかし、自己負担のまったくない患者は社会保険（サラリーマンや公務員などの被用者の保険制度）の本人だけで、当時の医療保険制度では、社会保険の家族は五割の自己負担、国民健康保険（自営業者等を対象の制度）は三割、その家族は五割の自己負担があり、その負担額は当時の金額で二十万〜三十万（現在の約百万円位）になっていました。この為、医療費の経済的負担に耐えうる患者だけが透析治療の恩恵に浴し延命できた状況でした。

治療費の変遷

（一九六七年 昭和四十二年）

人工腎臓に健康保険適用

社会保険 本人 負担なし

家族 五割 負担三十万円

国民保険 本人 三割 負担二十万円

家族 五割 負担三十万円

（一九七二年 昭和四十七年）

更生医療、育成医療適用

（身体障害者福祉法）

経済的条件だけが透析治療を受けられる絶対条件ではありませんでした。透析適応の腎不全患者にとって重要な問題は人工腎臓の器械が全国的に不足していたことです。健保適用以後増え始めていたが、それでも昭和四十五年の全国の人工腎臓は六六六台、昭和四十六年で一、五七五台でした。昭和四十六年当時、全国で腎不全・尿毒症による死亡者数は一万人から一万二千人といわれた。その内もし人工腎臓治療を受けられれば半数は生き残れたであろうといわれた。

人工腎臓台数と透析患者数

（一九六六年 昭和四十三年八月）

一〇五台 二一五名

（一九七〇年 昭和四十五年三月）

三三五台 五一四名

（一九七〇年 昭和四十五年十二月）

六六六台 九四九名（六六六台という

のは人工腎臓を必要とする患者の約五分の一である。）

透析医療機関ではなんらかの患者の選択を行わざるを得ませんでした。社会保険本人が優先され、世帯の柱となる患者が選ばれ、結果として男性が圧倒的に多くなりました。また大阪で昭和四十六年十二月に透析専門病院が一切広告もせず所在地さえ知らずに開院していました。所在地がわかれば患者が押しかけて人工腎臓を奪い合い、混乱がおこるので内密に開業していたという現在では信じられない事があったそうです。

こうした状況下で、医療費を捻出するために貯金を使い果し、退職金を前借りし、家や土地を売り払い、生活保護を受ける（生活保護になれば医療費は無料）

ために離婚し、また医療費が続かず、退院して自らの命を断っていく患者がいたり悲劇的な状況でした。

この様な情勢の中、各地で透析患者による患者会が発足していました。

そうして一九七一年（昭和四十六年）

六月に全腎協が結成されました。結成の後すぐに、厚生省が要求した腎疾患対策関連予算を実現するよう求めて連日、国会請願やデモ行進を続けた。全腎協結成一年たらずの昭和四十七年には人工腎臓を五力年計画で増設し、身体障害者福祉法にもとづく更生医療（育成医療）の適用が実現したことは画期的であり、貧血や具合の悪い中での行動はまさに、患者の命をかけた戦いの成果でありました。

北海道では昭和五十二年三月六日、札幌医師会館において、各地で透析患者会を結成していた札幌、苫小牧、室蘭、函館、留萌、旭川、北見、釧路の八地区代表者四十名が参加して道腎協結成準備会が開催されました。

道内での各地域の透析療法・食事療法の実態や患者会活動の様子等の情報交換

や透析施設偏在の問題の解消や透析医療保障制度の活動を目的に結集しました。

昭和五十二年十月一日、札幌市の「サッ

ポロハイツ」において、会長細川哲夫氏、事務局長阿部隆氏、総務・会計担当留目英生氏が役員として選出され、全腎協の小林事務局長をお迎えして、全道7ブロック会員百四十六名で道腎協が正式に結成されました。

現在の道腎協は、二十一ブロック（会員三千五百名）と全国的に見ても大組織となりました。

道腎協組織は全国の都府県腎協と違う所は、各県腎協は、各病院患者会単位で県腎協に参加するのに対して、道腎協は、本道の面積の広大さゆえに、各地方ブロックの形態は、多様であります。周辺の市町村単位の患者会の集合体の各ブロック、市単位のブロック、または市に一つしか透析施設しなく、一病院患者会だけのブロックと様々な活動状態です。特に本道は、透析施設は大きな市町村にしかなく片道七十km、二時間かけて通院しなければならぬ患者さんも多数います。結

成以来、透析施設偏在の解消を活動して、徐々に解決していますが、まだ不十分な所もあります。

道腎協は、結成以来「腎疾患総合対策」腎臓病の予防・治療・研究・社会復帰を活動の柱として活動してきました。

行政に要望活動する為や患者さんの実態を把握し、今後の会活動の指針にする為に、数回の実態調査をしました。また、昭和五十九年北海道に腎登録バンク開設を記念して、北海道一周腎提供登録者拡大キャラバンを、二班に分けて、全道二千kmを走破しました。

そして、週に三回も通院する為の通院交通費助成運動、平成二年のJ・R・航空運賃割引、平成六年の有料道路割引の内訳障害者への適用等、すべて息の長い活動の成果です。

結成二十年を迎えられるのも、家族・医療スタッフ、医療器械の進歩等、様々な方に支えられての事と思わなければなりません。改めて感謝申し上げます。

トピックス

- ・腎バンク開設(10. 1) 東北・東海・北陸・近畿・中国
- ・「北海道腎移植をすすめる会」発足(北大泌尿器科)(10. 1)
- ・夜間透析加算・腎移植健保適用、人工腎時間制・給食費の保険適用導入(2. 1)

●道腎協結成(10. 1)

昭和52年5月8日、月寒公民館において、札幌腎臓病患者友の会第4回総会議案書にのっとり、「道腎協発足を目的とした、設立準備委員会」が決議されたが、それ以前の52年3月6日、札幌、苫小牧、室蘭、函館、留萌、旭川、北見、釧路の8地区の集まり、代表40名が参加して開催され、会長細川哲夫氏、事務局長阿部隆氏、総務担当会計留日英生氏が役員候補として選出されていた。52年10月1日、サッポロハイツにて、全腎協の小林事務局長をお迎えして、設立委員会を開催、旭川を除く7ブロックの参同を得、道腎協を設立する。その後、帯広ブロックが参加し、8ブロックで運営される。



◀第1回幹事会、左から、留萌・古田氏、釧路・東氏、上田氏、北見・石川氏、谷沢氏、長谷川氏

患者数の変遷

- 全国患者総数 22,579人
- 全道患者総数 1,077人
- 全道会員数 146人

1977

●昭和52年度

- ブロック数：7ブロック
- 会費：道腎協 50円/1ヵ月
全腎協 100円/1ヵ月
- 事務局：札幌市豊平区水車町1丁目78番地留日氏宅



道腎協
設立あいさつ

会長 細川哲夫

(要旨)

昨年7月に永年の懸案でありました道腎協設立も各地区の会員各位の熱意により実現しました。資料の収集、整備、各団体との連絡業務等内部体制作りを進めて参りましたが、これらの作業は主としてボランティアの方々のご協力、ご支援を頂き体制作りを進めて参りました。現在の経済不況に加え保険制度の改訂により「社会復帰」に不可欠な夜間透析についても変化をきたす恐れがあり、患者の増加に伴う器械不足等諸問題は多々あります。

これらに対処する為、全腎協、難病連等各団体と連絡をもつ各地域の会員と共によりよい透析環境作り而努力して行きましょう。(どうじん創刊号より)

一年のあゆみ

3月6日 道腎協結成準備会

腎移植の映画と講演(札幌医師会館)

10月1日 北海道腎臓病患者連絡協議会(道腎協)結成

10月17日 道腎協、北海道難病連に加盟

3月5日 道腎協、第一回幹事会開催

3月14日 機関紙「どうじん」創刊

社会のうごき

8月7日 有珠山が噴火

小有珠の沈下、新火口出現、被害

総額三百億円を超える

9月28日 日本赤軍、日航機をハイジャック

日本人の平均寿命、この年世界一に

トピックス

- ・小中学生の毎年検尿義務化となる。(10.)
- ・登録者から初めて死体腎移植(2.5)

●通院交通費助成について

道東3地区通院交通費助成の請願は道議会の採択を得、民生部予算に組み込まれるが、知事査定ではねられ、もう一步だった。その後も民生部に働きかけ全道労協からも強力な後押しの約束をいただき、民生部も次の議会には上程するとの前向きな姿勢。また市町村でも各個に通院交通費の助成を実施計画している所もある。

(どうじん2号・第1回総会報告より)

●各ブロック活動報告より

- ・函館：患者数約20名、道南独自のアンケートでは、一番の問題は「社会復帰」
- ・札幌：総会はレクリエーションを兼ねて樽前ハイランドで開催、その他、春・秋のソフトボール大会。初年度会活動に協力の患者31名が再入会。
- ・室蘭：不安定な社会状況下で、安定した透析と雇用の安定のためにはどうしたらいいか。ある会社では従業員4,000名中200名の首切りが実施されようとしており身障者も入っている。地域ブ

患者数の変遷

- 全国患者総数 27,048人
- 全道患者総数 1,143人
- 全道会員数 254人

1978

●昭和53年度

●第1回定期総会開催

●ブロック数：8ブロック(帯広参加)

帯広参加、小樽が札幌ブロックに参加、北見ブロックに石田医院入会

ロックとして、道腎協に協力しつつも社会復帰などの基本線を活動に反映させたい。登別・伊達にも窓口を。

- ・苫小牧：患者の親睦をはかるのが主目的、組織率は100%、レクリエーションは年2回、交通費助成では2～3の市町村に交渉中。
 - ・留萌：留萌市にベッド数増を要望、結果夜間透析実施はじまる。十勝岳温泉にて研修会の予定。
 - ・釧路：野外レクリエーション実施。6.5にはみなどライオンズクラブより103名の腎提供登録を受ける。通院交通費では白糠町に陳情。
 - ・帯広：花見、サマービクニック、ソフトボール大会等実施。会員相互の親睦を深め正・準会員53名となる。
- (どうじん2号より)

一年のあゆみ

- 4月1日 患者と家族の全国集会参加
- 4月16日 第2回幹事会開催
- 6月18日 第1回定期総会開催
- 7月10日 道内透析患者の実態調査(回答数五八七名)
- 11月7日 道に道東3地区より通院交通費助成の請願書
- 11月24日 道内の通院交通費の実態調査実施
- 12月23日 道議会にて道東3地区の通院交通費助成の請願採択

社会のうねり

- 4月2日 第9回全国高校バレーボール選抜大会女子決勝で、妹背牛商初優勝
- 5月20日 成田空港開港
- 10月24日 有珠山の泥流温泉街を襲う
- 11月21日 球界、「江川」で大騒動
- 1月13日 初の大学共通一次試験

トピックス

- ・国立佐倉病院腎センターオープン（4. 1）
- ・角膜及び腎臓移植に関する法律成立（12. 11）
- ・内部障害者にも乗用車物品税免除適用実施（3. 25）

●第2回定期総会

道内7ブロックから代表45名参加。「北海道腎移植をすすめる会」の平野先生（北大）道難病相談員の清水先生、北海道難病連の伊藤事務局長をお迎えし、お話及び講演をたまわった。平野先生からは「血液透析」と「腎移植」は車の両輪との講演。清水先生からは、北海道の「すみずみ」の意見が「ひとつの人格」にまとまるには組織がなければならないとお話。伊藤事務局長からは「医療福祉の切り捨てを許さない運動をともに」とのお話。その後「装着型人工腎臓JAK-2」についての映画上映。

●通院交通費助成要求の全道決起集会



・第2回定期総会から

患者数の変遷

- 全国患者総数 32,331人
- 全道患者総数 1,377人
- 全道会員数 337人

1979

●昭和54年度

●ブロック数：10ブロック（旭川・稚内参加）

一年のあゆみ

- 6月17日 第2回定期総会
- 腎移植に関する講習会
- 10月10日 機関紙「どうじん」2号発行
- 10月17日 通院交通費で三者会談（全道労協・難病連・道腎協）
- 11月28日 通院交通費で記者クラブ会見
- 12月1日 北海道ブロック会議
- 12月2日 通院交通費助成全道決起集会
- 12月4日 通院交通費で要望書提出
- 1月17日 道議会にて通院交通費の要望書採択

社会のうごき

- 4月8日 地方選で保守・中道圧勝
- 道知事選堂垣内尚弘氏三選
- 5月4日 英国に初の女性首相（サッチャー）
- 5月10日 「北海道スモン訴訟」患者側全面勝訴
- 9月10日 豊平川、25年ぶりサケそ上
- 10月7日 総選挙で自民完敗
- 10月19日 台風20号、道南・道東、被害大

トピックス

・道腎協新会長に岩崎薫氏就任
(6. 29)

●通院交通費助成の実施について

昭和53年度から継続して道へ申請中であった透析患者通院交通費助成の600万円の予算化が決まり7.1より実施された。対象者は道内在住の透析患者で身体障害者手帳取得の者、自分の在住する市町村に透析施設がなく、他の市町村に通院している者で生活保護を受けていないこと。年2回の交付で交通手段は、国鉄・バス・自家用車等にかかわらず補助されることとなった。また所得により補助金額に違いがある。

●「北海道透析白書」完成 (6. 15)

故・細川道腎協会長は、白書の「序」において、血液透析は、患者の社会復帰の手段として重要な役割を果たしている。患者の社会復帰にあたっては家族はもちろんのこと、職場など周囲の人々の深い理解を必要としているが、今日の社会状況は患者を理解し受け入れる体制にないとし、透析を受けながらの社会復帰のために、社会の理解を得ることが必要と考え、第1部では腎臓の働き・人工腎臓・日常管理について、第2部では北海道の患者が置かれている実態調査の報告という構成で白書を編したことを記している。



通院交通費等で尽力された故留目英生事務局長

患者数の変遷

- 全国患者総数 36,397人
- 全道患者総数 1,549人
- 全道会員数 535人

1980

●昭和55年度

●ブロック数：10ブロック

●会費：道腎協 100円／1カ月 (10. 1)

●事務局移転：札幌市中央区北3条20丁目
北3条内科クリニックビル (1月)

●実態調査報告より

- ①回答者：587人 (男365人、女220人、性別無記入2人) 道内患者約1,400人中、回答率42%
- ②透析施設・通院時間等：通院に往復2時間以上が22%、最高7時間の患者もいた。都市集中型の透析施設偏在が顕著。通院時間や交通費の問題が示され、身近なところに施設をとという希望多い。
- ③透析回数：週3回が約65%
- ④経済状態：生活維持者は本人約37%、本人と家族25%、家族約35%、収入源が、月給自営約43%、年金40%、生活保護6%。年収が100万以下の者が過半数を超えた。生活状況については、普通という回答が約57%である半面、困っているが約30%にのぼり、透析に関連して生活状況が苦しくなっている人が多くいることを示している。

その他、食事療法や身体状態、結婚、生きがい、腎移植等についても、患者の切実な声が寄せられた。

一年のあゆみ

- 5月2日 健保改悪阻止ハガキ行動
- 6月15日 「北海道透析白書」完成
- 6月29日 第3回定期総会
- 7月1日 道が腎機能障害者通院交通費の補助事業実施
- 10月10日 「どうじん」3号発行

社会のこぼれ

- 9月25日 秘境知床に横断道
- 10月21日 長島茂雄巨人軍監督辞任
- 12月8日 J・レノン射殺される

トピックス

- ・診療報酬の改定（6・1）
- ・人工腎臓の技術料と材料費の分離
- ・外来透析時の給食費の別途設定
- ・夜間透析加算の大幅な引き上げ
- ・腎臓移植手術料の大幅引き上げ
- ・生体腎死体腎提供者費用の保険給付
- ・ニプロ社の新ダイアライザー「NACシリーズ」で眼障害が多発170名（3・12）被害

●第4回定期総会（5・23、24）

初の地方開催として、旭川において、「腎不全を考える集い」旭川大会とともに開かれる。

●第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施（11・18）

腎臓移植については、会員の関心も強く、これまでの運動で腎臓提供者登録制度・腎移植法の制定・移植手術費用の公費負担・



・初の地方開催を旭川で(第4回定期総会)

患者数の変遷

- 全国患者総数 42,223人
- 全道患者総数 1,896人
- 全道会員数 575人

1981

●昭和56年度

- ブロック数：11ブロック（小樽後志地方単独ブロックになり参加）

腎臓提供者（生体腎、死体腎とも）の費用の保険給付等が実現し、その体制は大きく拡充されてきた。しかし死体腎移植の普及にとって、腎提供登録者の絶対的不足が最大の問題となっている。このキャンペーンでは、45都道府県組織が取り組み、道内では5ヶ所・150人が参加した。これにより、登録者は増加した。マスコミの報道もあり、それまでの月間登録者20人前後から、いきなり150人に増加しその後も増え続けるという具体的成果を収めた。

（「どうじん」4号より）



・札幌大通りでの腎キャンペーン風景

一年のあゆみ

5月23日 第4回定期総会

5月24日 「腎不全を考える集い」旭川大会

開催

11月18日 第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施

開催

社会のこぼれ

7月19日 モスクワで変則オリンピック開催

8月10日 国鉄赤字40線廃止へ 道内では8

線

8月17日 東北・上越新幹線が東京駅へ乗り

入れ

10月1日 国鉄石勝線開業

10月16日 北炭夕張新鉱でガス突出事故

死者・行方不明93人

11月10日 雄冬岬トンネル開通 40日で巻き

出し部崩壊

5月～10月 道内低温、8月豪雨で大被害

3月21日 浦河沖で大地震、浦河震度6

トピックス

- ・米国から空輸された死体腎移植が室蘭日鋼記念病院で行われ、米国からの腎臓移植としては道内で第1号、第2号となる(9. 22. 29)
- ・CAPD「携帯透析」実用化へ(道新)(11. 16)
- ・全国初の専用施設「北海道難病センター」がオープン(1. 12)
- ・腎移植オンラインシステムがスタート(国立佐倉病院)(3. 23)
- ・ハガキで大蔵省・厚生省へ抗議運動(1月)
社会保障費の大幅削減また透析医療の立て替え払い制、入院食事代患者負担等が検討されていることに対し、全腎協とともに実施

●初の道議会請願議会へ提出(12. 3)

- ・請願6項目
- (1)北海道腎バンクを設立する事
- (2)腎提供登録者を増やすための広報活動を強めると共に腎臓移植手術実施医療機関、地方腎移植センターの整備をすすめて下さい。
- (3)腎疾患総合対策を確立させるために、患者代表も含めた対策委員会を設置することを検討して下さい。
- (4)腎不全患者が安心して透析治療を継続できるよう保障して下さい。
- (5)道内の地方公務員採用基準を緩和して腎臓病疾患の雇用を促進して下さい。
- (6)他市町以外の透析病院へ通院している透析患者への通院交通助成費の増額を検討して下さい。

患者数の変遷

- 全国患者総数 47,978人
- 全道患者総数 2,070人
- 全道会員数 914人

1982

●昭和57年度

●ブロック数：11ブロック

全腎協国会請願署名数(全道) 11,466名

●第5回定期総会(5. 29) 特別記念医療講演会(5. 30)

第5回総会后、翌日、札幌市教育文化会館において、結成5周年を記念し特別記念医療講演会が行われた。約200名が参集し、本道で初めて死体腎移植に成功した日鋼記念病院の西村院長、安田副院長、スタッフの乙部技師、さらに米国より昨年5月より死体腎が送られて来ているが、この運動に努力されている来道中の本道出身のUCLAロサンゼルス大学病院の岩城裕一助教授に特別に講演をお願いした。いずれも、移植を願う熱心な患者・家族に多大な感銘を与える貴重な講演会となった。

(「どうじん」4号より)



札幌市教育文化会館にて(第5回定期総会)

一年のあゆみ

- 5月29日 第5回定期総会開催
- 5月30日 5周年記念医療講演
- 8月1日 「どうじん」創立5周年4号
- 9月19日 第2回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 11月 道に「腎疾患対策委員会」の設置を要望
- 12月3日 初の道議会請願議会へ提出
- 1月1日 「どうじん」5号発行

社会のつぎ

- 4月2日 フォークランド紛争勃発
- 6月12日 82北海道博覧会
- 8月18日 参院全国区に比例代表制
- 10月12日 札幌西友ストア史上空前の食中毒7千人
- 3月11日 日本近距離航空機・中標津で墜落

トピックス

- ・透析の軽量化に成功、わずか4.5kg歩きながら使用でき「家庭用」へ道開く為の実用化を目指す(岩手新報)(9.6)
- ・厚生省、脳死に関する研究班発足(9.10)
- ・欧米で腹膜透析(CAPD)の利用者が増加中(日経メディカル)(1.9)
- ・医療費改訂で透析医療費再び引き下げ。在宅でのCAPDの健保適用が実現(3.1)

●全腎協、厚生大臣に健康保険改悪案について要望書(10月)

道腎協、全腎協ともに連絡を取り合い、全国患者家族団体連絡会の一員として、同会の医療制度改悪声明、厚生大臣申し入れ(8.22)に参加。これは8.18に林厚生大臣が現10割給付の保険本人給付率を8割に引き上げる等の改革案を検討していることを明らかにしたことによる。

●健康保険改悪にハガキで抗議運動(11.1)

全腎協では全会員に反対のハガキを内閣総理大臣、厚生大臣あてに出すことこの呼びかけを決定し、道腎協でも早急に全会員に呼びかけた。



故中村信夫事務局長(左)と伊藤たてお氏(道難病連事務局長)

患者数の変遷

- 全国患者総数 53,017人
- 全道患者総数 2,194人
- 全道会員数 1,210人

1983

●昭和58年度

- ブロック数：11ブロック
- 全腎協国会請願署名数：(全道)19,306名
- 事務局移転
 - ・札幌市中央区北3条西20丁目佐々木ビル(6月)
 - ・札幌市中央区北7条西8丁目岩本薬局2F(2月)

●健康保険制度改革案を厚生省が社会保険審議会、社会保障審議会に対し諮問(1.15)

〈主な内容〉

被用者保険本人の給付率(現行10割)をS61年度から8割にし、それまでは9割とする。現行5万1千円の高額療養費自己負担限度額を5万4千円とする(低所得者は外来3万9千円、入院3万円)。また「高度医療、特別のサービスの提供」については一部保険を適用するとしながら、差額徴収を認め拡大していく考えを新たに示した。

この改革案は、S57年8月の当初案からみれば、入院時食事代の一部負担、ビタミン剤、かぜ薬、胃薬等の保険給付除外といった案は全腎協など患者団体の強い反対もあって中止されたが、これまでの入院時の一部負担金以外は自己負担のなかった被用者保険本人も1割の負担という案で、1割負担分は更生医療でというが、透析のある道内指定機関は46ヶ所のみで全道各地の会員からも、「改悪されると透析患者はどうなるのだ。」という問い合わせ相次ぐ。

社会のこぼれ

- 4月11日 道知事選、横路孝弘氏当選
- 5月26日 秋田沖M7.7の地震
- 津波・死者不明者104人
- 7月15日 免田栄被告無罪
- 9月1日 大韓航空ボーイング747
- サハリン沖で消息たつ、269人
- 白糠線廃止
- 10月22日 サラエボ五輪、北沢選手がスケートで銀メダル
- 2月10日

1年のめざす

- 6月1日 「どうじん」6号発行
- 6月7日 道に腎移植センターの設置を要望
- 7月3日 第6回定期総会開催
- 9月18日 第3回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン(全道8ブロック11市町)
- 9月19日 自民党道支部に腎移植センター設置を要望
- 10月29日 東北ブロック会議に初参加
- 11月1日 「どうじん」7号発行
- 3月25日 健保改悪にハガキで抗議運動
- 「どうじん」8号発行

トピックス

- ・腎移植を受けた患者同士の夫婦の間に世界初の健康な赤ちゃん誕生（5・13）
- ・健康保険法が成立（10・1実施）
健保本人10割→9割
高額療養費の長期高額疾病に人工透析・血友病が指定（限度額1万円）（8・7）
- ・道、人工透析と血友病の限度額1万円に◎を適用（10・1）
- ・身体障害者福祉法改正（10・1）
- ・「北海道腎移植センター」市立札幌病院に開設（11・1）
- ・中央社会保険医療協議会が診療報酬改定を答申（3月改定）
人工腎臓の時間区分導入（4h未満1300点、4h以上1800点等）（1・31）

◎「北海道腎臓バンク」正式発足腎移植センターとも提携（5・28）

財団法人「北海道腎臓バンク」（理事長・武井正直北洋相互銀行社長）は、5月28日道知事の設立許可を受け、正式に発足した。同バンクは10万人を目標に腎臓提供者の登録を進める一方、厚生省の事業として札幌に開設予定の「北海道腎移植センター」と提携し、人工透析患者への腎移植を推進したいとしており、広く一般に協力を呼びかけている。腎臓バンクは、賛助会員の年会費（法人2万円、個人1万円）により運営され、これまで集った募金は、3千2百万円。主な事業は死後腎臓提供者の登録推進。4月末で3,602人が登録を終えているが、適合性の問題があるため、実際に移植に利

患者数の変遷

- 全国患者総数 59,811人
- 全道患者総数 2,347人
- 全道会員数 1,334人

1984

●昭和59年度

- ブロック数：13ブロック（網走オホーツク会・中湧別参加）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）8,156名
- 事務局移転 札幌市中央区北1条西10丁目 ダイアパレス北1条605号（12月）

用できるのは5千人の登録者に対し年間1件程度。同バンクは、本年度中に6千人、将来は10万人を目標に登録者を増やしたい考えた。（「どうじん」9号より）

●第7回定期総会



●腎提供登録者拡大全道一斉キャラバンキャンペーン実施（7・24）

道腎移植センターと（財）道腎バンクの開設を記念して、全道民に理解と協力を呼びかけた。結果約200人がドナーに新登録。（特集は本誌P101を!!）

一年のあゆみ

社説のしるし

- 6月10日 第7回定期総会
- 7月10日 「どうじん」9号発行
- 7月24日 腎提供登録者拡大全道一周キャラバンキャンペーン隊出発（3泊4日）
- 9月16日 第4回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 12月20日 「どうじん」10号発行
- 3月～12月 グリコ・森永事件
道内水稲大豊作
- 11月1日 お札衣がえ（千円・五千円・一万円）聖徳太子↓福沢・新渡戸 伊藤博文↓夏目漱石
レーガン大統領再選
- 3月10日 ロス五輪・冬季サラエボ五輪開催
- 3月11日 青函トンネル本貫貫通
ゴルバチョフ政権誕生

トピックス

- ・「国民年金」「厚生年金」法改正案が成立（S61年4月実施）（4. 24）
 - ①年金の一元化・基礎年金制度導入
 - ②20歳前障害への基礎年金支給
 - ③事後重症5年制限廃止（S60年7月から）
- ・厚生省、脳死に関する研究班が判定基準をまとめる（12. 6）

●初の「腎疾患総合対策」シンポジウム開催（10. 27）

テーマを「本道に於ける腎臓移植をどう推進するか」にしぼり、札幌市・北海道教育会館にて5氏のパネラーそれぞれの立場から意見をお聞きした。

- ・透析医の立場から渡井幾男先生（北海道透析医会会長・渡井医院院長）
- ・移植医の立場から平野哲夫先生（市立札幌病院腎センター）
- ・行政機関の立場から厚谷純吉先生（北海道衛生部保健予防課・医師）
- ・移植を望む透析患者の立場から岩崎薫氏（道腎協会会長）
- ・移植された立場から佐藤道美氏（道腎協幹事・室蘭腎友会事務局長）

●全道一斉腎登録街頭キャンペーン・全国一斉腎登録街頭キャンペーン実施（道腎協独自で年2回開催）

患者数の変遷

- 全国患者総数 66,310人
- 全道患者総数 2,771人
- 全道会員数 1,621人

1985

●昭和60年度

●ブロック数：15ブロック（夕張参加、岩見沢2病院単独で参加）

●全腎協国会請願署名数：（全道）19,301名



腎キャンペーンに参加した釧路の皆さん

一年のあゆみ

- 5月1日 「どうじん」11号発行
- 5月25日 専門委員会制発足
- 5月26日 第8回定期総会
- 6月16日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 9月23日 第5回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 10月27日 初の「腎疾患総合対策」シンポジウム（札幌市）
- 11月1日 道内患者の実態調査実施
- 2月25日 医療関係者との懇談会（札幌）
- 3月1日 「どうじん」12号発行
- 3月 知事候補に公開質問状

社会の出来事

- 4月1日 「電話」「たはこ」民営化
- 5月12日 三菱南大夕張、ガス爆発
- 8月12日 日航ジャンボ機墜落520人死亡4人が奇跡の生還
- 11月20日 米ソ、核不戦
- 1月28日 スペースシャトル・チャレンジャー大爆発、7人死亡
- 2月25日 フィリピン、マルコス政権崩壊

トピックス

- ・透析点数2年連続の引き下げ
(4時間未満1,300→1,250点
4時間以上1,800→1,700点)
夜間透析加算、食事加算は点数アップ、CAPD加温器給付(4.1)
- ・厚生省に「腎不全対策推進会議」が発足、委員に全腎協小林事務局長(6.5)
- ・患者運動の全国組織「日本患者・家族団体連絡協議会」(略称・日患連JPC)結成(6.15)
- ・厚生省、初の「腎移植推進月間」を設定(10.1~31)

●道内腎臓病患者実態調査報告 (どうじん15号) 発行

これは、S55年発行「北海道透析白書」での調査結果との比較を交えながら、道内透析患者の置かれている現状を報告したものである。

- ①回答者：1,535人(男838人、女633人、性別無記入64人)道内患者約3,000人中回答率約51%
- ②年齢層：16歳～64歳約87%、65歳以上前回25人、今回67人
- ③透析施設、通院等：通院に往復2時間以上は6.8%と減少。通院交通費に月1万円以上が24.8%、交通費助成を受けていないが50%、各市町村のバス、タクシーチケットの補助等知らずにいる人もいると考えられるが通院交通費助成制度の充実が求められている。

患者数の変遷

- 全国患者総数 73,537人
- 全道患者総数 3,130人
- 全道会員数 1,848人

1986

●昭和61年度

- ブロック数：16ブロック(滝川参加)
- 全腎協国会請願署名数：(全道)18,233名

④透析による収入の変化で生活が苦しくなったが約38%、何らかの賃金カットありが約半数。夜間透析の少なさ、受け入れ先の無理解による社会復帰困難の回答は減る傾向にあるが、病気により退職転職した人が約26%。また年収100万円以下の人は前回約30%から今回27.7%(426人)で、いまだ生活状態の苦しい人が多くいる。

その他透析導入前が糖尿病が6.3%あり今後増加が予想される。生きがい、腎移植、家庭透析、長期透析に伴う合併症、公的制度の受益状況、年金受給に関して等調査報告された。

●マスコミとの連携による腎提供登録キャンペーン活動さかんに！

- ・道新3回にわたり全面を使っての腎提供呼びかけ掲載
- ・NHK道支局のTVキャンペーン
- ・STVの腎臓病を考える医療講演会
- ・音楽コンサートでのキャンペーン(室蘭)

一年のめざめ

- 5月1日 「どうじん」13号発行
- 5月25日 第9回定期総会
- 6月15日 全道一斉提供登録街頭キャンペーン
- 8月10日 「どうじん」14号発行
- 10月5日 第6回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 3月10日 「どうじん」15号発行(道内腎患者実態調査報告)

社会のいしき

- 4月26日 チェルノブイリ原発事故
- 7月7日 衆参同日選挙自民圧勝
- 9月6日 土井たか子、社会党委員長に
- 9月8日 梅田義光被告無罪
円高加速、超低金利へ

トピックス

- ・臨床工学士法成立（5. 25）
テクニシャンに国家資格が与えられて透析医療の安全確保へ
- ・全腎協、JRなどの運賃割引の国会請願（衆・参採決）（9. 2）
- ・日医・生命倫理懇談会、最終報告で、脳死・臓器移植認める（1. 12）
- ・診療報酬改定（2. 25）
人工腎臓の水処理加算新設
移植点数増額

●道腎協会旗完成

かねてから完成を待たれていた道腎協会旗が第23回幹事会で検討され完成した。全腎協のマークに北海道をデザインしたマークを中心に、上部に「道腎協」、下部にフルネームが入り道腎協の行事あるごとに掲げることとなった。



- 道腎協結成10周年記念誌
「どうじん」発刊（12. 30）
反響つづく！！

患者数の変遷

- 全国患者総数 80,553人
- 全道患者総数 3,437人
- 全道会員数 1,975人

1987

●昭和62年度

- ブロック数：17ブロック（江別参加）
- 会費：道腎協 200円／1か月に
- 全腎協国会請願署名数：（全道）21,019名
- 北海道腎登録者数：9,395名
- 事務局移転：「ダイアパレス」305号から303号へ

●道腎協含む5団体、 道議会へ署名運動展開（2. 2）

第23回幹事会決定に基づき、道立江差、羽幌、町立中標津病院に透析施設設置と、JR、航空、有料道路での割引の2点について、署名2万余名を持って内部障害者5団体（人工肛門、心臓病、低肺機能及び道腎協と難病連）は道議会議長に請願書を提出。同時に内部障害者割引問題で、JRほか6社に検討を要請。



●藤井道議会議長(右から3番目)に請願する代表者たち

11月6日 竹下新内閣

9月30日 大乃国・千代の富士・北勝海

7月31日 道産子3横綱時代

4月1日 JRスタート

4月1日 釧路湿原が国立公園に

社会のこぼれ

3月10日 「どうじん」19号発行

2月2日 道議会へJR・航空・有料道路割引、道立江差・羽幌・町立中標津病院新設請願署名運動展開

1月28日 道透析医会に転院問題で要望書提出

1月10日 「どうじん」18号発行

12月30日 道腎協10周年記念誌「どうじん」発刊

11月10日 「どうじん」17号発行

10月4日 第7回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン

5月31日 第10回定期総会
(第10回総会記念特別講演)

5月10日 「どうじん」16号発行

一年のあゆみ

トピックス

- ・マル優廃止（4. 1）
- ・フィリピン生体腎移植問題で全腎協会長、談話発表（7. 13）
- ・全腎協会員5万人突破（8月）
- ・腎バンク全国17ヶ所に（登録者総数21万人越える）（11. 6）

●道腎協結成10周年記念 第11回定期総会開催 （5. 22）

10周年記念事業として、臓器移植基金を10万円づつ、東京女子医大・太田和夫先生と北海道腎バンクに贈呈。また道腎協結成創成時に会の発展に尽くされた方々（故・留日英生氏ほか12名）と長期にわたり腎臓病の救命と治療に尽力された医師（北海道透析医会会長・渡井幾男先生ほか49名様）に感謝状と記念品贈呈。

その後、特別記念講演として太田和夫先生による「腎移植の過去・現在・未来」と題する講演が行われた。



総会宣言をする故佐藤 昇氏(室蘭)

患者数の変遷

- 全国患者総数 83,221人
- 全道患者総数 3,659人
- 全道会員数 2,096人

1988

●昭和63年度

- ブロック数：19ブロック（浦河、根室参加）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）18,160名
- 北海道腎登録者数：10,107名
- 事務局移転：札幌市北区北35条西5丁目 AMS南麻生308
- 道腎協企画旅行（第1回）

九州の旅、22名参加（5. 10）

ハワイの旅、11名参加（12. 6）

- 「身体障害者旅客運賃割引制度の内部障害者への適応拡大に関する請願書」の道議会での主旨説明（6. 29）

S62. 2. 2実施の道議会議長への請願に続き、岩崎会長が道議会（生活福祉委員会）で請願書の趣旨説明を行う。請願は7. 19、道議会本会議で採択された。



JR運賃割引で主旨説明をする岩崎 薫会長

社会のこぼれ

- 7月20日 新千歳空港開港
- 12月19・24日 十勝岳噴火
- 1月7日 昭和から平成へ、昭和天皇死去

一年のあゆみ

- 5月10日 「どうじん」20号10周年記念号発行
- 5月22日 道腎協結成記念第11回定期総会、記念特別講演「腎移植の過去・現在・未来」東京女子医大・太田和夫先生
- 7月19日 JR運賃割引制度導入の請願道議会で採択
- 8月10日 「どうじん」21号発行
- 10月9日 第8回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン（全道四百名参加）
- 10月29日 第25回ブロック会議開催
- 10月30日 医療講演会
- 12月10日 「どうじん」22号発行
- 3月10日 「どうじん」23号発行

トピックス

- ・血液が不適合の人同志でやりとりする腎臓移植の成功が全国で相次ぐ(朝日新聞)(7. 11)
- ・厚生省、「移植コーディネーター」を21国立病院に配置(秋)
- ・「脳死臨調」設置法が衆議院で可決成立(12. 1)
- ・腎性貧血に朗報!! エリスロポエチンを中央薬事審議会を承認を答申(12. 20)
- ・死体腎、2病院で同時移植
市立札幌病院腎移植センターは心臓死患者から取り出した腎臓を他の2人の腎臓病患者に市立札幌病院と札幌北極病院で同時移植することに成功。心臓死者からの腎移植は道内で9年ぶり3例目(12. 27)

●JR・航空運賃の内部障害者割引適用!!

長年にわたる運動が実り、JRでは第1種身体障害者(腎機能障害者はこれにあたる)が、介護者とともに乗車する場合、普



JR北海道神木副課長と岩崎会長

患者数の変遷

- 全国患者総数 88,534人
- 全道患者総数 3,921人
- 全道会員数 2,260人

1989

●平成元年度

- ブロック数：20ブロック(千歳参加)
- 全腎協国会請願署名数：(全道)17,215名
- 北海道腎登録者数：10,754名(4月)
- 道腎協企画旅行：沖縄の旅

通・定期・回数乗車券及び普通急行券が介護者とも50%割引。単独の場合は100kmを超えて乗車する時50%割引。航空運賃は、国内線に限り満12歳以上の第1種身体障害者が介護者とともに、または単独で利用する場合に、介護者とも普通大人片道運賃の25%が割引。(H2. 2. 1より)

●第1回道腎協役員研修会

全腎協副会長・小関修氏を招いて「患者活動について」の2時間の講演



JR北海道本社にお礼に

一年のあゆみ

- 4月8・9日 第26回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」24号発行
- 5月28日 第12回定期総会(記念講演)
- 6月10日 「どうじん」25号発行
- 6月29日 JR北海道本社に役員5名が請願行動
- 9月10日 「どうじん」26号発行
- 9月16・17日 第27回ブロック会議
- 9月17日 第1回役員研修会
- 10月8日 第9回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 12月10日 「どうじん」27号発行
- 2月1日 JR・航空運賃割引適用
- 3月10日 「どうじん」28号発行

社会のつぎ

- 4月1日 消費税3%スタート
- 6月4日 天安門事件
- 7月23日 参院選で与野党逆転
- 9月29日 道内最古の北炭坑内炭鉱閉山
- 11月9日 ベルリンの壁崩壊
- 2月5日 ゴルバチョフ共産党独裁放棄

トピックス

- ・医療費改定、休日透析加算、CAPD大幅に点数加算、老人医療に定額払い制導入（4. 1）
- ・エリスロポエチン健保適用（4. 20）
- ・市立札幌病院で死体腎移植（8. 5）
- ・道立羽幌病院に透析施設設置人工透析治療始まる（12. 18）
- ・運転免許試験場（道内6カ所）への腎登録カード設置が実現（1. 31）

●第13回定期総会（5. 27）



総会后、長期透析者の増加に伴い切実な問題になってきている合併症（アルミニウム骨症、腎性貧血の改善、二次性副甲状腺機能亢進症等）について、腎友会滝川クリニック院長、菅原剛太郎先生による記念講演が行われた。

患者数の変遷

- 全国患者総数103,296人
- 全道患者総数 4,534人
- 全道会員数 2,419人

1990

●平成2年度

- ブロック数：20ブロック
- 会費：全腎協 130円／1カ月（10月～）
- 全腎協会会請願署名数：（全道）24,529名
- 北海道腎登録者数：11,479名
- 道腎協企画旅行：四国の旅（全腎協四国総会参加を兼ねて）

- 有料道路通行料金身体障害者割引制度に対する内部障害者への適用拡大を要望する請願署名運動実施。全道で5,641名の署名。（8月）

11月、全腎協による国会請願は不採択となった。

●道腎協、初の文化講演会

「日本腎の物差し、外国人の物差し」と題し、国学院女子短期大学、倉島齊先生に日本人と外国人の違いをユーモアたっぷりにお話いただき、楽しい一時を過ごす。

●国際障害者年10周年記念行事にも協力

国際障害者年日本推進協議会と連携し、12月9日を障害者の日に制定し休日とする国会請願に協力。

一年のあゆみ

社会のつぎ

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 4月7日 | 第28回ブロック会議 |
| 5月10日 | 「どうじん」29号発行 |
| 5月27日 | 第13回定期総会（記念講演） |
| 6月10日 | 「どうじん」30号発行 |
| 9月10日 | 「どうじん」31号発行 |
| 10月7日 | 第10回全国一斉腎バンク登録者拡
大街頭キャンペーン |
| 10月27日 | 第29回ブロック会議 |
| 10月28日 | 文化講演会 |
| 12月10日 | 「どうじん」32号発行 |
| 1月17日 | 北海道腎臓バンクへ臓器移植募金
箱より5万円を寄付 |
| 1月17日 | 運転免許試験場に腎登録カード設
置の要請 |
| 3月10日 | 「どうじん」33号発行 |
| 8月28日 | コンスタンチン君、サハリンから
やけどの治療で札幌医大へ。 |
| 10月3日 | ドイツ統一（45年ぶり） |
| 11月20日 | サッチャー辞任・メイジャー就任
（英） |
| 3月2日 | 札幌冬季ユニバーシアード大会 |

トピックス

- ・富良野協会病院透析施設設置（4月）
- ・雲仙普賢岳で大火砕流発生、会員宅に被害（6. 3）
- ・北海道臓器移植連絡協議会を結成（発起入会に出席～北大、札幌大、旭医をはじめ道内の主な救急医療機関の医師）（7. 15）
- ・老人保健法「改正」案成立、患者一部負担引き上げ等（9. 12）
- ・腎移植者の全国組織がスタート（10. 26）
- ・雲仙普賢岳の災害に際し全国の会員
- ・家族から約1,809万円のカンパ集まる（10. 31）
- ・全腎協、国会請願に合わせて有料道路通行料金身体障害者割引制度に対する内部障害者などへの適用拡大を要望する請願も実施（3. 26）

●第14回定期総会



新役員を紹介

患者数の変遷

- 全国患者総数 116,303人
- 全道患者総数 5,363人
- 全道会員数 2,544人

1991

●平成3年度

- ブロック数：21ブロック（深川参加）
- 会費：全腎協 150円／1カ月（10月）
- 全腎協国会請願署名数：（全道） 23,386名
- 北海道腎登録者数：12,061名
全国腎登録者数：331,654名

●全腎協第22回総会北海道大会

（H. 4. 5月開催）実行委員会開催

- ・道腎協独自（8. 24・25）
宿泊会場・総会会場の下見等
- ・全腎協との第1回実行委員会（11. 24）
具体的な役割分担、総会の概要の説明等



●会員拡大PR版「どうじん」発行

組織強化に向けて道内全透析患者にPR版配布。

「あなたは20万円払えましたか？」と呼びかけ。

社会のこぼれ

- 5月14日 信楽高原鉄道で衝突事故
- 6月3日 雲仙普賢岳で火砕流
- 6月15日 ビナトッポ火山噴火
- 8月2日 湾岸戦争勃発
- 12月21日 ソ連邦消滅、共同体誕生
- 2月14日 佐川事件、佐藤前社長逮捕
- 3月15日 カンボジア国連統治始動
- 3月17日 道央道で186台玉突き事故

一年のあゆみ

- 4月13～14日 第30回ブロック会議・専門委員会
- 5月10日 「どうじん」34号発行
- 5月10日 「どうじん」臨時号発行（PR版）
- 6月2日 第14回定期総会
- 6月10日 「どうじん」35号発行
- 6月10日 「どうじん」36号発行
- 9月10日 「どうじん」37号発行
- 10月6日 第11回全国一斉腎バンク登録者拡大街頭キャンペーン
- 11月9日 第31回ブロック会議
- 12月10日 「どうじん」37号発行
- 3月10日 「どうじん」38号発行（PR版）

トピックス

- ・医療費改定により透析患者の検査料を定額化、検査の減少や合併症の早期発見等に不安増大(4. 1)
- ・医療法改正案国会審議入り、全腎協反対運動展開(4. 9)
- ・検査の定額化が一部改善される。(合併症の患者などに対応して)(5. 28)
- ・透析患者へのアルミゲルの投与が「禁忌」となった(特例除く)(6月)
- ・社会保険庁、無年金者の一部を救済(3. 8)

●第22回全腎協総会

北海道大会開催(5. 24)

札幌市教育文化会館にて、全国から1,177名が春の北海道に集う!

午前中は議事、午後からは6分科会に分れて活発な論議が行なわれた。



札幌市教育文化会館に全国から1,177名が

患者数の変遷

- 全国患者総数123,926人
- 全道患者総数 5,514人
- 全道会員数 2,678人

1992

●平成4年度

- ブロック数: 21ブロック
- 全腎協国会請願署名数: (全道) 26,131名
- 北海道腎登録者数: 12,777名
- 全国腎登録者数: 368,522名

●会員・家族による資料袋詰め(5. 23)



●前日の定山溪ホテルでの交流会。636名出席



社会のつどい

- 4月22日 北方領土とビザなし交流
- 6月17日 P K O法で自衛隊カンボジアへ
- 7月 バルセロナ五輪
- 9月12日 毛利さん、宇宙に
- 9月28日 三井芦別鉱閉山
- 11月3日 クリントン、米大統領に
- 1月15日 釧路沖地震

一年のあゆみ

- 4月25〜26日 第32回ブロック会議
- 5月23日 全腎協総会交流会(定山溪)
- 5月24日 第22回全腎協総会札幌市
- 6月10日 「どうじん」39号発行
- 7月19日 第15回定期総会(医療講演)
- 8月10日 「どうじん」40号発行
- 10月4日 第12回全国一斉腎バンク登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月10日 「どうじん」41号発行
- 10月24〜25日 第33回ブロック会議
- 2月10日 「どうじん」42号発行
- 3月30日 北海道腎バンクに臓器移植基金募金箱から15万円寄附

トピックス

- ・室蘭腎友会の活動により教育庁、学校検尿システムの高度化(尿異常発見児の追跡管理)を予算化(4・1)
- ・福祉8法の改定により福祉行政の権限が、従来の都道府県から市町村に移行(4・1)
- ・香川県患者会の活動により特別養護老人ホームに透析患者が入所。全腎協、要介護透析患者対策の緊急性を訴え厚生省に陳情(6・3)
- ・道南西沖地震、道腎協会員への被害はなし(7・12)
- ・道立江差病院透析開始(8月)
- ・中標津町立病院で透析開始(9・20)
- ・厚生大臣より道腎協に対して業績を認定され感謝状(10・21)
- ・「11・15街頭大行動」に道難病連各支部・各疾病部会から38名参加、道腎協からは廣岡達夫副会長が参加、健康保険制度(給食・室料・薬剤・治療材料の自己負担導入)改正反対のJPCの署名をたずさえてデモを行い厚生省と交渉(11・15)
- ・JPC、給食費患者負担反対の署名運動(11・16)

●札幌手稲運転免許試験場で腎登録キャンペーン!!

8月～11月、第1日曜日

平野先生(腎移植センター)、岩崎会長、堀井事務局長、宮崎事務局長(腎バンク)松浦氏(キドニー会)

患者数の変遷

- 全国患者総数134,298人
- 全道患者総数 6,170人
- 全道会員数 2,813人

1993

●平成5年度

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 26,254名
- 北海道腎登録者数：13,515名
- 全国腎登録者数：414,434名

●第16回道腎協定期総会(6・6)

15周年記念シンポジウム「腎臓病を考える集い」



●腎登録啓発パネル展(10・15～17) 札幌地下街にて



一年のあゆみ

4月24～25日 第34回ブロック会議

5月10日 「どうじん」43号発行

6月6日 第16回定期総会

15周年記念シンポジウム

6月10日 「どうじん」44号発行

8月 札幌手稲運転免許試験場で腎登録

9月10日 キャンペーン月1回開始

「どうじん」45号発行

10月10日 第13回全国一斉腎バンク登録者拡大

街頭キャンペーン

10月15～17日 札幌地下街腎登録啓発パネル

展

10月30～31日 第35回ブロック会議役員研修

会

12月10日 「どうじん」46号発行

3月10日 「どうじん」47号発行

3月10日 「どうじん」臨時号発行

3月29日 北海道腎バンクへ臓器移植募金

箱から10万円の寄付

社会のこぼれ

5月15日 Jリーグ開幕

7月12日 北海道南西沖地震(奥尻)

6月9日 皇太子、御結婚

トピックス

- ・外来透析の診療報酬（処置料と薬剤の一部）が包括化される。HDFが初めて保険収載（4. 1）
- ・全腎協、健保改悪法案阻止の座り込み～衆議院議員第1議員会館前（6. 6）
- ・東京都西新宿診療所で透析患者4名劇症肝炎で死亡（H6. 9. 5～26）H7. 3. 29には院内感染と判明
- ・入院給食費の自己負担（1日600円）導入。通院透析時の給食費は現行通り（10. 1）
- ・有料道路料金、内部障害者も50%割引に（10. 1）
- ・阪神大震災で、透析患者も建物の倒壊や火災などで20人以上の死者、多数が負傷したり家をなくす。透析を受けられず死亡した患者はいなかったが透析施設の多くが透析不能となり、大阪などの施設が臨時透析受け入れる（1. 17）
- ・阪神大震災支援募金、道腎協で181万9,436円（3. 4）

●総会前日、交流会 佐藤文俊社中の演奏



佐藤文俊社中による三味線の演奏も

患者数の変遷

- 全国患者総数 143,709人
- 全道患者総数 6,557人
- 全道会員数 3,017人

1994

●平成6年度

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）30,097名
- 北海道腎登録者数：14,364名
- 全国腎登録者数：456,651名

●第17回定期総会『室蘭大会』 約130名参加、室蘭市障害者福祉センターにて



ちょっと深呼吸



歓迎のあいさつをする佐藤利國室蘭地方腎友会会長

- 10月4日 北海道東方沖地震M8.1
- 1月17日 阪神大震災、死者五千五百二人
- 3月20日 地下鉄「サリン」事件
- 平成の出来騒動

社会のこぼれ

- 12月10日 「どうじん」51号発行
- 3月10日 「どうじん」52号発行
- 3月30日 道腎バンクに平成6年度分の募金箱より68,218円寄附
- 10月15～16日 第37回ブロック会議
- 10月15～16日 札幌地下街腎登録啓発パネル展

- 10月2日 全国一斉腎バンク登録者拡大街頭キャンペーン
- 9月11日 全道一斉腎バンク登録者拡大街頭キャンペーン
- 9月10日 「どうじん」50号発行
- 6月10日 「どうじん」49号発行
- 6月5日 第17回総会（室蘭）・記念講演
- 6月4日 総会記念交流会
- 5月10日 「どうじん」48号発行
- 4月23～24日 第36回ブロック会議

一年のあゆみ

トピックス

- ・新しいネットワーク「社団法人日本腎臓移植ネットワーク」稼働（4月）
- ・「日本腎臓移植ネットワーク」東北北海道ブロックセンター発足（7.15）
- ・災害時の透析確保に向けて～全腎協、岩手でシンポジウム開催（9.17）
- ・全腎協、透析医療費の定額制撤廃を透析医会、厚生省等に要望（9月）
- ・全腎協、災害対策マニュアルの作成と防災の手引き作成、全国に配布（11月）
- ・米国、ニューヨークタイムズ、死亡率が日本、欧州の倍である事実ふれ、米国の透析を批判（12.4）
- ・政府の障害者対策推進本部は、2002年度までに障害者施策を整備する「障害者プランナーノーマライゼーション7か年戦略」を策定（12.18）

- “愛は地球を救う”
& 腎登録キャンペーン
道腎協と札幌腎友会共催
STV24時間チャリティー（8.27）



札幌の事務局のある喫茶クインテス前で

患者数の変遷

- 全国患者総数 154,413人
- 全道患者総数 7,105人
- 全道会員数 3,183人

1995

● 平成7年度

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）32,344名
- 北海道腎登録者数：14,930名
全国腎登録者数：485,631名
- 道腎協企画旅行
伊豆大島・箱根、横浜と古都鎌倉の旅（6.14）



- 第18回定期総会
『釧路大会』
136名参加、
釧路市障害学習
センター



- 前日交流会、
乾杯！

上田 弘氏による乾杯

一年のあゆみ

- 4月20～21日 第38回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」53号発行
- 6月3日 総会記念交流会
- 6月4日 第18回定期総会（釧路）
医療講演会

6月10日 「どうじん」54号発行

7月30日 医療講演会―難連全道集会にて
入院給食費自己負担の医療助成に
ついて、道知事、道議会議長あて
に陳情行動

8月24日 札幌地下街、腎登録啓発パネ
ル展示（80名の腎登録者を得
る）

9月7～10日 全道一斉腎バンク登録者拡大街頭
キャンペーン

9月10日 「どうじん」55号発行

9月10日 第39回ブロック会議役員研修会

10月21日 「どうじん」56号発行

12月10日 「どうじん」57号発行（PR版）

社会のうごき

- 4月9日 堀達也氏、北海道知事に
- 2月10日 豊浜トンネル崩落事故

トピックス

- ・診療報酬改定、透析の時間区分に「5時間」が新設（4. 1）
- ・透析アミロイド症の原因のB2ミクログロブリンを除去する吸着型血液浄化器「リクセル」が保険適用（6. 1）
- ・北九州市で重度心身障害者医療助成制度（特）に所得制限導入。所得制限額は扶養家族なしの場合本人所得4,524,000円、これによる本人負担額は透析では最高1万円、他は保険本人1割負担（7. 1）
- ・臓器提供意思表示カード配布開始（厚生省・日本臓器移植ネットワーク作成）（7月）
- ・入院給食費1日600円から760円に（10. 1）
- ・全腎協、社団法人に（9. 26）
- ・福岡県、北九州市腎友会で通院介護支援事業開始（10. 1）
- ・「介護保険法」案反対でJPC、患者家族集会開く（11. 10）

●道議会議長に請願（10. 1）

入院給食費一部負担の無料化を求める請願署名全道で4万7千人越える。



札幌の6名が代表して道議会に請願

患者数の変遷

- 全国患者総数167,192人
- 全道患者総数 7,585人
- 全道会員数 3,393人

1996

●平成8年度

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道） 34,030名
- 北海道腎登録者数：15,399名
全国腎登録者数：512,140名

- 第19回定期総会『函館大会』
150名参加、湯の川温泉花びしホテル



臓器提供意思表示カード

7月 全国でO-157集団感染

社会のうごき

12月10日 「どうじん」61号発行
3月10日 「どうじん」62号発行
3月27日 腎バンクへ臓器移植基金募金箱より7万円寄付

10月26～27日 第41回ブロック会議、役員研修会

10月1日 入院給食費の医療助成を求める請願署名、道議会議長に提出

9月15日 全腎協シンポジウム開催（札幌）

9月10日 「どうじん」60号発行
9月8日 全道一斉腎バンク登録者拡大街頭キャンペーン

8月4日 医療講演会―難連全道集会北見
6月10日 「どうじん」59号発行

5月25日 総会記念交流会
5月26日 第19回定期総会（函館）、記念講演

4月20～21日 第40回ブロック会議
5月10日 「どうじん」58号発行

一年のあゆみ

トピックス

- ・道立羽幌病院が夜間透析開始（4. 1）
- ・診療報酬改定、ダイアライザー価格引き下げ（4. 1）
- ・臓器移植法案成立、脳死移植に厳しい制約（6. 17）
- ・最長透析は30年に（日本透析医学会発表）（7月）
- ・公衆衛生審議会成人病難病対策部会難病対策専門委員会は報告書で治療研究事業（難病の医療費公費負担制度）に患者負担の導入を提案、重症度基準の導入も検討課題としていることを、JPC、全難連に要旨説明（7. 16）
- ・医療保険制度改革協議会は「21世紀の国民医療～良質な医療と皆保険制度確保への指針」をまとめた一医療提供では医療機関の機能分担・大病院の原則紹介制・入院期間の短縮等、医療保険では薬価基準の廃止・保険給付基準額制度の導入・定額払い制の拡大・高齢者医療保険制度の創設等（8. 29）
- ・健康保険法・老人保健法指向 保険本人2割の自己負担・高齢者通院1回に500円月4回負担等（9. 1）
- ・全腎協、1996年度透析患者実態調査まとまる一高齢・長期透析者の増加、要通院介助者は12.5%で家族に依存、生活できない低年金額等（9. 6）
- ・全国一斉腎キャンペーン、全道で5千枚の意思表示カード配布（10. 5）
- ・臓器移植法施行（10. 16）
- ・介護保険法案成立（12. 9）

患者数の変遷

- 全国患者総数 167,192人
- 全道患者総数 人
- 全道会員数 約3,700人

1997

●平成9年度

●ブロック数：21ブロック

●第20回定期総会『札幌大会』約220名参加、ホテルユニオン



前日交流会(定山溪ホテル鹿の湯にて)

一年のあゆみ

- 4月19～20日 第42回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」63号発行
- 5月24日 総会交流会
- 5月25日 第20回定期総会（札幌）記念講演
- 6月10日 「どうじん」64号発行
- 9月10日 「どうじん」65号発行
- 10月5日 全国一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月18～19日 第43回ブロック会議
- 10月19日 投資研修会
- 12月10日 「どうじん」66号発行

社会のこぼれ

- 4月1日 消費税5%に
- 4月23日 ベルギー公邸人質事件・ベルギー政府武装グループを制圧
- 5月8日 アイス新法成立
- 7月1日 香港、中国へ返還
- 8月31日 ダイアナ元妃（英）事故死
- 11月17日 拓銀、道内業務北洋銀行に譲渡
- 11月21日 山一証券、自主再建断念



ブロック活動

十勝地方腎友会

【設立】昭和47年5月
 【所在地】広尾郡大樹町
 岡崎由紀夫方
 【電話番号】
 【会員数】243名（平成9年9月現在）

昭和47年5月、十勝管内に於いて初めての透析治療が帯広協会病院で開始され、まもなく同病院内に現在の十勝地方腎友会の前身である「帯広人工腎臓友の会」が発足した。会長に八代洗氏が就任、会員は当時の透析患者数名であった。その後の昭和51年11月、帯広クリニックの開院で透析施設が帯広協会病院から帯広クリニックに移行、「帯広人工腎臓友の会」は帯広クリニックの透析患者会の名称として残され、昭和54年11月に「帯広クリニック腎友会」に改名された。

昭和52年10月、帯広クリニックの透析患者が中心となり「帯広腎友会」が発足。初代会長に梅津政一氏が就任、昭和56年度には「十勝地方腎友会」という名称も使われるようになった。

昭和59年6月、会長に新倉義太郎氏が就任、昭和58年度から休会状態であった会の再興と、全透析施設の加盟を目指した。その甲斐あって、昭和60年度には6施設全部が加盟、会員数は64名となった。

昭和61年6月、正式名称を「十勝地方腎臓病患者友の会」と定め、「十勝地方腎友会」を略称として通常使用するようになった。その後、透析患者数の増加と透析施設の増設に伴い、会は急激に発展を遂げた。

平成6年4月、規約大改正により、正式名称を「十勝地方腎友会」と改定、現会長の鈴木茂氏が会長に就任。平成8年度には会員数は241名と大幅に増大し、現在に至っている。



'96.4.28 第12回定期総会 岩崎会長を迎えて



'93.10.24 道東6地区交流会



歴代の資料、会誌・機関誌・会報など（'77～現在）

主な活動

- | | |
|---------|--|
| 昭和47・5 | 「帯広人工腎臓友の会」発足
(帯広協会病院内) |
| 昭和52・10 | 「帯広腎友会」発足(帯広クリニック内) 初代会長 梅津政一
・総会・役員会・観桜花見
・サマーピクニック
・ソフトボール大会
・国会請願署名・募金活動 |
| 昭和53・10 | 道東(釧路、北見、帯広)3地区腎友会の交流会参加を開始 |
| 昭和53・11 | 腎臓病患者の実態調査の実施 |
| 昭和53・12 | 会誌「腎友」の創刊(年2、3回) |
| 昭和59・6 | 「十勝地方腎臓病患者友の会」の発足(帯広西病院内)
・総会・代表者会議・花見会
・新年会・道東地区交流会
・国会請願署名・募金活動
・腎バンク街頭キャンペーン
・花火、メ飾り販売活動 |
| 昭和60・7 | 機関誌「花時計」の創刊(年1回) |
| 昭和61・6 | 「十勝地方腎臓病患者友の会」規約が成立(事務局長の配置) |
| 平成6・4 | 名称「十勝地方腎友会」に改定 |
| 平成6・10 | 機関誌「花時計」10周年記念号 |
| 平成7・8 | 会報「透析雑案」創刊月1回発行 |

苦小牧腎友会

【設 立】昭和50年1月(14名)

【所 在 地】苦小牧市
伊藤粹裕方

【会 員 数】150名

昭和50年(1975年)1月に市立病院、千秋医院の患者が登別に集まり患者の親睦、情報交換の場として会を作りました。最初は14名で「つくし会」としてスタートしました。同時に全腎協に加盟(一都道府県単位が原則であったが特例として認められた)しました。その後昭和52年に道腎協が発足し、その1ブロックとして加入しました。(廣岡会長談)

昭和63年には会員数123名となりましたがこの年、浦河患者会、平成元年千歳患者会誕生に伴い分離し、翌年には静内に病院が出来て会員が移動しました。現在は日高管内西側と白老町を含む東胆振の方が苦小牧市内の5ヶ所の病院で透析をしており、平成8年3月現在で患者数267名に対し会員数は150名です。昭和62年、市議会に陳情を行い成果として平成元年に市立病院の透析器械をコンピュータ付(除水量表示)に交換。重曹透析に変更。平成3年に土曜日透析開始となりました。平成3年にはタクシー通院透析患者の通院交通費のタクシー料金の助成を請願し採択されました。今年(平成8年)は白老町在住の30名程の方が透析しているとのことで白老町に透析施設の開設を要望しました。

平成5年に苦小牧腎友会と改称し、平成7年に結成20周年記念祝賀会を行い記念誌を発行しました。(平成8年9月)



'91年6月3日 平取ファミリーランドレクリエーション



'96年9月8日 苦小牧腎友会「ふれあい広場」にて



'95年9月10日 苦小牧腎友会、腎キャンペーン

主な活動

- 昭和62年市議会に陳情を行い平成元年、市立病院の透析器械をコンピュータ付(除水量表示)に交換、重曹透析に変更。
- 平成3年に土曜日透析開始
- 平成3年にタクシー通院透析患者の通院・交通費のタクシー料金の助成を請願、採択された。
- 平成7年に結成20周年記念祝賀会
- 平成9年、白老町に透析施設を要望中。
- その他の毎年の活動
1. レクリエーション
 2. 新年会
 3. 1月に定期総会
 4. 医療講演(平成3年より)
 5. 苦小牧市の「ふれあい広場」に参加し腎キャンペーン(平成4年より)
- 平成7年に結成20周年記念祝賀会を行い、記念誌発行

紋別地方腎友会

【設 立】昭和57年5月1日（6名）

【所 在 地】紋別郡遠軽町

井上茂方

【電話番号】

【会 員 数】27名（平成9年8月現在）

紋別地方に透析施設ができたのは、昭和57年2月上湧別町の曾我病院で4名の透析患者さんで始まったそうです。

それまでの透析患者さん達は、当時一番近い透析施設は北見市内の道立北見病院と石田医院（現在の北斗病院）の2ヶ所しかなく、透析を受けに北見まで長時間を掛けて通っていたとの事でした。

また、遠距離や交通の便が悪く通院できない患者さん達は入院を余儀なくされていたそうです。

私達透析患者の願いとして「自宅により近い所に透析施設がある」ことが望みでした。

そして現在は、上湧別町に曾我病院「昭和57年2月開設」・遠軽町に遠軽厚生病院「平成4年4月開設」・紋別市には曾我クリニック「平成4年11月開設」と道立紋別病院「平成6年11月開設」と紋別地方の透析施設は4ヶ所となり、通院に掛かる時間が少なくなりました。

紋別地方腎友会の前進は、曾我病院腎友会『患者会相互の親睦を深める』として昭和57年5月に結成し、57年度・58年度と北見ブロックの道立北見病院と石田医院の患者会と共に北見地方腎臓病患者連絡会として一緒に活動を行っていたそうです。

そして、60年度に北見ブロックから離れ、新たに紋別ブロック「曾我病院腎友会」として道腎協に承認を戴き活動を始め、63年度には曾我病院腎友会から紋別地方腎友会と名称を改め現在に至っておりますが平成元年から4年間あまり、当時の会長と事務局長が体調を崩し腎友会（道腎協）の活動に支障をきたしました。この間、事務局の後継者ができず4年あまり休会状態となっていました。

そして、平成4年には遠軽厚生病院、曾我クリニックと相次いで透析が始まり透析患者、会員が分散していきました。

分散していった会員の方々から腎友会の再開の呼びかけがあり、平成5年度から3病院の腎友会として活動を再開しました。

しかし、思うような活動ができず腎友会活動の難しさを思い知るばかりです。

活動としては、主に道腎協（全腎協）活動に基づき、腎友会活動を進めています。

腎友会内の活動として年2回程度、会員相互の親睦交流を中心にしております。

透析施設が遠軽町・上湧別町・紋別市と分散している中で未加入（高齢者）の患者さんに腎友会活動内容を理解して戴くのは大変難しい事もありますし、後継者の問題もあります。

これからも私たち患者会は、安心して透析生活を送れるよう、社会保険・福祉制度が後退される事のないように会員のみならず透析患者全員の問題として捉えて患者会活動を進めて行わなければならないと思います。

私も透析を始めて9年あまり、道腎協の結成当時の事は知る由もできませんが、当時の透析状況の中で道腎協結成に携わった方が少なくなったとお聞きしました。

そして、私たちの今があるのは道腎協結成にあたった方々が透析を受けながら運動を重ねてきたお陰だと思えます。



紋別地方腎友会
会 長 宮本 哲男



'95年10月1日(日)3病院親睦交流会
場 所 中湧別にて(すし店)



'85年5月(腎友会初期)
滝上町濁川公園にて
さくら草の中での記念撮影

主 な 活 動

昭和57・5	会員6名で曾我病院腎友会設立
昭和60・4	紋別ブロック(曾我病院腎友会)として道腎協に承認
昭和63・4	曾我病院腎友会から紋別地方腎友会に名称を改める
平成5・4	3病院の紋別地方腎友会として活動を再開し、現在にいたる

釧路地方腎友会

【設立】 発足 昭和51年11月26日 (16名) 結成 昭和52年10月1日

【所在地】 釧路市川北4-17

身体障害者福祉センター内

【電話番号】 (0154) 23-6687

【会員数】 260名

『釧路地方腎友会～その先駆者たち』

道腎協結成より先立つこと11カ月、昭和51年11月26日に釧路地方腎友会は市立釧路総合病院の透析患者16名で発足いたしました。

会が誕生したきっかけは、当時の透析は右も左もよくわからず、何を食えばいいのか、どうすれば元気になるのかと悩み苦しんでいた患者たちが、「話合い」「助け合い」「励まし合う」うちに結束し、『会を作ってお互いの生活を守る活動をしよう。』ということのできあがったそうです。

釧路地方腎友会を語るとき、次の3人の方の名前が頭に浮かんできます。

一人は『上田弘氏』、一人は『早坂要氏』、そしてもう一人は『水沢秀一氏』です。この3人の方が釧路地方腎友会の礎(いしずえ)を築いたのです。

『上田弘氏』は道腎協の副会長として昭和57年から活躍されているのでよくご存じのことと思います。が、釧路地方腎友会の会長・副会長を延べにして15年間にもわたりつとめてくださいました。現在は、釧路腎友相談役、道腎協副会長、難病連白糠音別支部事務局長としてばりばりはたらいておられます。

『早坂要氏』(故人)は、上田氏とともに会長・副会長・事務局長を歴任され、市への陳情、市民への啓蒙活動をはかり、さらに市議会に働きかけをおこない道内で初めて「通院交通費支給～釧路市民対象」を実現させたのです。残念ながら、既に帰らぬ人となりました。

『水沢秀一氏』(故人)は、前述のお二人と一緒に会をまとめられました。特に、会員の相談ごとを広い心で受けとめて解決に奔走し、多くの会員の意見の違いをうまく取りまとめるのにその力を発揮されました。氏もまた物故となりました。

今後さらに、これまで先人が築いた道を継続していくことが私たち現在の会員の仕事であろうと思います。



藻琴山登山のひとこま 頂上にて



秋の1泊旅行 根室車石の前で

主な活動

昭和52・2	外来透析者の食事について要望書提出
昭和52・4	市の「通院交通費」議会採択
昭和52・7・8	羅臼町・浜中町・白糠町・弟子屈町へ「通院交通費」陳情書提出
昭和53・10	PR誌「腎友」発行
昭和55・5	健保法改悪反対のハガキ行動開始
昭和57・4	夜間透析開始
昭和58・1	根室で透析開始
昭和59・5	道東15市町村に「適応拡大」の陳情書提出
昭和63・10	中標津町長へ透析病院開設の要望書提出
平成元・6	事務所開設交渉で市に訪問
平成2・4	身障センター内に事務所開設
平成3・4	市立病院患者会が人工透析に関する要望書提出
平成4・11	中標津病院開設の陳情行動
平成4・11	釧路市内通院交通費増額陳情行動
平成5・9	中標津町立病院で透析開始 (10人)
平成7・2	阪神大震災で被災した仲間 12万2913円

オホーツク腎友会

【設 立】昭和60年1月28日 (25名)

【所 在 地】網走市

佐々木保子方

【電話番号】

【会 員 数】56名

昭和60年1月28日にホテル友愛荘に於いて、石田医院・網走分院の患者25名参加で設立総会を開き、初代会長・小田島達夫氏の下、『患者全員加入』をモットーに年会費3,600円でスタートしました。

当時は、最小限の事務経費だけのスタートでしたので、まず財政源確保を重点に置き、赤い羽根共同募金会に対し、分配金の配分をお願いし、同年5月に申請書類(事業計画書、予算書等)を審査会へ提出し、翌年2月に共同募金会初団体組織(患者会)への分配適用となり、分配決定(毎年)に成りました。又、61年6月に花火を独自で仕入、袋詰めして販売し、財源の確保に頑張り、軌道に乗りました。

63年5月より網走厚生病院の患者も加入し、2施設で構成し、現在道腎協や全腎協と共に医療制度及び福祉制度改悪に反対する運動や、国会請願署名募金運動、腎臓バンク登録者拡大キャンペーンなどの活動と、腎友会独自の活動として、花見、日帰り旅行、忘年会、新年会などで患者間の親睦交流、道東六地区交流会、などの対外活動、ふれあい広場(斜里・網走)の参加、共同募金街頭運動などの地域活動、会報「流水」の発行、当会独自の『腎友会のしおり』を作って会員拡大に取り組んでいます。

最近では、共同募金会の街頭運動協力、平成9年広島県吉田総合病院の患者会との親善交流会を実施しました。

平成9年7月より、小清水町にも透析施設が増設され、現在3施設で会員56名の組織です。



第1回花見 '86年5月
友愛荘にて



新年会 '92年1月



腎バンクキャンペーン '94年9月

主な活動

昭和60・4 会報「流水」創刊以後年2回発行

年1回赤い羽根共同募金分配申請書提出・

街頭キャンペーン・花火販売・道東

五地区交流会・署名活動・募金活動

定期総会・勉強会・新年会・忘年会

観楓日帰旅行

その他の不定期活動

昭和61・6 赤い羽根共同募金分配金決定

平成1・3 タクシーチケット要請

平成2・2 身障者手帳変更(一種)

平成2・5 タクシーチケット「透析患者」に配布

平成3・12 厚生病院透析室増設(20床)

平成4・4 網走市人工透析通院交通費助成券交付

平成6・1 兵庫県南部地震災害義援金寄付

平成8・3 設立十周年記念祝賀パーティ

平成8・4 十周年記念誌「十年の歩み」発行

平成8・10 赤い羽根共同募金街頭運動参加

平成9・7 広島県吉田町吉田総合病院患者会と親善交流会開催

平成9・7 小清水町日赤病院で透析開始(器械2台)

平成9・9 広島県へ交流旅行実施

留萌地方水無人腎友会

【設立】昭和51年10月1日
 【所在地】留萌市寿町1丁目市立総合病院透析室内
 【電話番号】(01644) 2-1500
 【会員数】61名



'85年10月 羽幌で腎キャンペーン



'86年10月 腎キャンペーン

平成3年度留萌地方水無人腎友会総会



'91年4月 総会

主な活動

昭和50・4	留萌市立総合病院透析開始
昭和51・10	留萌地方水無人腎友会発足
昭和52・10	道腎協、全腎協に加盟
昭和53・4	外来患者の食事が出る様になる
昭和55・1	透析室、新館へ移動する
昭和55・1	透析機械コンピュータ付導入(8台)
昭和55・12	コイル型からフアイバー型導入
昭和57・4	留萌市心身障害者福祉団体連絡協議会に加盟
昭和58・6	留萌市社会福祉協議会に加盟
昭和59・10	院長に臨床工学士の常駐を口頭で要望する
昭和60・7	病院側に夜間透析の要望書を提出する
昭和60・11	旭川腎友会と交流会を実施する
昭和60・7	夜間透析開始
昭和61・7	旭川石田病院の患者会と合流でサクランボ狩りを実施
昭和61・7	透析室の体制改善を要望する
昭和62・12	道立羽幌病院に透析施設早期実現について中部3町村会員打合せ会議
昭和62・12	道立羽幌病院透析科早期実現に関する意見書を道知事道議会議長へ提出
昭和63・2	道立羽幌病院透析施設内部障害者に対する等級の改善要請について合同による請願運動の実施
平成2・12	道立羽幌病院人工透析開始
平成3・4	透析室の体制の充実を要望する
平成5・4	臨床工学士が常駐となる
平成6・5	透析器械の新機種導入(8台)
平成9・3	羽幌二部透析開始
平成9・4	透析医師2名常駐

北見地方腎友会

【設 立】昭和52年秋
【所 在 地】北見市
西木戸隆博方
【電話番号】
【会 員 数】120名

オホーツクの地で人工透析医療が始まったのは、北見でS47年11月より北見道立病院が最初でした。その後、S50年2月に、石田医院とその後5施設にて透析医療が行われるようになりました。

患者会は、S52年の秋に道立病院と石田医院に結成され、それぞれの施設により活動を行っていましたが、S56年度より北見ブロックとして共に活動をしてきました。S58年に「北見地方腎臓病患者連絡協議会」と名称をかえて活動に入りました（略「北見地方腎友会」）。

S60年より、石田医院、道立病院、千葉クリニックと北見を中心とした3施設にて「北見地方腎友会」の組織としました。

北見地方腎友会は、現在6施設の会員によって組織されています（患者数250人、うち会員は半数の120名です）。

活動は、結成当初は、ソフトボール、ボウリング、一泊バス旅行、花見等、病院のスタッフと共に患者の交流の場を設け、数多くの活動を行ってきました。

その後、網走、紋別と地域が広がるにつれ活動がしづらくなつたのと、昔の元気もなくなり、体力をともなう交流会も少なくなってきました。

透析医療が進み、長期透析者が多くなり、高齢者はもとより、若い人も合併症により、介護が必要になってくるなど、患者と共に家族を含めた患者会活動が重要視されてくると思います。それにともない行政に働きかける活動等幅広い活動が望まれて来ます。

今後は高齢者の患者会に対する理解を求める活動と、会員や患者その家族を含めて要求要望を把握して、むずかしい事ではありますが、みんなが納得のいく活動方針や計画をたてて、「1人はみんなのために、みんなは1人のために」を合言葉に活動をしていく事が重要でないかと思っています。



難病連全道集会 in 北見
('96・8・3~4)

主な活動

結成当初の活動

・ソフトボール・ボウリング・一泊バス旅行・花見等のレクリエーション

← 会員の高齢化に伴い交流会がなくなる

・花火販売（6年間）

現在の活動

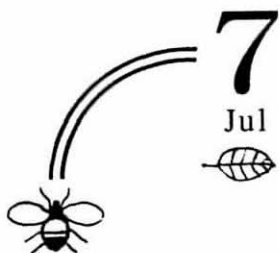
・主催の「健康まつり」や「ふれあい広場」に協賛し、腎キャンペーン

・難病連北見主催の「合同交流会」の参加

・道東6地区交流会の参加

・新年会

・総会



小樽後志地方腎友会

【設 立】

【所 在 地】小樽市花園2丁目7番10号
齊藤ダンススクール内

【電話番号】(0134)23-3484

【会 員 数】190名

小樽後志地方腎友会は、津田会長を中心にいろいろな活動をやってきました。病院の事務長で車もあり、健常者。“全腎協”“どうじん”“透析ライフ”の各施設へ配付、資料、署名など一手に引き受けてやってこられました。ところが突然の発病で入院する事になり、現会長の齊藤が幹事会で一任される事になり、親から離れた子供のようにウロウロ、ヨチヨチ、…なんとかみんなの力できりぬけようと考えました。

今は亡き工藤豊さんの指導のもと、事務所の設定、事務局の確立、腎友会会報、一年の計画、予算の作成など、ようやく会が運営して行く上での基本型が出来上がって行きました。

私達は患者の集まりです。いつ、どの様な出来事が起こるか分かりません。多くの会員の人達の手助けを得ながら、全腎協、道腎協のご指導のもと、行政、施設に、私達患者の声を聞いていただき、よりよい透析人生をすごしたいと思って居ります。そのためにも、未加入の患者の人達に会のことを説明し、会に入会してもらおうよう働きかけ、小樽後志地方腎友会が今よりもっともっと大きな組織になって行けるよう、がんばっていきたいと思って居ります。



'96年4月 総会



'88年 総会



'95年5月 武家屋敷知覧
南九州の旅より

主 な 活 動

平成6・ 「内部障害者にハイヤー券の補助」 請願署名運動

平成7・ 昨年に引き続き請願署名運動

平成8・ 宮崎第19回全腎協大会に独自でツアーを組み全員参加

平成8・ 4 「内部障害者ハイヤー券補助」の実施

平成8・ 9 小樽後志地方腎友会15周年祝賀会の開催

平成9・ 2 小樽市に要望書提出

1. 糖尿病腎不全が多くなっているが、その対策

2. 災害時に水と電気対策

3. 要介護の対策

以降懇談の場を作ってくれず

その他の活動

・ 小樽市手づくりの運河を中心に行われた「ポトフェスティバル」で、2年間バザーを行い、収益をあげ、献腎のピーアールを実施

・ 毎月1〜3回の幹事会

夕張腎臓病友の会

【設 立】

【所 在 地】夕張市

小野勇方

【電話番号】

【会 員 数】9名（平成9年9月現在）

平成7年8月24日(木)友の会員の研修旅行を支笏湖国民休暇村で行いました。当日は曇り空でしたが、AM9:00に夕張をたち、AM11:00に休暇村に着き、それから温泉に入り、昼食後、支笏湖湖畔で楽しく1日を過ごしました。

平成8年9月29日(日)友の会会員の研修を、夕張鹿鳴館の見学にしました。当日は晴天に恵まれ、AM11:00に鹿鳴館前に会員と、スタッフの方々が集合し、それから館内を見学しました。鹿鳴館は大正2年に建築された本格的な和風建物です。(夕張市が補修工事を完了し現在は一般公開をしています)見学をしたのち、全員でファミリースクール(ひまわり)で懇親会をして楽しく過ごしました。



1 2 3

7 8 9



腎キャンペーン



主 な 活 動

- 平成7・8 会員の研修旅行(支笏湖)
- 平成8・9 会員の研修旅行(夕張)
- 平成9・5 会員の花見夕張風知公園
- 平成9・5 市立病院にて、院長先生の勉強会
- 平成9・7 会員の研修旅行(平取温泉)

浦河地区腎友会

【設 立】昭和63年4月 苫小牧腎友会から
独立 (31名)

【所 在 地】浦河郡 渡辺寛方

【電話番号】

【会 員 数】79名



'85年6月 観桜会向別'ツリボリにて



▲'91年 浦河にて

◀'90年 ピスカリ館にて



'88年5月29日観桜会
三石ファミリアパークにて

主 な 活 動

昭和63

総会・観桜会・花火販売・国会
請願署名及び募金・観楓会・腎
バンクキャンペーン・新年会・
温泉旅行

平成元

懇談会(担当医師と役員)、送
別会、浦河赤十字病院の人工透
析施設に係る施設の拡充及び人
員増員に関する陳情書提出・看
護士2名増員・二部制実施(夜
間)ネフロン(会報)発行、他
は前年度と同じ

平成2・12

9日障害者の日に関する請願署
名、他は63年度と同じ

平成3

透析誕生日事業 他は63年度と
同じ

平成4・5・6

63年度と同じ

平成7

透析室完成19床他63年度と同じ
63年度と同じ

平成8

現在透析者数68名

平成9・2

深川腎友会

【設 立】平成元年7月16日 (21名)
【所 在 地】深川市5条6番10号深川市立総合
病院透析室内
【電話番号】(01642) 2-1101
【会 員 数】30名 (平成9年8月現在)

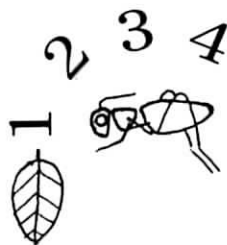
昭和60年、深川市には透析施設の病院がなく患者は旭川や滝川に通院しておりました。60年10月深川市在住の宮本優氏の呼びかけて腎臓病患者と家族の会を結成し宮本会長を先頭にその年の11月20日透析施設の建設を求める陳情を市議会に何度か行ったそうです。その結果、昭和61年3月4日の市議会で市立病院に透析施設を設立する事が採択され63年11月完成、12月5日から透析開始となりました。ベット数15床、医師・スタッフ10名、私も患者第一号として通院する事になった訳です。

現在患者は40名ほどで高齢者が多く寝たきりなど入院患者がたくさんおります。

現在年に数回の役員会と年一回の総会・請願署名と正月飾りや花火の販売を微力ながら行っており、親睦については日帰り温泉旅行、サクランボ狩り、新年会などスタッフの協力を得ながら患者と家族の親睦を図っております。会の結成当時は会員も活力があり研修会も何度か行い、平成3年の総会には道の岩崎会長を来賓としてお招きし又、その年の10月の研修会にも講師として講演していただき大変盛大の中に終り感激した思い出もあります。しかしながら現在、高齢者の多い中これ以上の活動は望めないのが現実です。若い年代のかたがたの会に対する認識を待つ外にありません。

厳しい福祉と医療の時代に向って全道の仲間と共に一步一步前進する事を念頭におき更に頑張りたいと思います。自分達のために。

記 会長 鈴木



'90年 忘年会 (日の出会館)



サクランボ狩り・深川 (川幡果実園)



サクランボ狩り・深川 (川幡果実園)

主な活動

- ・年4回の役員会
- ・年1回の総会、請願署名、正月飾り、花火の販売
- ・会員相互の親睦を計る為のレクリエーション (1月末に新年会、7月にサクランボ狩り、9月に日帰り旅行等)

道南腎臓病患者連絡協議会

【設立】昭和52年9月18日（61名）

【所在地】深堀町36番9号
渡辺内科・泌尿器科内

【電話番号】（0138）55-1185

【会員数】300名

道南腎協の歩み

昭和52年（1977年）当時、函館市では市立函館病院、協会病院、五稜郭病院、渡辺泌尿器科医院、平田泌尿器科医院の5施設で透析療法が行われていました。

腎友会活動はそれぞれの施設で独自の活動をしており、情報交換の機会も殆どなく全腎協という全国組織があることも知られていませんでした。

この頃『腎移植に関する映画と講演会』を医師会が主催するという情報を得て、患者家族が一堂に会するので、この機会に『透析患者の集会』を開こうと準備を始めました。

昭和52年（1977年）7月10日に映画と講演会が終了後、患者家族71名が残り函館地区に透析患者の連合組織を作ることが提案可決され、各施設から7名の発起人が選出され、組織の名称、規約の原案、役務分担、議案書などの作成に精力的に取り組みました。

昭和52年（1977年）9月18日、函館市体育館2階会議室で道南腎臓病患者連絡協議会の設立総会が開催され、ここに道南腎協が誕生しました。

現在300名の会員のなかで、函館市以外から通院している会員は、七飯町21名、上磯町14名、森町10名など約80名になります。

これら遠隔地から通院する会員の交通費の確保、要介護患者の問題など難しい問題が山積しています。前人が創設したこの道南腎協が益々その真価を問われる時代となります。



1977年6月29日 ▶
第20回総会役員



1977年6月29日
第20回道南腎協総会



'77年 道南腎協役員



'77年9月18日 道南腎協設立総会



'95年9月10日
第15回腎キャンペーン

主な活動

- ・年1回の定例総会
- ・昭和61年7月17日に道立江差病院事務長、
- ・松山支庁地方部長、江差町保健衛生課長に、
- ・松山地区に透析施設設置の要望後、道立江
- ・差病院に透析施設が設立。
- ・道腎協を通じ北海道庁に要望を続けたのち、
- ・7年後、平成5年8月から透析療法が開始。

腎友会滝川クリニック透析者の会

【設 立】昭和58年7月3日
 【所 在 地】滝川市有明町2丁目4-45
 腎友会滝川クリニック透析室内
 【電話番号】(0125) 24-2125
 【会 員 数】98名(平成9年5月現在)



腎バンクキャンペーン
 林滝川市長(写真左)の激励

私たちの透析者の会は、昭和58年7月3日、滝川市中央福祉センターを会場に「滝川クリニック透析者の会」が発足しました。当時のお話をお聞きますと、発足世話人代表であった馬飼野秋雄氏(初代会長)は、発足会は盛大に旗上げしようということで、来賓には北海道知事横路孝弘氏(代理として空知支庁より出席)、滝川市長吉岡清栄氏、道議会議員寺崎政朝氏、同じく鈴木誠二氏、滝川市社会福祉協議会会長水谷五一氏、道難病連空知地区会長児玉寛氏、市立三笠総合病院検査部長千葉栄市先生、市立三笠総合病院腎センター患者代表須合清道氏、滝川クリニック院長菅原剛太郎先生をお招き致しましたところ、快く御出席いただき、その上御祝辞を賜り会員そして家族、スタッフ一同大変感激したそうであります。また発足世話人代表の馬飼野秋雄氏は、来賓の挨拶に先立ち、会の発足の陰に菅原院長夫人菅原ムツミ様、スタッフの方々からの力強い励ましに勇気づけられましたと報告され、更に「この会は、私たち透析者が明るく快適な毎を送るために必要な勉強と、透析者間の親睦並びに治療して下さる先生や、スタッフのみなさんとの信頼関係を深めるためのサロンとなることを願っています」との挨拶があったとの記録が残っており、今なおこの精神は立派に受け継がれております。

当会の最大の特色は、総べての催しに院長先生始めスタッフのみなさんの絶大なるご協力があることです。



雨竜沼湿原登山



菅原剛太郎先生(滝川クリニック院長)
 にお話をしていたく

研
 修
 会

主 な 活 動

- ・ 研修会
- ・ 春期研修会
- ・ 秋期研修旅行
- ・ 国定公園雨竜沼湿原への登山
- ・ 滝川市健康まつりに協賛し腎バンクキャンペーン
- ・ ボウリング大会

室蘭地方腎友会

【設 立】昭和51年12月
 【所 在 地】室蘭市東町2丁目1番6号
 室蘭市障害者福祉総合センター内
 【電話番号】(0143)45-6849(FAX)0143-43-0139
 【会 員 数】230名



毎年9月第2日曜日の腎バンク登録者
 拡大街頭キャンペーンを行っています



活動資金を作るために毎年地域の祭典
 に2回出店しています



上・毎年、室蘭市主催の障害者
 ふれあい祭りに出店
 左・毎年1回、6施設合同バス
 レク



上・毎年5月に定期総会を
 開催

下・12月はクリスマスの季節



主 な 活 動

1. 上部組織活動及び他団体への協力
 - (1) 国会請願署名運動
 - (2) 腎バンク登録者拡大全国統一街頭キャン
 ペーン
 - (3) (財)北海道難病連への参加協力(全道集
 会等)
2. 組織活動
 - (1) 行政並びに各施設への陳情請願活動
 - (2) 医療講演会及び勉強会の開催
 - (3) 財政活動及び地域社会への参加協力活動
 (地域祭典・ふれあい祭)
 - (4) 一般市民への啓蒙活動(シンポジウム・
 フォーラム・市民健康講座等)
 - (5) 施設合同レクリエーション(バスレク・
 クリスマス)
 - (6) 機関紙「希望」発行

江別腎臓病患者会

- 【設 立】昭和63年初夏（7～8人）
【所 在 地】江別市野幌町代々木町81の6
 溪和会江別病院内透析室内
【電話番号】(011) 382-111
【会 員 数】55名

溪和会江別病院は昭和62年の開設です。それまでは江別市に透析施設が無かったため、江別市及び近郊の患者は札幌市内の施設へ通うしかありませんでした。

溪和会江別病院での透析者が増えてきた昭和63年札幌中央病院よりいらしていた田中稔氏を中心に施設は関係なく江別市及び近郊の方々が江別ブロックを作ろうとの話があり、昭和63年初夏の頃江別市福祉センターに有志が集まり江別ブロックの活動が始まりました。当時は7、8人くらいだったとのことでした。

当時、会員を集うために江別市役所に透析を受けている方を教えてほしいと問い合わせたところ、個人のプライバシーに関わることなので教えるわけにはいかないとのことだったため、会員それぞれが御近所や知人を通して透析を受けている方を教えてもらい江別市在住の方を中心に声をかけ合いました。

溪和会江別病院では独自の腎臓病患者会を作り溪和会江別病院腎臓病患者会として、総会と年1、2回程度の日帰り温泉旅行で患者同士の親睦を深めるための活動をしておりました。

平成2年11月に初代会長田中稔氏が亡くなり、江別ブロックの活動が困難になり会員で話し合った結果、それぞれの施設を通しての腎友会への加入へと変更しましたが、江別ブロックをそのまま引き継ぐ形としました。

今後、腎友会の意義をもっと多くの方に理解していただけるように役員一同精一杯頑張っております。



①



②



③

日帰り温泉旅行①②③



総会風景

主な活動

毎年の活動

・総会

・年1、2回程度の会員相互の温泉親睦旅行

その他の活動

・平成7年5月28日

「腎友会の意義について」の講演会

・平成8年4月14日

「腎移植について」の講演会開催

札幌腎臓病患者友の会

【設立】昭和49年7月14日（148名）

【所在地】札幌市東区北18東1丁目
喫茶クインテス内

【電話番号】（011）741-4578

【会員数】1,250名（平成9年度8月現）

昭和49年7月14日に、北海道社会福祉会館において、70人以上の参加者で設立総会を開き、10施設、148人の会員でスタートしました。初代会長は辻正延氏で、会費は年額500円でした。

最初のころは、医療や待遇に施設間格差があり、その情報交換や、福祉制度の利用の仕方などの情報を、会員に知らせるのが主な活動でした。

そして2度ほど休会になりそうになりながら、現在道腎協や全腎協や難病連と共に、健康保険制度及び福祉制度改悪に反対する運動や、国会請願署名募金運動、腎臓バンク登録者拡大キャンペーンなどの活動と、札幌腎友会独自の活動として、レクリエーション・炊事遠足・ボウリング大会などの親睦交流活動、機関紙「生きる仲間」の発行などにより、会員の拡大に取り組んでいます。又、最近では、平成7年に入院給食費への適用を、平成8年には福祉タクシー利用券の枚数増を目指し、札幌市へ陳情、請願等も行っております。現在、50施設約1,250人の会員をかかえる組織になりました。継続は力なりと申します。私たちも、今の医療や福祉が後退しないように活動を続けてまいります。



'87.6.21 第1回運動会(幌北小にて)



'90.9.2 '90モータープでの炊事遠足



'94.10.23 結成20周年記念パーティー



'94.10.23 結成20周年記念パーティー

主な活動

昭和49・10	「生きる仲間」創刊号発行
昭和52・12	札幌腎友会会員証発行（その後消滅）
昭和55・6	ジョイランド樽前にて、第7回定期総会開催
昭和57・3	札幌腎友会再建準備委員会設立
昭和60・10	札幌腎友会結成10周年記念式典開催、10周年記念誌発行
昭和63	札幌腎友会会旗公表
平成元・11	札幌腎友会15周年記念親睦パーティー開催
平成4・11	札幌腎友会青年部（サポテンの会）設立会議
平成6・10	札幌腎友会結成20周年記念祝賀パーティー開催、20周年記念誌発行
平成7・8	STV・24時間チャリティーに参加
平成8・9	福祉タクシー利用券の拡充を求め、請願
平成9・4	福祉タクシー利用券年間48枚から60枚に増える

旭川地方腎友会

【設 立】昭和58年5月24日 (34名)
【所 在 地】旭川市1条11丁目右8号腎友会ビル
(梯健生社内 大石 聡宛)
【電話番号】(01665) 24-2936
【会 員 数】389名 (平成9年9月現在)

昭和63年活動目標、規約の整備、役員と役員の業務分担を定め柳木一氏を会長として本格的にスタートしました。

旭川ブロックの各病院は、どの病院も病院患者会の結成には好意的で、石田病院は昭和43年に病院長の指導で患者会が設立しております。どこの透析病院も同じように開院まもなく患者会を発足しております。

昭和60年頃から、石田病院患者会の松山会長が、道腎協の下部組織として、地方患者会の結成を求めて各病院を回りました。岩崎道腎協会会長も、わざわざ旭川まで来て、病院長に挨拶など、環境作りに努力していただきました。松山氏は道腎協設立にも尽力した人で、1ブロック1病院の時代に石田病院の患者会長として活躍しておられたのです。その当時、透析病院として石田病院のほか、増田クリニック、旭川日赤そして道北病院の4病院(63年会結成時だてクリニックが増え5病院)ができたので、まとまって道腎協下部組織として行動することになりました。当時、石田病院患者会の設立は代表役員の、川添氏それに、現道腎協岩崎会長のご尽力があったからです。そしてその意志は、当時の語らいあった人々が、今の旭川地方腎友会の人脈へ、引き継がれて生きております。

現在、透析患者数が急増して、全国で17万人を突破し、危機感を持って取り組んでおります。役員一同、地方ブロックの責任を自覚し頑張りたい。



患者会の花見



平野先生と講演会



岩崎道腎協会長を囲んで



チャリティショー

主な活動

- 平成2・3 会発足記念チャリティーショー開催
- 平成3より 機関紙「旭腎報」の定期発行
- 平成3より 新年会・役員研修会の例年開催
- 平成3より 市立旭川病院に透析設備の運動(成功)
- 平成4より 講演会の開催
- 平成8・6 規約整備・運用規則と旅費規程の制定
- 平成9・3 会長による業務指定により、役員運用強化
婦人部新設

稚内地方腎友会

【設立】昭和55年4月1日(12名)
 【所在地】稚内市中央4丁目11番6号
 市立病院透析室内
 【電話番号】(0162)32-8134
 【会員数】44名



初代会長 故乙竹 隆七氏(中央)



しじみ狩り

主な活動

昭和55・9・14	親楓会(豊富温泉)
昭和55・10	全腎協の署名運動
昭和55・10・10	赤い羽根
昭和55・12	忘年会
昭和58・4末	会員数 20名
昭和61・6・1	総会開催
昭和61・6・15	腎登録キャンペーン
昭和62・5・31	総会開催
昭和63・8・28	天塩川へ「しじみ狩り」
昭和63・9・25	市主催のふれあい広場に参 加、キャンペーン
昭和63・10・9	腎登録キャンペーン
平成元・3・26	総会開催
平成6・7	臨時総会で新会長に足立氏 料理講習会「ふれあい広場」 に参加、腎キャンペーン
平成6・10	一泊旅行会(旭川天人閣温 泉)
平成7・7	勉強会開催(24名参加)

根室地方腎友会

【設 立】昭和63年6月19日 (17名)

【所 在 地】根室市
岡田悦子方

【電話番号】

【会 員 数】12名



腎提供登録キャンペーンも力を合わせて



主 な 活 動

昭和63・6 釧路腎友会より独立
昭和63・10 腎登録キャンペーン
平成元・4 総会開催

岩見沢腎友会

【設立】

【所在地】 樺戸郡

進藤繁幸方

【電話番号】

【会員数】 20名

8
Aug.



パットパットゴルフを



主な活動

- 昭和60 5. 1 以降
- 昭和61 4. 1 現在、七条クリニック腎友会(13名)
- 昭和61 岩見沢市立腎友会(5名)
- 昭和61 岩見沢の二施設から会員の登録
- 昭和61 6. 29 岩見沢市立腎友会が総会を開く
- 昭和62 6. 28 総会開催(結成4年目を迎えた)
- 昭和63 9. 26 昭和63・6・26 総会開催
- 昭和63 10. 9 秋季レクリエーション
- 平成元 7. 9 腎登録キャンペーン
- 平成元 9. 17 総会開催
- 平成元 9. 17 秋季レクリエーション(ウナイ湖・恵庭)
- 平成元 10. 8 腎登録キャンペーン
- 平成2 1. 28 新年会(岩見沢健康ランド)
- 平成3 10. 13 秋季レクリエーション(新十津川公園)

千歳腎友会

【設 立】昭和63年10月1日
 【所 在 地】千歳市
 江島寛方
 【電話番号】
 【会 員 数】32名（平成9年9月現在）

当初、昭和63年9月まで千歳市内に透析施設がなく、札幌、苫小牧などで患者個々に施設の有る所の患者会に入っていて、時々市内の患者だけで会合をもっていました。

当時は、市立病院に透析施設を作ってくれる様に陳情していましたが実現しませんでした。

しかし、市議会議員の方の紹介により、自衛隊札幌地区病院の井川欣一先生に出会い、千歳に透析施設として「井川医院」が昭和63年10月1日開院いたしました。

腎友会としては、サクランボ狩り、観楓会、花見、キャンペーン等々、患者相互の親睦に重点をおいております。

又、現在は腎友会の請願により、往復タクシー代の60%を通院費として市よりもらっています。

市内には、最近もう1つ施設が出来ました。



腎キャンペーン



主な活動

平成元・7・13	サクランボ狩り
平成元・10・8	腎移植キャンペーン
平成元・11・16	観楓会
平成2・11・24	観楓会
平成3・6・2	植樹祭
平成3・7・28	サクランボ狩り
平成3・11・9	観楓会
平成4・12・5	忘年会
平成5・1・3	新年会
平成5・4・18	旅行会
平成5・5・22	お花見
平成5・7・18	サクランボ狩り
平成6・7・24	サクランボ狩り
平成6・9・11	腎登録キャンペーン
平成6・11・5	観楓会
平成7・1・21	新年会
平成8・1・19	新年会
平成8・5・25	お花見
平成8・7・21	イチゴ狩り



座 談 会

座 談 会

道腎協結成以来の20年間の会活動の歩み

20年をふり返って



平成九年八月九日（土）札幌会館にて、道腎協活動の二十年の歴史と、透析医療の困難さを振り返りながら「道腎協結成二十周年記念誌」に寄せて座談会を開催しました。

道腎協の創成時代

司会 道腎協は結成されて二十周年を迎えました。本日は結成当時の役員そして道腎協事務局を陰で支えて頂いた方と、新しく、事務局長になった方にお集まり頂きまして、会結成当時の患者や道腎協の状況、そして道腎協の将来への展望等をお話して下さいる様お願いします。

上田 道腎協自体は、昭和五十二年十月に結成されているのですが、その年の三月に札幌の方に音頭を取って頂いて札幌で集合して会結成の準備会を開きました。

私は釧路にいまして、昭和五十一年の一月から透析を始めましたが、何月か忘れましたが透析を始めてすぐ、釧路で患

者会を結成しておりました。

その様な関係で、札幌での準備会にお呼びがかかったのかなと思います。実際に集まったのが、十二・三名いたでしようか。

ブロックがいくつあったのかはわかりません。七、八ではないかと思えます。

その時に、道腎協を結成しようという話になりました。ただ一カ所だけが保留するという形で、帰られましたけれど、他の所は道腎協を何とかやりましたよという事で始まりました。その頃の医療状況というのは、透析も順調にいったわけではなく、大変な時代でしたので皆さん、情報収集に躍起になっていました。「全道の仲間が手を取り合って情報交換をしよう」ということで、十月に結成



岩崎 薫 (札幌)

◎出席者（敬称略）

岩崎 薫（札幌） 道腎協会長

透析開始一九七七（昭和五十二年）年六月

上田 弘（釧路） 道腎協副会長

透析開始一九七六（昭和五十二年）年一月

鈴木 啓三（札幌） 道腎協副会長

透析開始一九七〇（昭和四十五年）年五月

佐藤 利國（室蘭） 道腎協副会長

透析開始一九八〇（昭和五十五年）年一月

澤内 繁雄（札幌） 道腎協事務局長

透析開始一九九二（平成四年）年十二月

村本 徳雄（札幌） 道腎協会計

透析開始一九七四（昭和四十九年）年四月

福原真理子（札幌） 道腎協元運営委員

透析開始一九七三（昭和四十八年）年十一月

留目 恭子（札幌） 故留目英生事務局長夫人

◎司会

堀井 和彦（札幌） 道腎協運営委員

透析開始一九七八（昭和五十三年）年十二月



上田 弘 (釧路)

され、確か、現在は二十一ブロックですが、七ブロックだったと思います。初代会長は細川哲夫さんで結成されたわけです。それ以後、私達地方の人間にとってみれば、中央の情報が欲しい、透析の状況や、また食べるのが一番大事なので食事についての情報が欲しかったわけです。当時は、あれダメ、これダメ、ラーメンを一杯食べれば死ぬぞという話をされながらの時代でしたので、そのへんのところを中央の方と話し合って情報を知りたいと思いました。特に、鈴木啓三さんには、個人的には情報を沢山いただいで助かりました。村本 私は昭和四十九年から岩見沢で透析を開始して、主治医が十一月に、札

幌で開院しましたので、十二月に札幌に来て、昭和五十年の四月からアフターケアに行き十二月に卒業して、昭和五十一年から札幌医大にアルバイトに行っていました。

当時は、ヘマトが低くて仕事で歩いていても、目まいがする状態の中で留目英生さんに患者会に顔を出すように言われた事が患者会へ関わるきっかけでした。

最初に留目さんが一生懸命やってくれたことが私の記憶にありますから、その当時の留目さんの真剣な気持ちが今の自分の患者会に対する気持ちを支えている一つになっています。

医療費自己負担の不安

福原 私はまだ学生で、昭和四十八年の十一月から透析を始めていたので昭和五十二年当時は、四年くらいいたっていたのですが、村本さんと同じで自分の体の調子もなかなかうまくいかないままで、学校へ行き、留目さんに声をかけていた

だいて、一生懸命動いてくださる姿を見て、何か手伝えることがあればと思います、顔だけ出していた状態でした。

昭和四十八年に透析に入った時は、両親が透析をするということはお金がかかるとのことだと、どこからか聞いていたんです。ところが昭和四十八年の十月一日から重度身体障害者医療助成制度が透析にも適用されました。つまりね。

それが適用になって一円もお金がかからないということ十九歳でしたが子供ながらにホッとしたり、両親も、お金を続けて透析を受けさせたいと思っていたみたいで、両親共々ホッとしたりということがありました。それが後から、先にもいろいろやっている方々のおかげだということがわかり、その当時、阿部隆さんと一緒に入院していましたが、その方が札幌腎友会を作らなければこれからはダメだというお話を聞いていたりしていたのでわからないながらも一生懸命やらなければならぬという感じがあったので、道腎協が出来た時も、これはすごいなあ

と大事なことだなあと思いました。

村本　そうですね。お金がかからないというのが患者として一番ホッとしましたね。

鈴木さんの場合は透析にお金を払っていたことを聞いて、その時代に私が透析をしていたなら、経済的に耐えられなかっただろうな、生きていられなかっただろうなと考えたことがあります。

事務局始動へ

司会　先程からお話を聞いていますと留目さんは当時の留目事務局長の時に実質的に事務局を運営されてご苦労されていると思いますがいかがでしょうか。

留目　昭和五十年に主人が透析する様になって、札幌北クリニックスの今先生にお世話になったのですが、その時に鈴木さんの話などを帰って来てからよく私に話してくれて、全身に傷だらけの男がいる、外シャントで、親・兄弟・皆んなで守っていて、年間二百万円もかかったな

どという話などよく聞かせてくれました。

会を作ることになったので自分は勤めているから、貴女手伝ってちょうだいと言われ、何か訳のわからないうちに、その当時ボランティアという言葉があったかどうか定かではありませんが。主人は今先生に「まあ十年は生きられない」と言われたのですが、「生きている間に人間らしく生きたいので一切自分のすることに文句を言うな」という様なことを言いました、私も若かったから「死ぬ」という現実感がなくて、お手伝いできることがあればしようという気持ちはありました。

主人が言うには、自分は職場に恵まれ、結婚して子供もいて、両親も健在で、両親の傍で暮らし、職場も理解があつて三



鈴木 啓三 (札幌)

時半頃、早退させてくれ透析を二週で五回受けさせてくれることに職場も、協力的である。

その中で職場を失うとか、家庭崩壊するとか結婚が出来ないというなど周りにたくさんさんの現実があった時に、一人でも多く、職場に戻れる様にとか、とにかく患者が手を取り合って仲良くやっていかなければダメだということで始めたのがきっかけで、手伝うようになりました。

高額な医療費自己負担

司会　昭和四十七年に更正医療、翌四十八年にいわゆる^①制度が適用になる以前は、透析医療費は健康保険が適用になっていたとしても、社会保険の本人とか生活保護の方は自己負担はありませんでしたが家族の方は、まだ五割また国民健康保険は本人・家族共三割の自己負担がありました。昭和四十五年に透析を開始して自己負担をされていた鈴木さんに当時の状況をお聞きます。



村本 徳雄 (札幌)

鈴木 当時医療費については、自分が払ったわけではないのでたいした記憶はないのですが、後で聞いた話では家族の土地が室蘭大谷高校に売れたみたいでお金を支払う事ができました。透析に入る時に最初に先生が父に言ったことがお金の話でして、月に十万〜二十万（現在の百万位）かかりますが、それをずっと払っていくのかどうか聞かれたみたいです。

二・三年しか生きられないと思っただけで、月二十万かかって、五百万もあれば足りると思ったみたいで、透析に入れてくれたのだと思います。二十年も三十年も生きるのであれば、何千万もかかるので払いきれないと言ったかもしれません。そのお陰で今、生きています。

お金の問題では、やはり親は大変だったと思いますが、自分としてはその割に大した問題ではなくて、本人としてつらかったのは、やはり外シャントがつからなかつたです。

今の人は、知らないでしょうけど、管が手とか足とかに常に出ていて、感染とかの心配があり、お風呂に入る時も手を上げたり足を上げたりして入り、まして運動をするなどとなったら血管に入っているわけだから管が抜けたりしたら大変なわけで、そういう心配は常にあり、寝ている時も足をひっかけたて出血したり、手をひっかけたて出血したりすることの方が心配で大変でした。

透析の技術もひどかったと思います。そういうことの問題も全腎協が出来ることによって、透析の研究費などを、国から出してもらおう形になり透析に入りたくても器械が足りなくて入れない人もいましたので器械を増やす運動や医療費の問題などを国・厚生省などに陳情したりして、医療費の自己負担の軽減等の活動が患者会の最初だったと思います。

ただ私は北海道にいて、そういう活動にかかわっていなかった。道腎協などを作って、初めて、そういう話が全腎協の方から聞こえてきたわけです。

金の切れ目が命の切れ目

上田 鈴木さんの家では医療費を払えなくてしょうが同じ仲間でお金の工面が出来ずに死の道を選んだ人を見ていますか。

鈴木 病院にいて直接そのような人に出会ったことはありませんが先生から聞いたことはあります。

お金がかかると言ったら考えてみますと言って、そのまま来なかった人とか居たようです。

岩崎 私もそれは聞いたことがあります。

渡井先生から聞いた話ですが、昭和四十五年の話ですが、父親は今も健在ですが、息子さんが三人いました。大変優秀で一番目、二番目の息子は東大へ、三番目の息子は北大へ入るべく勉強していま

したが、南高の一年の時、腎臓病にかかってしまいました。

それで大変お金がかかると知り、父親が退職金を前払いしてもらい、息子の医療費に当てたのですが、一年間は良かったのですが二年目には退職金も底をついて、その息子を連れて帰ったそうです。

そして一週間目に亡くなったという事を聞きました。

ところが、その時、病院の研究費で生きていた人もいたのです。それでは、何故、その息子さんは、研究費で生きられなかったのかと言うと、父親がいて、お金を払えたから研究費での助成が受けられなかったのです。

司会 全腎協が運動して昭和四十七年から更生医療が適用になって自己負担が



佐藤 利國 (室蘭)

大幅に軽減されるまでは、全国的にそういう話がたくさんあったでしょうし、また自殺したり、兄弟からお金がなくなるから透析をやめてほしいと言われ、だまって退院していく人などの話を本などで読んだこともあります。

鈴木 昭和四十六年ぐらいに岩見沢の市立病院に入っていたころ、市立病院に四十〜五十人の患者がいましたが、三人実費で払っている人がいたらしいです。

そのうちの一人が栗沢の農家の息子さんで高校生でしたが、一年もたたないうちに血圧が上って脳出血かなにかで亡くなったんです。

昔ですから、透析患者同士、明日をも知れない体なので皆家族みたいなものですから、その人が亡くなった時も、お葬式に行きました。同じ様な患者が来ているとは思っていなかったのでしょうか、親せきの人が集まっていて、その息子さんが早く亡くなって親孝行な子だと話していました。

そういう話を耳にしまして、同じ立場だったので私は親不孝なのかと思ったり

してしまいました。

司会 お金の件でも心配でしたでしょうが、透析器械も誰か死ななければ回ってこないという心配もあったでしょうね。

福原 私は北辰病院で透析を受けたのですが、その前の病院で腹膜かん流を一カ月くらいしました。

その時、私が入院して死ぬか生きるかしている時に、肝臓の病気から腎臓が悪くなった人がいて、透析を受ければ、生きながらえるはずだったので、もとの病気が肝臓なのでそれほど生きられないという所見があったらしく、透析に入れてもらえないという状態でそれを看護婦さんから聞いて悲しい思いをしました。

透析導入の時期・場所で生死を分ける

司会 透析導入した時の年によっての運・不運というのはありますね。

福原 一年、いえ、半年違ったらすごく違っていく時代でしたね。

●座談会

上田 その人が、どこの町にいたかでも変わりますよね。札幌とか、釧路とか、他の地方とか。

それによって器械の関係で言えば、予算のつけ方とか違ってくるでしょうから大変な時代でしたね。

器械という面では、最初は今でいう洗たく機みたいなもので二カ月ですぐ新しいものになりましたが、場所の違いというものがあつたと思います。

私は昭和五十二、五十三年頃、東京の三軒茶屋で透析を受けたことがあります。その院長先生が、回診に来て「上田さん、透析は今日これをやっている。明日は違うことをやっているかもしれないよ。日進月歩だよ、だから希望を捨てないで頑張ってくださいね」って言ってました。

確かにそうですね。際だって進歩が激しかったですよね。器械なり、透析液なり、メーカーが一生懸命頑張ってくれたので今は安定した透析時代だと思いますね。

佐藤 私が透析という言葉聞いたの

は、東京の大家の会社にいた時に日立製作所の分院が日立市にあって、営業で透析の液を売りに行つたんです。その時、初めて耳にしました。

私は高校に入る時に腎臓が悪くなり、東大病院に入院したのですが、その時に主治医だった先生が五年後に自分が透析をしなくてはならない状態になりましたが、まだ人工腎臓が開発途中だったので人工腎臓を使ってくれと叫んで死んだそうです。

私は患者でしたが、先生がそのような状態でしたので、何か、縁がある様に思っていました。

昭和五十五年に私が透析に入った時は、三〇五年しかもたないと言われていましたからバタバタ死んでいきました。



澤内 繁雄 (札幌)

水は三百〜四百ccしか飲めませんでした。

ダイアライザーは弁当箱型とキール型でした。

鈴木 ホロファイバーもあつたですね。

佐藤 ホロファイバーはその後です。

司会 私は昭和五十三年導入ですけどホロファイバーを使っていました。

上田 早いですね。やはり、道央と地方とは違いますね。今は、道央も地方もなく情報が回っていますが、当時は、やはり違いがありましたね。

私の先生が開業した昭和五十五年のときホロファイバーがあつて、その器械を入れなさいと言われたのに、コイルの器械を入れたんです。

一年でコイルの器械は使えなくなり、結局、ホロファイバーにしました。

佐藤 私達の時は、外シャントと内シャントの丁度、境目だったと思います。

福原 もっと早いのでは？

鈴木 岩見沢では昭和四十七年くらいから内シャントになりました。

佐藤 私が東京医科歯科大で作った時は、内シヤントでしたが、北海道へ来たら外シヤントが多かったですね。

福原 私は昭和四十八年で外シヤントを作りました。

上田 その先生によって違いましたね。情報の収集などによっても。

司会 先程、上田さんがおっしゃったように、透析液とか貧血の改善のためのエリスロポエチンとか、カルシウムの吸収を助ける活性ビタミンDとか私たちが透析になった時にはなかった薬が出来て、本当に日進月歩で進んで来たと思います。

経済的に困難な会活動

司会 次に昭和五十二年当時の事務局の体制について、事務局長をやっていた故留目さんの奥様がいらっしゃいますので、その時のことを、お話ししていただけますか。

留目 当時は会費が一カ月五十円でした。

新聞を作って、PTAのガリ版で印刷し、郵送料は十六円だったと思います。

自宅の隣の空いた部屋を、事務局にしていました。患者同士の情報を得るために新聞を作りました。先生に原稿をもらいに回ったり、患者さんから原稿をもらったりしながら、ザラ紙にガリ版での新聞でした。

司会 私は製本された機関紙しか知りません。

留目 それは道腎協が結成されてからだと思います。

“どうじん”第一号ですね。それはもう素人では作れませんからね。

その前に新聞みたいなものを作っていました。

地区のニュース、患者数の報告とか、



福原 真理子 (札幌)

などを載せていました。とにかくお金が無かったです。

鈴木 そうですね。今でも家にありますけれど、封筒は“難病連”と印刷してあるものに、“道腎協”と書いて留目さんの住所を書いてありましたね。

佐藤 最初何人でやっていましたか。
鈴木 事務局は留目さんの奥さん一人でした。

留目 患者さんの数は三百人ぐらい、一応道腎協ですからね。札幌では百五十人くらいでした。

渡井先生とか、中野先生とか、今先生とかにお金が無くなったら、寄附をいただくに行ったら、気持ち良く出していたでいて助けていただきました。

何かある時には、鈴木さんや村本さんを動員しまして、結構、テレビなどにも出しましたね。

それから、学校の検尿の実施運動もやりましたね。

けっこう皆、パワフルにやりましたね。

鈴木 その頃は、本当に呼ばれたら行くという程度で留目さんの奥さんがやっ



留目 恭子 (札幌)

ていることを見て来て、留目さんが亡くなった後、あれだけ世話になったのだから、何とかしなくてはいけないと思って今まで続いているわけです。

岩崎 私は昭和五十二年の六月に透析に入り、その時は腎友会があることを知りませんでした。

それが昭和五十四年の十月に留目さん夫婦が渡井院長と共に私のベットに来て、協力してほしいと言われ、私は翌年定年になることがわかっていましたので、協力しようと言ったことを覚えていません。

留目 渡井先生も、中野先生も大変協力してくださって、夫婦でやっていることも知っていましたし、会長候補がいな

くれましたね。

それで主人が亡くなった時、"しまった"と思ったのは、誰か一緒にやっていたらうろたえることなかったんですけど、鈴木さんと阿部さんに後をたのむと言われましても何をどうしたら良いものかと思いましたね。

私はすぐ子供のために働かなくてはならなかったですし、何回か、鈴木さん達に家に来てもらって引き継ぎをしたのですが。

何せ、引き継ぐことが山ほどありましたね。

全腎協の関わりもありましたし、大変でしたね。

鈴木 札幌腎友会の事務局長をやっていた阿部さんに事務局長をお願いしたんです。

留目 阿部さんは奥様も透析をしてらしたので大変でしたね。

岩崎 そうですね。留目さんの様に、奥様の手伝いをお願い出来なかったの、阿部さん一人でやりましたからね。お金も全然無く、会員がどれくらいかもわ

からない時でしたね。

会費集めが大変な時代

鈴木 札幌腎友会では、会費も毎年集めていなかったですね。一ヵ月五十円じゃ全腎協に払うお金もなかったですし、たとえば百人会員がいれば五十人分しか払えないので会報も五十人分しかもらえず、施設で何人に一冊などという様に配布しましたね。

上田 釧路は結成当時から一ヵ月七百円です。

道腎協に百円、全腎協に百円だったと思います。

福原 会費をもらうということは、大変なことだったですよ。

留目 お金を払えないから入会できないという人もありましたね。

上田 釧路の場合は最初から会を作ったので透析導入と同時に入会してもらったので問題はなかったです。

福原 札幌の場合は医療技術が進んで



堀井 和彦 (札幌)

司会 私は札幌の北三条内科クリニックの頃から知っています。
それで阿部さんが自分の仕事と一緒に事務所を作り、昭和五十七年の中村事務

いたために、やってもらって当然と思っ
ている人が多く、入会して何かをする
ということを考えている人は少なかつた
ですね。
岩崎 留目さんが亡くなってから後任
がいなくていろいろな人が変わりましたね。
上田 札幌の北三条内科クリニックで
事務局兼会議室ということで会議をした
こともありませんね。

事務局体制の確立

局長の時に南七条の葉屋さんの二階へ、
それからダイヤパレスとそして昭和六十
三年から私が事務局長になり、今のフレ
ンズ南麻生へと移ったんですね。

私は昭和五十七年くらいから札幌腎友
会に入りまして、昭和五十八年から道腎
協の会計をやりましたが、道腎協は会議
を開くにもお金がなく、会費が入るとす
ぐそれを会議費に当てるなどしましたね。
昭和六十二年に道腎協の会費を百円か
ら二百円に値上げしてやっと一息ついた
ように思います。

留目 私も主人がいつもお金が無い、
お金が無いというのでお酒もタバコも飲
まないのにどうしてか…とよく言いまし
たね。

そうしたら、人にやってあげられるう
ちが華だよ、僕が死んだら誰かが残った
家族を助けてくれるよ、って言ってまし
たね。時々、主人にあたると「健康だか
らそうして怒りになる。自分が弱い立場
になってはじめて弱い人の気持ちがか
わるんだよ」って言われて、まさしくそ
うだなとつくづく思いました。

そのようなわけで、ドタバタ事務局で
したので次の人を育てるということにま
で手が回りませんでしたね。
ただ若い人には、仕事をもって結婚し
るとよく言っていましたね。若い人の集ま
りに力を入れてましたね。

会活動の主な動き

司会 次に道腎協の運動の歴史につい
て特徴的なものをお話して下さい。

上田 通院交通費は、昭和五十二年の
四、八月の間に釧路腎友会が各市町村に
陳情書を出し、昭和五十三年の十一月に
道東三地区の名前で道内全域を対象にし
て通院交通費の支給する制度を作ってほ
しいと陳情して、実際に、釧路市では昭
和五十四年四月から適用され、現在に至
っています。

それまでには、全道決起集会をやって、
その放映にきたテレビ局がぜひ取材をし
たいと言い、羅臼町から釧路へ透析に通
っている人のドキュメントを収録して全国

●座談会

放映されたことも影響があったと思います。

あと食事について言いますと、生活保護の人には、栄養加算というのがあり医師の説明書があれば出してくれるという承認を釧路では受けましたね。

司会 生活保護は、国の制度ですから、釧路で承認されたなら全道でも実施されましたでしょうね。

鈴木 適用が厳しく地区によって違いますから、むずかしいです。

福祉関係のことは国から「どうぞ」とやってくれるということはないので、自分たちで働きかけなければ受けられない人もいたでしょう。

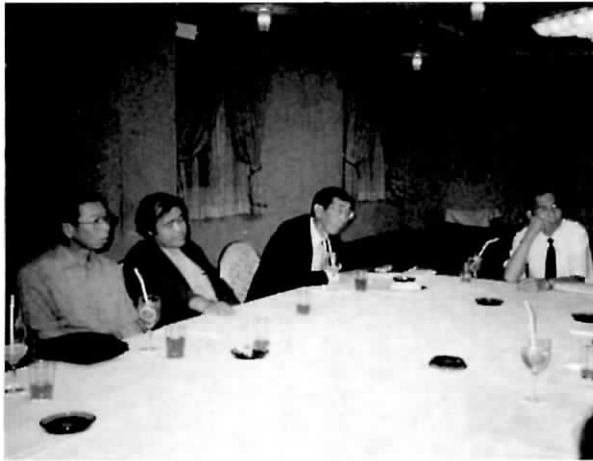
司会 次はJ Rと航空運賃割引割引の内部障害者適用では、道議会に主旨説明しました。このことについて会長いかがですか。

岩崎 全国各地で陳情したんですけど、運動を始めてから適用するまで十年かかりました。当時、J Rも航空会社も聞く耳を持ってくれませんでした。運動して七、八年くらいから、それではど

うしようと言ってくれましたね。有料道路割引適用もまた長い運動でした。

建設公団は、最初は、何も聞いてくれなかったけど、最終的には内部障害者にも認められました。

本州では有料道路を使って通院するということがあったので本州から運動が盛り上って十年かかりました。その時は皆力を合わせてやりましたね。今は人まか



せが多くて、知らない人が多いです。

佐藤 昔の苦しさはわからないからですね。

今はほとんどのことが受けられますから。

福原 それぞれ置かれている状況があるので、その人はその人なりの生活がありますから仕方のないことですが、でも会員さんが知らないということは悲しいですね。

まず会員さんは知っていてほしい。

鈴木 そうですね、それがメリットですから。

福原 そうです、幹事の方が会報を配った後で捨てられているのを見るのは本当に悲しいと聞くことがあります。

澤内 私もそういうことを聞いたことがあります。ちゃんと読んで欲しいものです。

透析施設設置の要望運動

司会 次に、江差・羽幌・中標津の三

地区をスローガンに掲げて透析施設の設置を道にお願いしてきましたが、江差・羽幌は道立病院がありましたので比較的早く実現しましたが、中標津は大変な苦勞があったようですね。

上田 中標津の場合は、地元ということもあって釧路で対応しました。根室もそうでしたが、根室の場合は、透析をしていただ大会社の社長さんが釧路へ通って来ていたため、透析の器械を根室市に寄附したんです。それで市ではやらざるをえなくなり、根室では施設が出来たのです。

残念ながら、その社長さんは、その恩恵を受けることなく亡くなりました。

中標津の場合は、当時、十三、十四名いたのですが、本人たちにまず施設が出来れば、通院するかどうかの確約をとり、人数が揃った所で、難病連と手を取り合っ
て運動を開始しました。たまたま町長選挙があつて、その公約の中で透析施設を作るといふものがあり、その町長が当選して実現しました。

佐藤 羽幌の場合は、道立羽幌病院で

透析が開始された当時は、透析器械が充足していたのですが、最近また足りなくなってきました。

五、六年前に旭川の藤田さんが会議の中でその話をしましたが、それから何も話が無く、今年四月の活動報告の中で運動をしているという報告を受け、道議に話し、調べてもらったところ、まだ問題が停滞気味だといわれ、更に道議にお願
いして透析器械増の実現に至りました。



現在二十一名のうち十四名は羽幌で透析を受けています。

岩崎 今は留萌迄通院していた残り七名のうち四名も羽幌で受けていて、残り三名は秋まで待つことになっています。

それから道南の江差ですが、施設を作り器械も用意しましたが、医師がいらないため、医師の手配をしてもらうのに時間がかかり平成六年に実現しました。

行政と医師会人事とは別なんです。

こういう問題は行政に働きかけると同時に医師会へも働きかけなければダメです。

会活動の将来への提言

司会 最後になりますが、道腎協の将来の展望・問題点についてお願いします。

鈴木 札幌をかかえている我々としては、組織率の悪いところでもあり、やはり組織率の向上ということが一番大変なところですがここ二年間、入院してしましたので、その間に新しい人がいろいろ



やってくれています。

その人達が新しい考えを実行してくれば、それなりにまた新しい問題も出てくるでしょうが、いい方向に向ってくれば良いと思っています。

福原 私が常に思っていることは、私達が曲がりなりににも元気に透析を受けて生きていけるのは、医療関係の人たちのおかげもありますし、自分がどう動くかということもあります。しかし、自分が

透析に入った時のことを考えれば、医療費はかかる、これからはどうしたらいいかなど暗たんたる気持ちでいたことを思うと、今は基本的に医療費はかからないし、社会保険本人の1割の自己負担の問題が出た時も、道が(難)でそれを見てくれるということを守られて来た。会に入っている人も、入っていない人も素直に考えれば、先に歩いて来た人たちが、会の活動を続けてきてくれたから今があると思うのです。

先日も医療費の自己負担のことで新聞に出ていましたが普通の人達でも不安になる時代ですからこそ、透析患者はずっと医療が必要なのだから、真剣に考えて欲しいのです。

そのためにも個々の患者さんが危機意識をそこに持って生きていくことを存在理由に次の人のために何かをしようと思えば、会の大切さもわかると思います。

少しでも自分なりに関わりを持つていこうという気持ちがあれば、会はずなれてしまいますから、やはり人と人のつながりを広げることが大切だと思います。

村本 現在問題になっている地域の透析施設の偏在性を早く無くしていくということと、ブロックの在り方、それから医療費の後退ということに道腎協が素早く対応できるかどうかが問題になってくると思います。

私達の患者会に対する意識もそうですが、一般会員の意識もある程度まで引き上げていかないと、これからは患者会もむずかしいと思います。

留目 スタート当時から会員の意識の向上ということは、考えてきたことですので、永遠のテーマなのかなと思っています。

澤内 今年から事務局長となりましたので、私は結成当時からのことを聞くのは初めてのことなのです。長期透析患者や高齢患者が増えてきていますので、要介護対策の充実に活動を進めて行きたいと思っています。

佐藤 二十年経ったわけですから、これを機に、転換をはかるべきだと思います。

考え方も方向づけも転換すべきだと思います。

います。

会に入った人にメリットがあるか無いかということではなく、今の医療状況・環境の問題など我々がこうしなければメリットが生まれまいという攻めのつもりで行動していかないと、新しいものは出来ないと 생각합니다。

考え方を更に進めるためにいろいろな地域に対する支援とか、地方からの問題をとり上げるとか、基本にかえて、とり組んでいかなければ、むずかしいと思います。

これから新たな気持ちで、新しい患者さんにも今の現状を把握してもらおうという気持ちでやっていかなければならないと思います。

上田 地方では患者は情報が欲しいのです。

文字で表された情報を手にしたい、それが会員の望むことだと思うので、それどう対応していくかが会としての基本だと思います。

情報提供をしっかりと出来る様な会組織になってほしいと思います。

岩崎 二十年を思えば、ダイアライザー

の進歩・医療技術の急速な進歩によって、我々の命は救われて来ました。このことが、一番大きなことと思います。

しかしここに来て、患者があまりにも恵まれていて、患者会のなかに危機感が無いということは事実です。

その恵まれている組織を作ったのは、誰が言おうと先人がスクラムを組んで国に働きかけ運動を行ってきたまものだと思います。

先日村本さんと訪ねた病院でも、先生が大変協力的で、患者会をよく理解してくれていました。

静内の腎友会へ行ったときもそうでした。

患者会と先生のつながりというのは、大変貴重なものです。それが基本となると思います。

私自身も、どのような患者会からの相談にも乗ってあげられる様にありたいと肝に銘じています。

司会 今の時点では、要介護問題等、いくつかの困難な状況があると思います

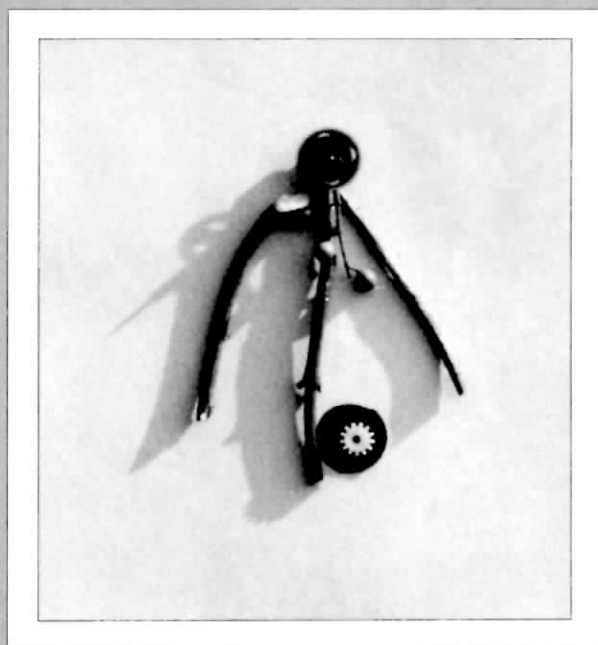
が、医療費の心配もなく安定した透析医療が受けられる様になっています。今後は医療費の自己負担が出て来そうです。全国の患者会と一体となって活動して、社会保障・医療後退の波を押し返さなければなりません。

また今後の患者会活動は「腎疾患総合対策」の推進、予防・治療・研究はもちろん社会復帰を強力に進めて行かなくてはなりません。透析医療は最終的に社会に復帰していく事が目的だと思います。その為にも障害者雇用場の確保を国に働きかけて行きましょう。

大変長時間になりましたがありがとうございました。

◎書記

三上留美子（札幌） 道腎協事務局次長
 透析開始一九八六（昭和六十一）年九月
 石井 典子（札幌） 札幌腎友会会計
 透析開始一九八三（昭和五十八）年十一月



北海道の透析事情

北海道の血液透析

治療のながれ

渡井医院院長
渡井 幾男



私が患者さんに人工透析を行なったのは、昭和四十四年（一九六九年）の秋頃、札幌通信病院泌尿器科にいた時でした。

当時三名の患者さんが居り、内科の先生（高須重家先生）と相談しながら腹膜灌流を週に三回（一回八時間）を始めました。その中の一人のKさんは現在函館で血液透析をしていますから、二十八年間生存しているわけです。

道腎協が誕生して二十年になるとの事、その歩みをみて来た私にとっても感慨深いものがあります。

慢性腎不全から透析を受ける身になると、まず自分の事だけで頭が一ぱいになるのは当然だろうと思います。その苦しみ、辛さは当人でなければ分からないだろうと思っています。

だから、道腎協を実際に運営している患者さんたちが、他人に対しても心を拡げ、体調の悪い時も、我慢して続けている姿は立派だと思えます。この二十年の

中味は非常に重いもので、現在の役員の方々も肌身感じて仕事をなさっていると思えます。

ところで、患者さんからみて不思議に思われるかも知れないことは、透析に携わっている医師の専門科がいろいろあるのはどうしてかということだと思います。

内科、外科、泌尿器科、胸部外科、麻酔科、小児科等の医師が透析医療に従事しています。米国のように腎臓科という独立した科がないのです。最近では日本でも、私立大学や大病院で腎臓内科を標榜する所が出てきていますが、国立大学にはないようです。

が三十年位前まではさらでしたし、両側共やられたら死を意味していました。今なら両側の腎臓でも両腎をとってしまつて、血液透析で元気に働くことが出来るのですから、医学の進歩は素晴らしいと云えます。

麻酔科は一見関係なさそうですが、睡眠薬（プロバリン）や農薬を自殺目的で大量服用した人たちを助ける為に人工腎臓を研究し始めたのがきっかけです。

二十数年前、米国腎臓学会の大御所シユライナー教授が「血液透析治療の分野には医学のすべてが含まれている」と明言しましたが、その通りで、整形外科、精神神経科も腎不全の治療に加わるようになって十年になります。

腎不全の治療はいま血液透析、CAPD、腎移植の三本立てで行われていますが、これからどうなっていくのでしょうか？

世界の透析事情をみて、国家経済の良し悪しが大きく影響していることは明白です。

これからは治療成績がよくてお金の

からない方法の研究開発に努力を傾けていくことになると思います。去る十一月十六日は社団法人、日本透析医学会の十周年記念のシンポジウムがありますが、そのテーマは「二十一世紀への提言―長期生存とQOL」というものです。たまたま私は十一月の北海道透析学会で教育講演をすることになって居り、その中の一つに、透析治療二十数年経っても骨関節障害のない例を紹介し、その患者さんたちのどこがよかったかを考えてみる視点を強調しようと思っています。

表1 北海道における透析患者数、平均年齢、透析の種類、透析施設、透析液および透析器の年次推移

	1973	1975	1979	1982	1983	1984	1985	1986	1987
	昭和48年	昭和50年	昭和54年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年
透析患者数(人)	316	476	1,557	2,088	2,194	2,479	2,771	3,323	3,437
透析患者の平均年齢(歳)				49.24	51.34	51.99	48.31	49.77	50.52
血液透析	301	451	1,538	2,066	2,170	2,443	2,739	3,251	3,372
昼間	279	371	1,144	1,596	1,596	1,848	2,051	2,502	2,561
夜間	22	80	394	480	573	611	687	802	810
家庭					1		1		1
腹膜透析	15	25	19	22	24	36	32	72	65
CAPD					18		28		64
IPD					6		4	1	
透析施設数	34	39	70	85		93			102

	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
透析患者数(人)	3,921	4,133	4,534	5,363	5,514	6,170	6,557	7,105
透析患者の平均年齢(歳)	55.76	52.09	52.78		59.29	58.23		56.78
血液透析	3,774	3,951	4,367	5,140	5,259	5,876	6,238	6,726
昼間	2,858	3,022	3,441	4,117	4,133	4,705	5,012	5,432
夜間	912	930	925	1,022	1,125	1,170	1,225	1,293
家庭	4		1	1	1	1	1	1
腹膜透析	147	182	167	223	255	294	319	379
CAPD	141		165	220	254	294	315	368
IPD	6		2	3	1	0	4	11
透析施設数		112						

(表1は北海道透析療法学会25周年記念誌より)

医療講演の歴史

昭和57年 5月30日 (1982)

教育文化会館

第5回総会特別記念講演

「腎移植について（過去・現在・未来）」

日鋼記念病院 院長 西村 昭男先生

「死体腎移植の経験」

〃 副院長 安田 隆義先生

「米国よりの移送腎（U S 腎）の移植経験」

米国・加州大助教授 岩城 裕一先生

昭和60年10月27日 (1985)

ホテルユニオン

「腎疾患総合対策」シンポジウム

「本道の腎臓移植をどう推進するか」



昭和61年 5月27日 (1986)

ホテルユニオン

第9回総会記念特別講演

「腎不全医療—過去・現在・未来」

市立札幌病院主任医長 片岡 是充先生



片岡 是充先生

昭和62年11月10日 (1987)

北海道教育センター

第10回総会記念特別講演

「長期透析による合併症について」

河口内科クリニック院長 河口 道夫先生



河口 道夫先生

昭和63年5月22日 (1988)

道庁別館地下ホール

第11回総会記念特別講演

「腎移植の過去・現在・未来」

東京女子医科大学教授 太田 和夫先生



太田 和夫先生

昭和63年10月30日 (1988)

北海道教育会館

医療講演会

「長期透析における骨の合併症

CAPDの現状と今後の展望」

札幌北クリニック院長 今 忠正先生



今 忠正先生

平成 1 年 5 月 28 日 (1989)

北農健保会館

第12回総会記念特別講演

「リンと高脂血症の食事療法について」

札幌透析栄養士研究会会長

佐藤 妙子先生



平成 2 年 5 月 27 日 (1990)

北農健保会館

第13回総会記念特別講演

「長期透析患者の合併症について」

腎友会滝川クリニック院長 菅原剛太郎先生



菅原 剛太郎先生

平成 2 年 10 月 28 日 (1990)

北農健保会館

ブロック会議文化講演

「日本人の物差し、外国人の物差し」

国学院女子短期大学 倉島 齊先生



倉島 齊先生

平成 3 年 6 月 30 日 (1991)

北農健保会館

第14回総会記念講演

「腎移植の現況と今後の展望」

市立札幌病院腎移植科 平野 哲夫先生



平野 哲夫先生

平成 3 年 11 月 10 日 (1991)

北農健保会館

ブロック会議 役員研修会

「社会福祉 8 法改正と今後 MSW に
求められるもの」

北成病院 MSW 大聖 由利子先生



大聖 由利子先生

平成 4 年 7 月 19 日 (1992)

ホテルユニオン

第15回総会記念講演

「CAPDの現況と今後の展望」

岩見沢市立総合病院副院長 大平 整爾先生



大平 整爾先生

平成5年6月6日(1993)

ホテルユニオン

第16回総会

15周年記念シンポジウム

演題「腎臓病を考える集い」



平成5年8月1日(1993)

ホテルユニオン

道難病連集會医療講演

「二次性副甲状腺(上皮小体)機能亢進症」

札幌北楡病院 久木田 和丘先生



久木田 和丘先生

平成6年6月5日(1994)

室蘭市障害福祉総合センター

第17回総会記念講演

「透析の合併症としての循環器障害」

医療法人社団新日鉄室蘭総合病院

透析科長 山口 康一先生



山口 康一先生

平成 6 年 7 月 30 日 (1994)

道難病連集會 (旭川) 分科會

「透析と手根管症候群について」

医療法人恵生会吉田整形外科病院

吉田 英次先生



吉田 英次先生

平成 7 年 7 月 30 日 (1995)

ホテルユニオン

道難病連集會

「HDFについて」

札幌市立病院腎センター 城下 弘一先生



城下 弘一先生

平成 8 年 5 月 26 日 (1996)

函館花びしホテル

「透析医療の現況と緊急災害の対策について」

平田病院院長 平田 輝夫先生



平田 輝夫先生

平成8年8月4日 (1996)

北見市民会館

道難病連集會

「透析における糖尿病の治療と管理」

市立札幌病院腎臓内科

副医長 深沢 佐和子先生



深沢 佐和子先生

平成8年9月15日 (1996)

社会福祉総合センター

全腎協シンポジウム

「地域で安心して生きるために」

—透析患者の介護を考える—

在原 園子 札幌ホームヘルパーの集い

優（ほのか）の会代表

川島 亮平 特別養護老人ホーム

かりぶ・あつべつ副施設長

在宅介護支援センター

コミュニティホーム白石所長

浦河赤十字病院

医療ソーシャルワーカー

(50音順、敬称略)

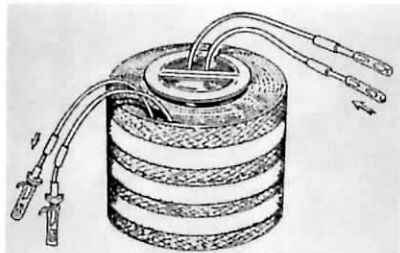
原 智子

向谷地生良



人工腎臓の歴史

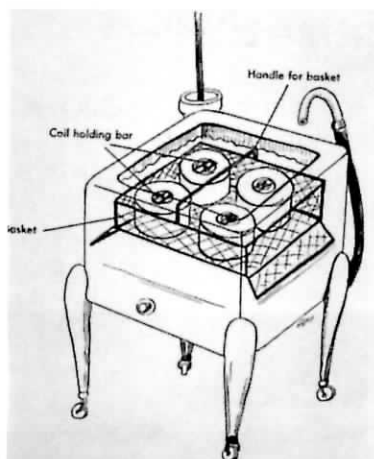
コイル型



▲コイル型人工腎臓（S 40年頃～53年頃使用）



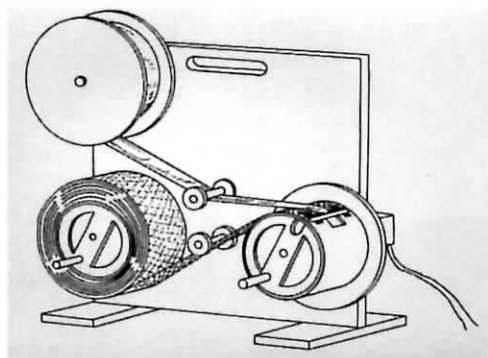
▲コイル型で透析中



▲洗濯機でコイルを使用する図解



▲洗濯機で使用中

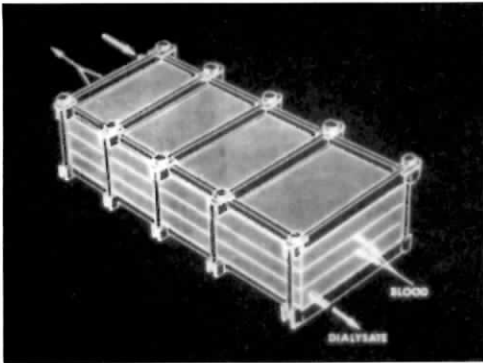


▲コイル型人工腎臓を家庭で造る機械
（今先生の開発によるもの）



▲コイル型での透析状態

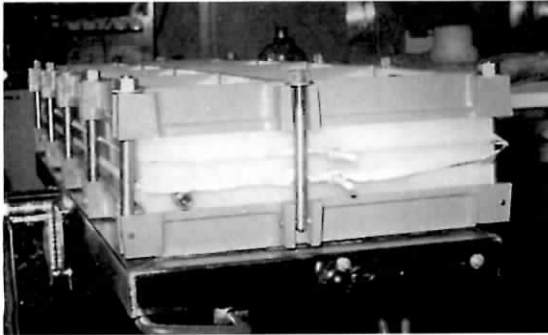
キール型



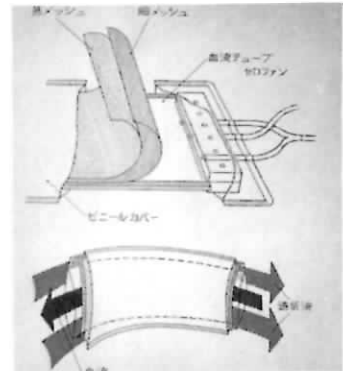
▲キール型人工腎臓（S44年頃～47年頃使用）



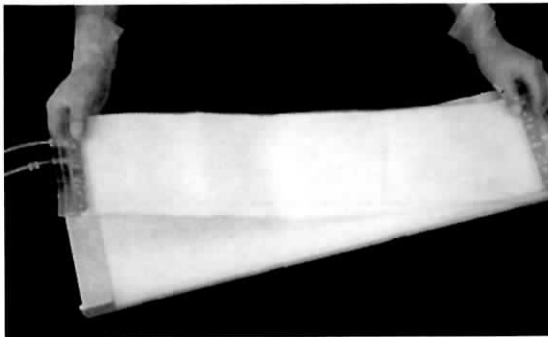
▲キール型での透析状態



◀エンペロープキルニ・封筒型人工腎臓

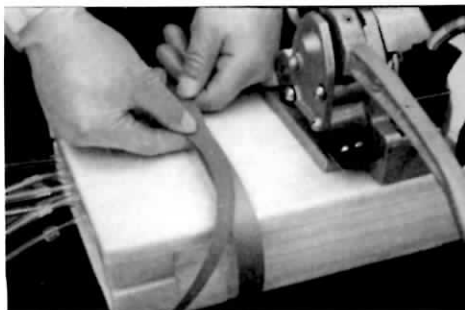


▲今先生と医療機器メーカー共同開発のパック型人工腎臓（S47年）

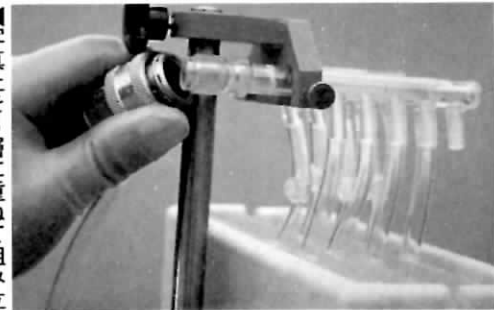


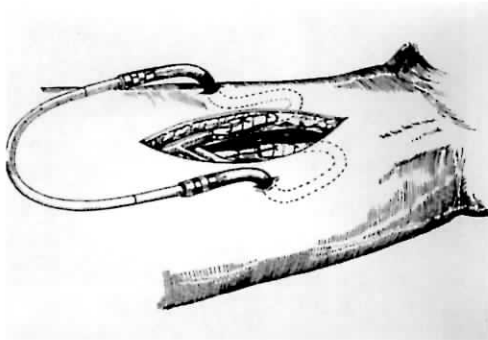
◀キール型のディスプレイザブルのダイアライザ

▼透析液を流す所



◀写真上を5層に重ねて組み立てる所





▲外シャントの図解



▲腹膜透析のマッシュルームカテーテル



▲ホロファイバー型ダイアライザー

ホロファイバー型

※資料

道腎協第20回総会記念医療講演「透析で長生きする秘訣」

(講師 札幌北クリニック 今忠正先生)の中から掲載させて頂きました。



私もひとこと

●私もひと言



筑田 清子
(北見地方腎友会)

23年目の透析
中です。体
中まさに満身創
痍です。でも透
析は自分との戦

いです。自分の身を守るのは自分自身で
す。気持ちで負けては駄目、これからも
私は前向きに戦い続けて行くつもりです。



新山 正紘
(札幌腎友会)
(透析歴 25年)

人の眼にひと
り環境と思
われる状況下で
も背後には全能
の神様の深い愛

と憐れみと救いの意志と導きが働いてい
る事を信じ、感謝と喜びを失わず毎日を
行きたいと願っています。



加藤 健爾
(十勝地方腎友会)
(透析歴 23年)

今 透析二十年
を振り返り、
長期間快適な透
析生活をおくる
上に、注意した

いことは、リンとカルシウムの値をいか
に正常値に保つか、それと体重増加を四
%程度に抑えるかにつきますと思います。



井上 茂
(紋別地方腎友会)

透 析を始めて
二十五年、
患者会や道腎協
を通して多くの
仲間と出会うこ

とができました。
そして、治療やくすりて解決できない
事や透析で生き抜く上でのことを多くの
仲間から学ぶことができました。
これからも多くの仲間の皆さんと出会
いたいと思います。



齋藤 義生
(江別腎友会)

どうせ透析や
るなら楽し
く過ごしません
か、殿様ごはん
です、殿様おや

すみですか、頭が痛けりゃ、はい薬です。
手取り足取り世話してくれる、透析を苦
にせず体を休め明日の英気を養うそんな
気持ちで透析やれれば透析の日は何と楽し
く待ち遠しい五時間になるかも知れない
……。



故・今村ツヤ子
(釧路腎友会)

私 が透析を始
めた昭和五
十年は、まだ手
作業による療法
技術でしかな

かった。ハイテクを駆使した現在の療法
は隔世の感がします。医療の進歩が延命
に繋がる事と信じつつ……

●私もひと言



薄木 理
(留萌腎友会)

私が透析を始めたのが昭和五十二年でした。今年で二十年良くここまで

来たなと思います。これから先毎日を楽ししくエンジョイしながら二十五年目を目標に元気に生活していきます。



杉本 修一
(小樽腎友会)

今は、かゆみと両膝関節の骨の痛みに悩まされているものの家庭と仕事を

に恵まれ生きている満足感で至福の透析ライフである。今後も地道に自己管理を図り完全燃焼で生きたい。



斉藤 郁子
(夕張腎友会)

私が透析を始めて十三年、今年十五歳になった息子を見守りながらの毎

日でした。よく食べよく笑い何事もプラスに考え明るく過ごす事！それが今日までの私のそしてこれからの私のモットーです。



樋谷 内修
(旭川腎友会) 20年
(透析歴)

世界に冠たる日本の透析技術、されど患者数は毎年鰻登り。脳死問題は

一步前進、これを機に移植のチャンスも増える事でしょう。二十一世紀、もうこれ以上我々の仲間はいらない。



馬飼野秋雄
(滝川腎友会) 20年
(透析歴)

癒ゆるなき透析つづけ二十年孫に囲まれ満足の夫。ルビー婚祝わるるなど

思はざり腎不全なる夫との暮らしに。妻が詠んだ短歌です。
金婚式を祝われることを目標に頑張ります。



廣岡 達夫
(苫小牧腎友会)

会を発足した時十四名だった患者中六名が二十年を越え生存中、これ

からの方は適当な食事管理、生活状態に気をつければもっと長生きできるでしょう。希望をもって頑張ってください。



庄子ヨシエ
(浦河腎友会)

当初は食事管理に悩み、後に数々の合併症にも苦しみました。が、乗り

越えてくる事が出来ました。今後も、自分で見、聞き、体を動かす事の喜びを大切に生きて行きたいです。



福田 一成
(道南腎協)

透析導入して二十三年になる。透析機器の整備や検査で導入時と今の透

析の違いがあり、そのお陰で食事が美味しく食べられ、充実した日を過している。これからもがんばって生きたい！



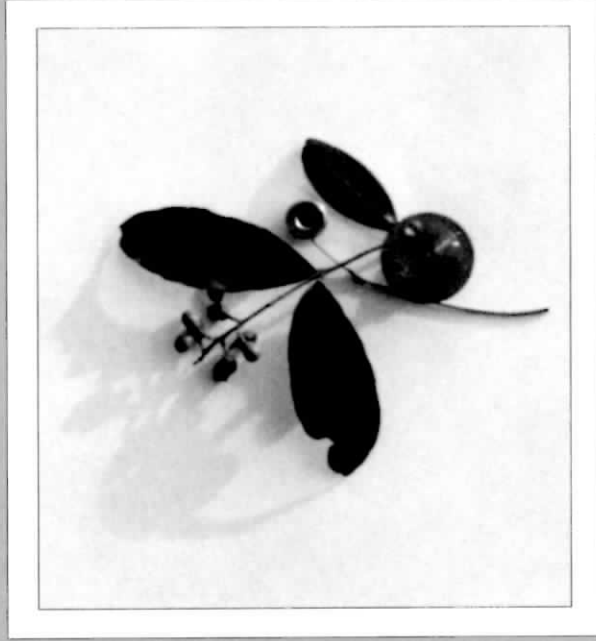
井草 典朗
(オホーツク腎友会)

患者特有の症状、左大腿骨頭頸椎の大手術も先生、看護婦さん、家族に

助けられ二十二年目を迎えました。目標三十年、体は限界に近いですが頑張ります。大好きな「ゴルフ」をする為に！

20





腎バンクキャラバン

腎登録促進全道一周 キャラバンキャンペーン 無事二、〇〇〇キロ走破！会を挙げての協力実を結ぶ

この記事は昭和五十九年の機関紙「どうじん」第十号に掲載されたものです。

一つの仕事を成し遂げた後は、爽快なものである。健康体だった頃、スポーツの後のこちよい疲労感と満足感を思い出した。

今回のキャンペーンは、われわれ透析患者にとっては一つのカケであったかもしれない。しかし、健康人と同じ、いやそれ以上のハードスケジュールをこなした。資金も多くのの方々のご協力をいただいた。各地で仲間のご支援をいただいた。隊員諸氏もよく耐えぬいた。改めて皆さんに心から御礼を申し上げたい。そして、

われわれの成果は今、温かい人間愛、同胞愛に支えられ腎バンク登録となつて、確実に実績を挙げつつある。

初の企画に準備進まず 賛助金の応援に力入る

慢性腎不全となり透析導入を余儀なくされた患者にとって、それから抜け出す方途は、腎移植しかない。全国的には、法人格を持った腎バンク、腎移植普及会など多くの都府県で登録体制が整っている。

しかし、本道には北大医学部泌尿器科の中に任意団体として「腎移植をすすめる会」がとほしい予算で運営されている。また、厚生省が全国九ブロック、十四

咽が渴いた時には、水をガブガブ飲みたい、瑞々しい果物をお腹一杯食べたい、週三回の長時間透析から解放されたいと、透析患者なら誰でも、いつも夢見ていることでしょう。それには腎移植しかありません。しかし、わが国の腎移植は、全然進んでいません。そこで、昭和五十九年五月、北海道にも正式に腎臓バンクが発足されることになりました。道腎協も、沢山の腎提供登録者を増やすために、全国で初の全行程二、〇〇〇キロの全道一周キャンペーンを実施しました。

カ所に設置を予定している地方腎移植センターも、すでに九カ所も設置されているのに北海道にはいまだ予定もない。

このような現状が、一昨年までの本道の現状であった。

しかし、昨年あたりから、具体的に両施設の本道設置が、腎バンクに関しては、道内金融界の人々、マスコミ関係、医療

関係者、理解ある企業経営者のご努力により期成会が設けられ、前北洋相互銀行の会長の大家武さんが発起人代表になって、財団法人をめざし、基金募集活動が、同銀行内に事務局が設けられ、活動を開始した。

また、腎移植センターも、すでに七ブロック、九カ所に設置され、本年度設置について、四国と北海道の両候補地において誘致運動が盛んになり、本道に於ては、道庁関係者、道議会関係者、札幌市の理事さん、また、透析医療関係者（この中でわれわれ患者においても、道議会に対し、初めての請願を多くの患者の署名運動と相まって、一一、三六四の署名簿とともに議会に提出され、昭和五十八年三月開催された第十四定例会議北海道議会で採択された）の努力により、厚生省が本道に第十番目として認めることとなった。

そして、腎バンクは、五月二十八日に正式に二、四〇〇万円の基金をもって財団法人としてオープンした。

地方腎移植センターは、いろいろの病

院の中から市立札幌病院が受け入れる事になり、八月一日開設、十一月一日から実質的に活動を始める事になった。

われわれ、本道に在住する二、五〇〇人の透析患者にとつて、長年の念願であつた両施設がオープンされる事は、大きな喜びであり、道腎協にとつて大きな活動の柱が立派に打ち立てられ、役員会に於て共に喜び合ったものです。

しかし、われわれ患者のために、多くの人の努力があり、われわれが座しているだけでは、申し訳ない。なんとか患者が出来る事がないかと役員会で話し合い、今年六月十日の道腎協総会に於て、全道一周のキャラバンキャンペーンを実施してはと提案され、満場一致で実行が決議

7/22 朝日新聞

24日から

腎臓提供登録を 闘病の7人が 全道巡り訴え

キャンペーンをするのは、北海道腎臓病者連絡協議会（岩崎善会長、会員千五百人。道内には、慢性腎不全で週二、三回の人工透析を受けている患者が約千五百人おり、そのうち八百人が、腎臓移植を希望している。

腎（じん）臓病で人工透析を受けている患者らが、二十四日からキャラバンを組んで全道を巡り、腎臓提供登録を呼びかける。五月末に北海道腎臓バンクが発足、八月には市立札幌病院に道腎臓移植センターが整備されることになっており、それを記念してのキャンペーン。患者らは途中で透析を受けながらの訴え

キャラバンは、第一次と第二次の二回に分けて実施。一次は二十四―二十七日、道央から道東、道北にかけて、二次は八月十一―十三日に道南を巡る。全行程約千四百キロ。

道腎協事務局長の中村信夫さん（四十九）は、「二、三次合わせ七人の隊員は、みな腎臓病と闘っている人たち。」

された。

さて、時期はいつ、資金はどうする、隊員は果しているのか、初めての事で事務局も思案、しあん、シアン。

夏の季節がよい、自己資金の不足分はカンパをお願いしよう。人選は体調の良い人、将来活動してもらうために、若い人に勉強してもらおう等々考えて、趣意

昭和59年7月22日 朝日新聞

書作りを手始めに、活動開始。各会社を手分けしてカンパのお願い。道透析医会が三十万協力していただけるとの事で、一安心。断わられたのは数団体。なんとかメドがついたので人選に入り、各地方腎友会とのスケジュールの調整、チラシ、ポスターの制作、マスコミ関係者への協力要請など、出発前日まで準備にかかりつきり。その間、通常の会活動もあり。少しばて気味だが、明日からは頑張ろうと出発前夜はみんな緊張していたようだ。

「腎臓移植に理解を」

24日から全道キャラバン

患者の団体

腎臓病患者で組織する道腎臓病患者連絡協議会(岩崎順会長、会員千五百人)は、腎臓移植への理解を求め、腎臓提供者の登録促進を求めて二十四日から全道キャラバンキャンペーンに乗り出す。道内で人工透析を受けている人三割近くが腎臓の移植を希望しているといわれており、

各市役所、町村役場を訪問し、て協力を求め、街頭でも腎臓移植への理解を求め、腎臓の病気のため人工透析を受けている人は現在、道内約二千五百人。毎年二、三千人ぐらいつづ増えており、四、五年後には三千人を超えるのではといわれている。同

連絡協議会によれば、このうち三割の患者は腎臓移植を希望しているという。これに対し、道内の腎臓提供登録者は三千七百人。全国的にも登録者は少なく、道内の場合は最低十万人の登録が必要といわれている。こうした中で今年五月、腎臓提供者の登録を推進するため財団法人「道腎臓バンク(武井正直理事長)が発足。さらに八月には市立札幌病院内に「腎臓センター」が設置されることになり、病気に苦しむ患者たちを力づけている。

今回のキャラバンは、この二つの組織の発足を機に、腎臓移植普及を啓発するのがネライ。キャラバン隊は二班にわかれ、第一陣は二十四日午前八時四十分、市立札幌病院前をスタート。道央、道東、道北を回って二十七日札幌へ戻る三泊四日の日程。第二陣は来月十一日出発、道南を二泊三日で回る。隊員たちは、いずれも透析が必要な患者たちで、途中、人工透析を受ける時間を設けて、走行距離は一日百九十キロ、延べ千四百キロ近くにも及び、道内五十市町村を訪れることになる。

昭和59年7月22日 毎日新聞



市立病院前での出発式。中村、住野、鈴木、岡根



出発式で会員、患者、看護婦さんも多数参加

予想もしない見送りに 隊員一同重責感ず

七月二十四日（火）、札幌晴、市立札幌病院の正面玄関に集合、出発は八時四〇分、八時頃から、第一次隊員が集まる。岩崎道腎協会長、庄司札幌腎友会会長ほか役員の方々が透析の前の時間をさいて見送りに来てくれる。市立病院で透析する患者さんもバジヤマ姿で見送り、透析の準備で忙しい透析室の看護婦さんも見送りにわざわざ来てくれる。西村さん、林さん、植木さん、佐藤さん、小坂さん、石田さん等々いっもお世話になっている顔なじみの看護婦さん。また、腎センターに入院している患者さんは、屋上から見送ってくれている。桜木看護課長さんも心配して来てくれる。

出発時間が近づくと、報導関係者がワツと押しかけて、NHK、HBC、STV、UHBなどのテレビ会社、新聞社の方々も盛んにフラッシュをたく。

まず、庄司会長が司会役で出発式を進

める。見送りが百人近いし、フラッシュと光りとテレビカメラの放列で少々あがり気味。次いで、岩崎会長が、大変力強い（絶叫に近い）声で、隊員を激励してくれる（会長留守番たのみます。それにまだカンパ回りもあるし、申し訳ない）。次いで、看護婦の林さんから隊長に花束が贈られる。患者を代表して事務局の浜松嬢から花束。

その花束を手に、中村隊長が出発の挨拶と隊員の紹介がある。

さあ、出発の時間が迫る、車に乗り込む、エンジンスター

愛の心求め全道キャラバン

腎臓透析 臓器提供訴える 患者ら四人

「愛の心を腎（じん）臓（ぼう）バンク」と、腎臓透析患者が臓器提供登録を求めて二十四日朝、全道キャラバンに出発した。

一行は道腎臓透析患者連絡協議会の中村信夫事務局長を隊長に、患者ら四人、二十七日まで国道沿いに日高、十勝、釧路、網走、上川、空知の各管内市町村を巡回。市街地ではマイクで登録を呼びかけ、病院で患者らを助す。

この日は午前八時半、市立札幌病院前で中村隊長が「なんどか道民の理解を得て移植登録を増やしたい」とあいさつ、見送りの患者、看護婦の励ましを受け出発した。第一次隊は八月一日から道内を回る。

この全道行脚は、腎移植を進める民間法人北海道腎臓バンクが五月二十八日発足、腎臓移植センターがこの八月に市立札幌病院に設

置されるのを記念して企画されている。道内では十万人の登録を目標とした。岩崎道腎協会長は「道内、環にしている」と訴えている。同の透析患者二千五百人のうち八百人、連絡協会は1001（512）1人が今すぐにも移植を希望して6151。



腎臓提供の登録者を求めて札幌を出発するキャラバン

昭和59年7月24日 北海道新聞



日勝峠で記念ショット、これから十勝の国に入る



▲苫小牧駅前での最初の街頭キャンペーン実施

ト。車が動き出す。その時、屋上からテープが数十本、車に投げおろされる。さあ、

これから二、〇〇〇キロ、一路、苫小牧市に向かう。

五号線から、南郷通りに入り、高速を利用。恵庭、千歳は第二次の帰りだ。予定通り、苫小牧市役所に到着。ロビーで広岡副会長、つくし会の元村氏、吉田さん、藤原さんが待っていてくれる。さっそく合流して、市長応接室へ。宇治助役さん、占部環境衛生部長さん等が応対して下さる。今回の目的を話し、腎提供登録への協力、ポスターの掲示のお願い、われわれが本年度総会で議決した「我々から激励と身体への心配をしていたら、少々、初めての事で時間がオーバーしたが、次の苫小牧民報社に急ぐ。苫民では報道部長の角銅さんがわれわれ隊員と応対してくれる。地元をつくし会のメンバーも一緒、関係資料を渡し、新聞社の協力をあおぐ。われわれは街頭で短い時間、しかも少数の人にしかPRできない。どうしても地元新聞社の協力で各地の多くの人々に今回のキャンペーンの趣旨を理解してもらい、協力をいた

かなければならない。

次は、初めての街頭キャンペーンだ。苫小牧駅前である。午前十時すぎで、人通りも少ない。それでも乗降客や、地元の人々にチラシ、ティッシュ、子供づれには風船をあげ、隊長がマイクを持ってアイサツを始める。事務所で浜松嬢が吹き込んだテープを回す。仕事中心なのか、コック姿の青年が広報車に走り寄り、「登録しようと思っていました、どうしたらいいのですか」と息せき切って話す。「ここに申込みハガキがありますからこれに記入して送って下さい」「友人にも呼びかけたいので二、三枚下さい」、用紙を手渡し、感謝を申し上げる。これは幸先がいいぞ、これからもこういう方々が沢山あらわれてほしいと願い、切り上げ、次の訪問地、鶴川町へ出発。予定の時間通り、鶴川町役場に到着。前日、隊長の友人、鶴川町議の土井重男氏に訪問する旨を話し、町長に面会できるようにお願いしておいたせいか、胆振町村会の会長でもある平野町長が待っておられ、さっそく挨拶を述べ、お願いをす



八月十一日から十三日まで道央、道南を回る二次隊に分かれ、延べ九人が人工透析を受けながら、市役所や役場を訪問、PRの協力を要請するにも街頭でシン臓登録を訴える。

ゆうから

☆：道民にシン臓の提供を呼び掛けようとして、道腎臓患者連絡協議会（岩崎篤会長）主催の全道一周キャラバン隊「写真」が二十四日朝、札幌を出発した。

☆：これは財団法人・道腎臓バンクと腎臓移植センターの札幌市立病院設置を記念、シン臓の理解と協力を求めるのが狙い。キャラバン隊は同協会の中村信夫事務局長を隊長に、二十四日から二十七日まで道東、道北を回る一次隊と、

☆：出発式は、の日前八時半から札幌市立病院前で、会員や看護婦ら約百人が見守る中、行われた。まず岩崎会長が「より一層道民の理解を得るよう、元氣に行ってください」とあいさつ。中村隊長が「がんばって行ってきます」と答へ、一次隊三人のメンバーとともにワゴン車に乗り込み、拍手のなか、キャラバンの途についた。人口透析を受けている患者は道内に二千五百人いるといわれ、うち八百人がシン臓の移植を希望している。

（札幌）

昭和59年7月24日 北海タイムス

る。患者の現状や、同町でも患者がおり、苦小牧まで通院している話、通院費の助成の問題等々話し合いがあり、時間もなくなり、温かい激励を受けて、次の平取町に向かう。ここで、

配して、登録の促進に大いに協力を約束してくれる。冷えた麦茶をいただき、次の町、日高町に向かう。

天気はうす曇り、暑くもないし、窓からの風も快適、エンジンも快調。二風谷のアイヌ部落をぬけ、一時間あまり走って山の中の町日高町に着く。

苦小牧つくし会のメンバーと分かれ、隊員だけで一路平取町へ。

町長が迎えて下さる。われわれのスケジュールを心配して、患者さんが大丈夫ですかと聞かれる。ここでも町長さんの登録推進の協力を得る事ができる。広報紙にもさっそく掲載しましょうと担当課長を呼んで指示して下さい。峠は気をつけて下さいよと心配をいただいて、お別れし、日勝峠めざして出発。

つくし会からの連絡で、宮田町長がわれわれを迎えて下さる。今回の計画を話し、これからも増大する患者に町長も心

次の清水町へは日勝峠をはさんで約六十キロの走行、峠のこちらは晴れていたが、峠は雨、ちょっと見晴らしはわなかったが、全員おりに記念撮影。一路峠を下る。愈々、十勝の国に入る。

清水町も雨、役場では、あいにく町長

腎臓提供に登録を

道腎連のキャンパン隊 駅前で協力呼びかけ

腎臓提供の登録を―と、道腎臓病患者連絡協議会（岩崎 会長）の全道キャンパン隊が二十四日から始まった。初日は苫小牧市役所を訪れて協力を訴え、駅前でチラシを配布してPRした。二十七日まで道内を回る。

慢性腎不全で人工透析を受ける患者は、全道で二千五百



腎臓提供登録に協力を―と訴えるキャンパン隊

人。このうち約八百人が腎臓移植を希望している。強い要求にこたえて今年五月には財団法人北海道腎臓バンクが正式に発足、八月一日には市立札幌病院内に腎臓移植センターが開設されることになった。

全道キャンパン隊はこれを記念したもので、連絡協議会の中村信天事務局長を隊長とする四人のキャンパン隊が二十四日午前八時半、市立札幌病院前を出発した。

苫小牧は第一の訪問地。市役所を訪れた一行は、宇治助役に「市でも積極的に協力してほしい」と要請。同助役は「苫小牧にも人工透析患者はおり、広報などでPRしたい。がんばってほしい」と協力を約束し、励ました。

キャンパン隊はこのあと駅前でチラシを配布。二十四日

には鶴川、平取、日高町などを通じて帯広まで、二十五日には釧路方面など、二十七日まで道内を一周する。

死後の腎臓提供登録は十六歳から出来る。同連絡協議会は当面一万人を目指しており、六月末現在の登録者数は三千七百六十三人。北海道腎臓バンクは札幌市中央区北一条西七丁目、おわたビル内、電話011-261-2033。

昭和59年7月25日 苫小牧民報

は不在、総務部長さんに面会をいただいている協力を仰ぐ。「町長にたしかに伝えましょう」とお話をいただいたいて、芽室町へ。

芽室町へは四時三十五分着。ここも町長不在で助役さんに会っていた。

車に戻ると町の人、キャンパン車を見て待っており、年寄りだが役に立つなら登録したいとカードを受取っていた。町の中をマイクで流し、今日の目的地、帯広市へ出発。

十勝腎友会の再建 困難ながら新会長約束

すでに五時をすぎている。市役所は終わっている。地元腎友会の約束の場所駅前に向かう。ここで、地元腎友会の加藤さん、新会長の新倉さん、会員三人が出迎えてくれる。さっそく、駅前の商店街通りで街頭キャンパン隊。今日の最後のキャンパンなのでみんなが頑張る。人通りも多い。一時間あまり続けて、予定のチラシも無くなり、地元十勝毎日の取材をうけて、無事終了。まっすぐ、十勝毎日新聞社に向かう。林副社長にお会いし、協力をお願いし、取材を受けて、明日の朝刊に載せていただけたとの事、今日の日程を終え、一路、宿舎の十勝川温泉へ。

今夜の宿は、ホテル大平原。地元の役員との夕食を兼ねた交流会を前にザンブと温泉に飛び込む。初日であり、緊張のせい、みんな、つかれた様子がない。会長のところへ電話を入れ、無事つけ

た事を報告、テレビ、新聞に大きく報道された由、こちらは残念ながらテレビのニュースを見ていない。

しかし、今回のキャンペーン、NHKが前日もキャンペーンの予告を報道してくれたし、道新、読売が同じく計画を掲載してくれた。STVラジオが出發当日の朝の番組の中で、隊長のインタビュアを流してくれた。われわれの道民に接する時間や人数は限られたものだが、マスコミが報道してくれると、多くの道民の目や耳にふれる事ができる。誠に有難い。何にもまして、大きな力だ。

今日の行程は三〇〇キロ、運転を担当した住野隊員、なんとか頑張れると言ってくれるが、ヘマト三十八なので持ちこたえてほしい。

夜の食事は、地元腎友会の三名が参加。食事をとりながら、再建問題や、道内の状況報告、全国の運動など語り合い、十勝も一緒に活動していくとの新倉新会長の言葉。また、患者の社会復帰の問題や、闘病生活の知恵をお互いに披露して第一日の夜はふけていった。

初の他病院透析 緊張もゆるみ熟睡

七月二十五日（水）、キャンペーン二日目、今日は釧路市まで。透析を受ける関係で前日の半分の走行予定だ。九時に宿舎を出發、天気はくもり時々雨といった空模様、最初の目的地、幕別町に向かう。三〇分程走った所で幕別町、さらに



長崎屋（釧路市）デパート前でキャンペーン終え



鰯淵釧路市長訪問、温かいもてなし受ける

三〇分走って豊頃町とキャンペーンを続ける。役場に戻り、町の市街地をゆっくとマイクを持って流す。午前中の事で、町に人はあまり歩いていない。浦幌町も同じように続ける。この頃、天気は雨降りとなり、キャンペーンには向かない。しかし、暑いよりは楽だ。

音別町駅前で釧路腎友会上田会長が迎えしてくれる。一緒に音別役場へ向かう。小嶋助役が応対に出て下さる。十月一日

全国初の試みを各地、各界の力で見事達成

道腎協会長 岩崎 薫

私共慢性腎不全透析患者にとって待望久しかった「腎バンク」が五月二十八日「移植センター」が八月一日付で発足致しました。

われわれ恩恵を授かる患者会として、この二つの組織が十分機能することを願い何等かのお役に立つことを願い、このたび会員によるキャラバン隊を編成し全道一周キャラバンを行ない延々二、〇〇〇キロにわたり道内一周を第一第二次に分けて走破し炎天下の最中全員が元気で無事完行いたしました。今日ここに至るまで関係の皆様からいろいろのご厚配をお願い致しましたことを改めて感謝申し上げます。

また出発式に際しましては、早朝市立病院の正門前に行いましたが、当病院の関係者の皆様、特に勤務中の合間を縫って看護婦さん方多数のお見送りを受けました。

この出発式の模様は、各新聞社並にNHKを始め各民放社の報道関係者の取材攻勢も活発に行なわれ、全道一斉にPR放映されました。その結果一般の方々のご関心もいやがうえにも高まり各市町村においても今回のキャラバンキャンペーンの趣旨が徹底されて大きな理解を深めました。

なお今回のキャンペーンの計画実行に際しまして賛助金のご協力方を関係筋の皆様にお願ひ申し上げましたところ、北海道透析医学会の先生方をはじめ各銀行様、道議会議員各党派の皆様、札幌市議会議員の皆様のほか腎バンク設立発起人の伊藤組社長、北海道電力株式会社社長、高崎太平洋観光株式会社札幌所長様、および各製薬会社様等から多額のご配慮を賜りました。

ここに患者者を代表いたしまして謹んでお礼を申し上げます。

今回のキャラバンキャンペーンは、全国でも初めての画期的なケースとして注目され、腎臓患者会が主体性をもって全道一周の「草の根」運動を行ったところに大きな意義があったものと思います。

このキャンペーンを通じて思考されることは、二つの組織が有効に連携機能いたしませんためには、一人でも多く腎臓を提供していただける多くの方々のご理解と、ご協力が不可欠のものとしますので道民の皆様のご賛同を切にお願い申し上げます。以上

からの一割負担の問題で、障害者助成制度を保険本人にも適用してくれるよう陳情する。そのあと、町内を雨の中、マイクを侍ってキャラバン。「テレビに出ている人達ですね、頑張ってください」と声をかけてくれる人が、この頃から増える。元気が出る。

白糠町に入る前に昼食をとる。町に入ると町はお祭りで大通りは大変な人通りだ。役場で、このお祭りで町長がお忙しいので平田助役と今井保健課長が会って下さる。いろいろとお願いし、新築間もないピカピカの役場

を後に、今日の最終目的地、釧路市に向かう。

二時半すぎ、中心街に入る。勤医協病院に寄り、われわれの透析のデータを渡し、透析中の患者さんとはしばし話し合う。同じ機械で今夜はわれわれが透析だ。

次いでわれわれを待っている会員が集まっている長崎屋の街頭キャラバン会場に向かう。およそ二〇人の会員がゼッケンをつけて待っていてくれた。さっそ



市立釧路病院で透析中の仲間としばし歓談

腎臓提供の登録を

道連絡協の患者キャラバン

街頭で市民に訴える

「あなたの愛を腎(ジン)臓バンクへ」と腎臓病患者が移植用の臓器提供登録を求めて実施している全道キャラバンが二十五日釧路入りし、街頭で釧路地方腎友会のメンバーと一緒に市民に登録協力を訴えた。

腎移植を進める財団法人北海道腎臓バンクが五月二十八日に発足し、腎臓移植センターが八月に市立札幌病院に設置されるのを記念して企画された。一行は道腎臓病者連絡協議会の中村信夫事務局長を隊長に患者ら四人で二十四日に札幌



「温かい人間愛を」と腎臓提供を訴える患者たち

を出発し、全道各地の市町村を巡回している。この日は午後二時過ぎに釧路入り。市内幸町の長崎屋釧路店前で待を受けていた釧路地方の患者約二十人と一緒に、買い物途中の市民にパンフレットや風船を配り「腎臓バンク登録にご協力を」と呼びかけた。また中村事務局長や上田弘・同腎友会長らの代表はこのあと、市役所に轉脚

昭和59年7月26日 北海道新聞

く、マイクを持ち、チラシ、ティッシュ、風船などを配り、登録をうったえる。買物中の市民が大勢いてキャンペーンにも熱が入る。透析を終えた人もかけつけてくれて、大いに盛り上がった。大熊さん、伊達さん、木口さん、東山さん、志谷さん、田中さん、塩田さん、そして森川氏、大友氏、斉藤氏、酒井氏、斉藤氏、渡辺氏、橋本氏、三原氏、佐々木氏、貝研司氏、長岡氏、村上氏、早坂事務局長の顔もみえる。みなさん有難うございました。

次いで、市役所に釧路腎友会の役員さ

んと向かう。市長応接室で鰐淵市長さん始め市幹部の皆さんに迎えていただいた。

青年市長さんのテキパキとした指示で、われわれの願いを各担当にそれぞれお話ししていただいた。また、われわれのキャンペーンに賛同してカンパ金を市長のポケットマネーで協力いただき、恐縮しました。

次いで釧路新聞社に寄り、取材を受け、釧路市立病院の透析室を訪れました。丁度夜間透析に入る時間で、みんな透析中でした。ベッドを回り仲間の皆さんと短い時間ながらいろいろと話し合うことが出来、いかに多くの人が移植を希望して、今透析を頑張っているかという事でした。一応の日程を終り、われわれ自身が透析を受けなければなりません。勤医協病院に行き、バジャマに着換え、予定より一時間あまり遅れましたが、透析に入りました。全員が他の病院で透析するのが初めてでしたが、いつか疲れのせいか寝入ってしまいました。

終わって、十一時すぎに宿舎のホテル

アダチに戻り、遅い夕食を軽く食べて、十二時すぎベッドにもぐり込む事ができました。

今日の走行キロは、一五四キロ。

七月二十六日（木）、前日、風呂にも入れず遅くなったので、スツキリしない朝でした。今日は一番キツイ日程です。今日中に旭川に入らなければなりません。回る市町村も八カ所、シンドイナア……。

景勝の地阿寒も横目でながめ日程消化

八時に朝食を済まし、弟子屈町まで同行してくれる水沢氏、橋本氏、早坂局長がホテルに到着、エンジンスタート、天気はくもり、一路鶴居村に向かう。途中で雨が降り出し、街頭キャンペーンが心

賢臓提供呼びかけ

来朝の全道一周
キャラバン隊 市長にも協力求める



賢臓提供を呼びかける会道一周キャラバン隊（隊長・中村信夫道腎協事務局長）が二十五日午後、釧路入りし、長崎屋釧路店前で賢臓提供を訴えたあと、同三時半に市役所を訪れ、鶴居市長に協力を求めた。

五月二十八日に財団法人北海道腎臓バンクが設立、続いて八月一日には市立札幌病院に腎臓移植センターの開設が決定している。この二つの機会

街頭で賢臓提供を訴えるキャラバン隊

関がその機能を十分に發揮できるように、道腎臓病者連絡協議会がキャラバン隊を結成二十四日から道内各地を回ってキャンペーンを展開しているもの。

釧路地方腎友会役員とともに市役所を訪れたキャラバン隊の中村隊長は「私たちは週二、三回、数時間の人工透析を続けているが、腎臓病を根治するには移植しかない。腎臓提供登録を多くの人に訴えていきたい」と語っている。

釧路新聞
昭和59年
7月26日

配だ。

鶴居村では長者村長が待つておられた。地元腎友会のメンバーと共にいろいろ要請し、街頭キャンペーンは中止、直ちに弟子屈町に向かう。空は少し明るくなってきた。役場では町長、助役が不在で、村上総務課長補佐にお会いいただく。ここで釧路の皆さんと分かれる。指示



大上美幌町長の見送りをいただき、役所前で1枚

された道を二十五キロばかり入り、双岳台あたりで、これは道がちがうと気づき引返す。屈斜路湖が見えないのでおかしいと思っていたが、やはり、今日は時間のロスが許されないと注意していたのに何たる失策、住野氏がスピードを上げる。しかし、北見腎友会との約束の場所、美幌町役場についた時は丁度一時間の遅れ。やはり、心配して弟子屈の役場に電話し



北見久島助役さんに患者の苦しみを訴える

てくれていた。申し訳ない。
 役場には、北見から川窪会長、鈴木氏、尾藤氏、中崎氏、長谷川氏が合流する。急いで、一緒に大上町長さんをたずねる。「遅かったですね、途中事故でもあったんですか」と心配して下さる。遅れをお詫びし、さっそくいろいろとお願ひ。「分かりました」と力強い返事をいただく。わざわざ、玄関まで見送っていただ



旭川腎友会の皆さんとの交流会

き、一人ひとり隊員と激励のことはとくに握手。遅い昼食ながら急ぐためソバ屋に飛び込む。急いで食事を済ませ、いざ発車という時、バンクを見つけ、一同ガツクリ。近くのスタンドで急いで取り換え、一路端野町へ。風光明媚な美幌峠もあっさり通過、観光気分にもひたれない。アア……。

端野町は北見市と接している感じ、町

長、助役不在で田中総務課長が応対に出してくれる。くわしく説明し、協力を仰ぐ。しつかり町長に伝えましょう、出来る限りの事は致しましょうと力強い返事をいただき、玄関まで見送っていただき北見市に入る。午後二時すぎ、すでに二五〇キロは走破している。疲労はだんだんたまってみんな無口だ。住野氏だけがハンドルをがっちりぎって車は進む。鈴木副隊長は鉋路で透析をしなかったので体調が心配だ。岡根君は若いだけにまだ元気そうだ。小生はいささか暑さも加わり、動作がにぶい。

北見に入り、約束の時間があるので、市役所に急ぐ。市役所で久島助役が待っていて下さった。地元の北見新聞、北見毎日の記者がわれわれの応接室での取材に当たっていた。地元の腎友会の庵さん、花岡さん、原口さんさらに中湧別から前会長の井上氏もかけつけ、十三名の会員で助役さんにいろいろな問題、地元の要望を含めて、お願いする。助役さんから、北見の患者のためにも腎バンクへの協力をおしませんとのご返事をいただき、

われわれも元気が回復しそうだ。
直ちに市内の二条通りの商店街におい

て街頭キャンペーン。陽差しも強まり、
日陰をさがして、チラシを配る。地元新

聞の記者も取材してくれる。およそ一時
間、予定のチラシもなくなり、地元の会

人工透析患者に生きる希望を、腎バンクへの腎
提供登録を呼びかける全道キヤラバン隊が二十六日
北見入り市役所に市長を表敬訪問した後、二条通り
でキャンペーン活動を展開した。道内の透析患者は
二千五百人、北見市内だけでも五十人を超え、年々
増加しているのが実情。しかし、バンク登録数は思
うように伸びず、患者自らがキヤラバンを組み実践
活動に乗り出したわけだが、関係者は「これを機に
腎バンクの存在がPRできれば」とキヤラバン「効
果」に大きな期待をかけている。

腎提供登録訴え

道腎患 連絡協 全道キヤラバン隊北見入り

この全道キヤラバン隊は五
月末に北海道腎臓バンクが発
足、八月には道腎臓移植セン
ターが開設されるを記念し

の腎臓提供登録を呼びかける
のが最大の眼目。中村信夫事
務局長(内)をリーダーとする

が現状では唯一の方法。患者
たちの奔走です。腎バンク
が発足、この八月には移植セ
ンターが札幌に開設される選

透析に希望 人工患者を 人患望



歩二次キヤラバン隊四人は二
十四日に札幌を出発。苫小牧
一帯広一廻路を巡って二十六日
午後二時すぎ北見入りした。
難病といわれる慢性腎不全
で人工透析を受けている患者
は全道で二千五百人、五十七
年と比較すると四百人も増え
ている。北見では北見地方腎
臓病患者連絡協議会が組織さ
れているが「北見市内だけで
患者は五十人を超えていま
す」と川津純次会長。患者は
週二回、定期的に透析を受け
なければならず健康のみなら
ず社会生活の面でも大きなハ
ンディを背負わされている。
根本的な治療法として腎臓植

移により、人工透析の必要が
なくなる。腎臓移植は、腎臓
提供登録を呼びかける。およ
そ一時間、予定のチラシもな
くなり、地元の記者も取材し
てくれる。およそ一時間、予
定のチラシもなくなり、地元
の記者も取材してくれる。お
よそ一時間、予定のチラシも
なくなり、地元の記者も取材
してくれる。およそ一時間、

昭和59年7月27日

員に別れをつけ次の目的地、留辺蘂町に向かう。

遅れも取り戻し、予定通り午後三時すぎ役場に着く。木材の町だけに、木の工芸品がならぶ応接室に入る。春木助役が暖かく迎えてくれる。われわれの労をねぎらい、広報紙への掲載、登録窓口の手伝いなど、さらに「我々の要求」を読んで、出来る事は当町でも取組みますと答えてくれる。われわれの苦勞もこのようにご返事をいただけると報われる感じだ。ご協力を感謝し、ここで、同行してくれた川窪会長、尾藤氏、長谷川国広氏と分かかれ、大雪国道を一路上川町をめざす。

住野隊員が睡眠不足気味とつかれが重なる。隊長の中村がハンドルを握る。また、北海道の背骨を越えなければならぬ。一四〇〇メートルの石北峠めざして車は進む。休む間もなく峠を越え、一気に下る。大雪ダム、層雲峽と景勝地も隊員は眠り続ける。少々遅れて上川町役場に五時すぎに着く。役場はしまっている。町を流し、出迎えに来てくれた松山旭川腎友会会長の先導で今日の最終目

的地旭川市に向かう。

予定通り午後六時、旭川市の石田病院に着く、十数人の会員が出迎えてくれる。柳本副会長、川添事務局長、斉藤さん、佐藤さん、原田氏、熊田氏、大石氏、早坂氏の顔が見える。旭川での交流会に出席のため、岩崎会長も札幌からかけつけ、われわれを迎えてくれ、一人ひとりにねぎらいの言葉をかけてくれる。

まだ、街頭キャンペーンが残っている。直ちに、駅前通りの買物公園に車を止め、キャンペーンに入る。夕暮れの会社帰りの人、買物中の市民にチラシを配る。「糖尿病だけれど登録できるかね?」「一家で登録しますので申込力二枚下さい」と若いお嬢さんがもらってくれる。七時前に予定の夕食交流会場へ行く。石田院長招待の夕食交流会場へ行く。

おいしい中華料理を食べながら、にぎやかに交歓が始まる。アルコールも若干入って、つかれが出てくる。患者同志の結婚式がこの秋あり、松山会長が仲人を引き受け、患者仲間が大勢出席して祝うそうです。元気な赤ちゃん誕生を祈る

(少し早いかな)。移植が奥さんに出来れば楽に生めるんだがなあと考えている内に石田院長が、一日の仕事を終えて駆けつけて下さる。医者と患者というよりも、石田医院での医師と患者との結びつき、先生を父の様に慕う家族的な雰囲気がある。お互い生ある限り付き合っていかなければならない間柄だ。透析患者が持つ事のできる医師とのふれ合いだ。一日おきに顔を合せる仲だ。

つかれた隊員を早く寝かせようとの配慮で、九時まえに会も終わり、今日の宿舎、松山氏の紹介である電々公社の職員クラブに着く。管理人さんが外出中との事で風呂に入らず、汗ばんだ身体は流せない。それに内陸性気候の旭川、むし暑くてなかなか眠れない。岩崎会長にキャンペーン中の話をしている内に眠りに入る。

今日の走行キロは四〇〇キロを越えた。かなりハードスケジュールの一日だった。この三日で九〇〇キロ近く走った事になる。明日は第一次の最終日だ。

暑さとつかれでダウン寸前 激励の千羽鶴で一いき

七月二十七日(金)、朝から陽ざしが厳しい。今日は暑くなりそうだしつかれも重なっているし、気をつけてキャンペーンを続けよう、みんなで確認して朝食を終え、車に乗り込む。松山会長が出動前に見送られる。岩崎会長も滝川まで同行して



滝川クリニックで初キャンペーンの打合せ

くれる。今日は、第一次の最終日だが、今日の行程は道腎協加盟のプロックは一つもない。組織の空白地域だ。かねて、全道の患者が一体となって患者運動を進めたいと念願しており、未組織を解消したいといつも会議で論議されるが、いま

ジン臓病の苦しみを救って

滝川 キャラバンがバンク登録訴え



八木沢さんから千羽ヅルを渡されるキャラバン隊員

【滝川】「私たちの苦しみを救って下さい」一生きのために隔日五時間の人工透析を続けているジン臓病患者らで作る北海道腎(ジン臓病患者連絡協議会(岩崎篤会長)主催のジン臓移植普及啓発全道キャラバンが二十七日、滝川市を訪れた。全道キャラバンは五月二十八日、道腎バンクが発足、八月一日には患者らの念願の腎臓移植センターが札幌市立病院に開設されるのを記念して行われた。同協議会の中村信夫事務局長を隊長に四人のジン臓病患者がメンバー。二十四日札幌を出発した一行は途中で人工透析を受けながら道東を回って来た。

滝川市役所前で市理事者や市立病院に入院中の患者らから激励された後、中・北空知の透析センターの「腎友会滝川クリニック」を訪問。腎臓院長らの出迎えを受け、透析歴五年の八木沢尊子さん(三三)から千羽ヅルを渡された。続いて市内の繁華街で、同クリニックの職員、患者らも加わり、道行く人々に腎臓バンク登録への理解を訴えた。

腎臓バンクの問い合わせは札幌市中央区南七西八、同協議会(電011(512)1615)へ。

昭和59年7月29日 北海道新聞

だ実現しない。実態だけでも知りたいと今回のキャンペーンに当たって、目的の一つにもなっている。

まず滝川市に入る。市立病院に向かう。あらかじめ連絡が出来ていないので事務長に面会できず、総務課長さんに会ってもらう。今回の目的を話し、特に患者さんの実態を伺う。市立には七名の患者さ



森永歌志内市長を訪問、協力を要請する

んが午前透析しているとの事、透析室にも案内していただく。丁度透析中、みなさんに挨拶して会活動について説明し、空知ブロック結成、その前に病院患者会を作っていたかのように話す。患者が少ないので会までは作れないが機関誌の配布、全道的な活動に理解をお願いする。当日、同病院で透析している江部乙町の渡辺玲子さんがお母さんと機関誌で日程をみて、支関に待っていてくれた。さっそく渡辺さんに道腎協との連絡役をかつ



市立三笠病院で医師と患者の状況説明を聞く中村隊長

てもらいパイプだけはつなげる事ができた。

外に出ると、腎友会滝川クリニック透析者の会の会長馬飼野さんが迎えに来てくれた。来年は道腎協に入ってもらって一緒に活動していく事になっている。

一緒に滝川クリニックに向かう。ここは六十名近い近在八カ町村から透析に来ているという。浜益村からも通っているとの事。院長の菅原先生は、隊長と高校が同級だ。今は医者と患者のつながりがわれわれのキャンペーンに理解を示し、御厚意を受ける。さらに冷えたプリンをいただき、暑さと疲労で疲れていたわれわれも一息つく。

さらに患者さん方がキャンペーンの成功を祈って折ってくれた、千羽鶴をいただく（改めて御礼申し上げます）。

次いで、滝川市では初めての街頭キャンペーンを患者さんと一緒に商店街で始める。滝川クリニックの浜口看護部長さんも熱心に協力してくれる。おおよそ一時間、かなり時間をオーバーしたが、多くの人にチラシを配る事ができた。

ここで、鈴木副隊長と岩崎会長が透析があるので、隊を離れ、汽車で札幌に向かう。隊は、中村、住野、岡根の三人となる。

十一時すぎ、次の訪問地、赤平市へ。時間がないので、歌志内市に直行する。

歌志内市は炭鉱の町だが、今はいろいろな施設があり、福祉都市といっている。ほど力をいれている森永市長にお会いする。キャンペーンの趣旨にご賛同下さり、金一封をいただく。登録促進についても全面的な協力をいただき、空知の市町めぐりが暑さの中、バテ気味ながら続く。

午後二時すぎ、三笠市の市立病院に着く。ここは各透析施設と結ぶサテライト方式の中心病院の一つで、全道から入院の患者が四十名近く、地元と近隣町村の患者が二十人ほどいる所だ。長い入院生活者も多い。室蘭市から来ているM君は、地元の中学に通学しながら入院生活を五年も続けている。来年は高校に行くとして試験勉強に張り切っていた。週末だけ両親のもとに帰るといふ。入院患者の多くは合併症が多くほとんどストレッチャーで

移動している。早く元気になって家族のいる病院で透析できますように。

また、ホルモン不足で成長の止まっている患者もいる。早く移植のチャンスがあれば今頃は健康に社会生活をおくっているとと思うと、患者同士が助け合わねばと痛感する。

愈々最後の訪問地、岩見沢市に入る。市立病院を訪れ、事務室を訪問した後、透析室を訪れる。新しい病棟がすでに完成し、透析室も一部使用されている。

患者会がないので、泉婦長さんに別室でお会いし、いろいろな患者の事や患者会ですまよ、その時はご連絡しましょう」と心配してくれる。

この頃、三人の疲れはピークに達する。このまま透析に入りたい気持ちだ。普段出ない汗が身体中流れる感じだ。

さあ、早く札幌に入って透析をしよう。岩見沢から高速道路を一気に札幌市内へ。路面は照り返しが強い。窓を一ぱいにあけスピードをあげる。

四時すぎ、各隊員はそれぞれの病院で

夜間透析に入る。

今日の走行キロは丁度二〇〇キロ、第一次キャンペーンの合計は一、〇七〇キロ余り、チラシも一五、〇〇〇枚配った。登録カードもすでに五〇〇枚近く出ている。

有難かった

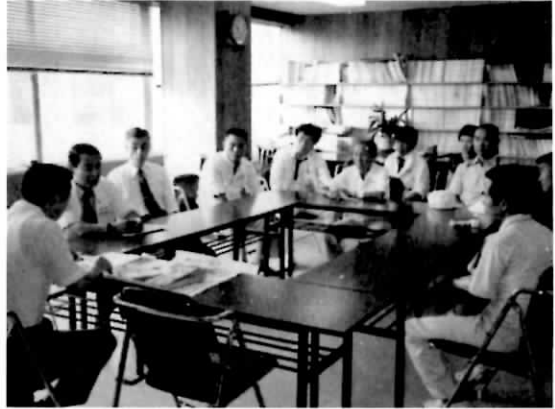
函館難病連の応援

八月十一日、今日から第二次キャンペーンの開始だ。中村と住野は同じ、新たに室蘭腎友会の佐藤昇事務局長が参加してくれる。若い人は、札幌東クリニックの千葉君と未透析だがネフロローゼ患者の桜田君が加わる。総勢五名だ。

道難連センターを八時に出発、快晴、早朝で混んでいる五号線を走り、手稲から高速へ入る。

小樽市には、予定通り約束の、うの外科クリニック前に到着。

早朝にも拘らず、津田会長始め、飯田さん、渡辺さん、今津さん、小林さん、仁木さん、船木さん、高格さん、広谷さん



小樽保健所を訪問、医療体制など伺う

ん、吉田さん、西田さんが待っていてくれた。

さっそく、NHK前の通勤途中の市民にPRしようとの事で出発。ところが難病連から借りたマイク装置でコードが乗ってない。街中走り回ったが、早朝なのでまだ店が開いていない。残念ながら声なしでチラシ配りをやる。

市役所を訪問する約束の時間が来たので、街頭でのキャンペーンを終え、市役所に向かう。市役所では、市長が会議中

との事で、福祉部長の宮崎氏が応対に出て下さる。

全員で面会しようとの事で部長室があふれる。その中で、第一次と同じようにいろいろとお願いをする。

続いて、保健所を訪れる。約束の所長が不在で部長さんが会って下さる。

窓口での登録の仕事をお願いし、俱知安町まで同行してくれる津田会長さんら五人と共に余市に急ぐ。



俱知安厚生病院訪問、透析中の仲間に入会をよびかける

マイクの修理のため予定より大幅に遅れ、すでに余市町に着いた時は、十二時少し前、急いで役場に行き、町長さんに面会を申し込んだが不在、部長も会議中で、担当課長が会って下さる。

次いで、田中内科病院を訪ねたが院長が忙しく、事務長も不在で、止むなくご挨拶だけして一路仁木町へ。もう十一時を超えているので、役場に寄らず、五号線を俱知安に直行する。

俱知安町では、病院が新築され、新たに昨年から透析が始まった厚生病院に向かう。長谷川看護主任さんにお会いし、透析中の十数人の患者さんといろいろとお話をする。

患者会は透友会といい、山下氏が会長をしておられる。今後は小樽、後志ブロックと一つとして活動されるようお願いし、ニセコ、蘭越町と後志管内の町々を走る。俱知安町では、津田さん、飯田さん、渡辺さん、今津さん、小林さんと一緒に昼食をとり、ここで分かれる。

噴火湾が見える長万部町に着く、帰りがキャンペーンの予定なので、八雲、森、



薄暮の中、キャンペーン参加者全員で一枚

七飯と同じように通過する。
途中、大沼公園で道南腎協の渡辺氏の
出迎えを受け、七飯をすぎ、予定の五時
半すぎ、函館市のグリーン・プラザ前に
到着する。すでに、道南腎協の皆さん、
難病連函館支部の皆さん、近江支部長さ
んも不自由な身体ながら、われわれ腎臓
病患者のために駆けつけて下さった。
始めに、隊長から挨拶があり、みんな
でそれぞれ、四つ角に立ち、街頭キャン
ペーンが始まった。一日の仕事を終えて

家路に急ぐ人、買物
帰りの人、アベック
の人も通る。
一時間を超える時
間、熱心にチラシを
配る。特に申込み用
紙を求める方が幾人
も出る。実際の登録
結果が期待される。
参加された方は、
平田泌尿器科から中
野さん、児玉さん、
田沢さん、武田さん、
渡辺医院からは福田
さん、渡辺さん、石
山さん、五稜郭病院
から原田さん、斉藤
さん、山口さん、白
石さん、山口さん、
協合病院から杉本さ
ん、佐々木さん、仲
野谷医院からは釣巻
さん、さらに、スモ
ン病の近江さん、山

腎臓病患者に愛を

腎提供を訴えるキャラバンと患者ら一函館・グリーンプラザで



全道キャラバン
バンク登録訴え

腎(シン)臓移植にご協 腎臓病のため人工透析を この日はグリーンプラザ
力を、北海道腎臓病患者 受けている患者は道内でも、札幌から到着したキ
連病協会の「腎臓提供登 二千五百人、移植は約二 ラバンクは約五百人と地元の腎
促進会と一関キャラバン 百人いる。だが、根本治療 臓病患者二十人が「腎バ
である腎移植は、腎の提供 安でチラシを配布。「腎バ
ンク」が十一日、道南入りし、 者が少ないため立ち遅れて、 シン臓の登録は「函館」で
函館市松風町のグリーンフ あり、道内では約八百人が移 い「セミナー」で募集した
ザと七飯町中心地で街頭キ 植を希望しながら待たされ、 腎提供についての問い合わせ
ャンペーンを展開した。 ている状態。今年五月と八 月は函館市、札幌市、旭川市、
道南腎臓移植センターが設 六、おわたじビル内、集り 立されたことをきっかけに、全道キャラバンが編成さ
された。



夜の湯の川で各病院代表と懇親交流会

本さん、膠原病の扇田さん、パーキンソン部会から金子さん、二分背柱部会から武藤さん、ダウン症の桜田さんと難病連の皆さん、誠に有難うございました。

日中暑かった日差しも、夕方になるとこち良い風も加わり、隊員の疲れも感じない。

函館に来て大事な用が一つある。去る七月に逝去された、道南腎協の石原会長（道腎協副会長）のお参り。家に奥様一人との事、しかし、お店に出ておられる

との事で、湯の川のホテルのお店に急ぐ。奥さんにお会いし、葬儀に参列できなかったお詫びを申し上げおくりやみを申し上げます。

夜は、花火大会でにぎやかな湯の川の寮で、各病院患者会の代表五人と隊員の交流会を夕食を兼ね始まる。いろいろな問題が提起され、議論が白熱、社会復帰、透析治療、移植の問題点など、九時すぎまで行われ、その後、ゆっくり温泉につきり、つかれを癒して、夢路に入る。この日三三〇キロ走破。

室蘭民報へ、登別市へ 日頃のご支援に感謝

八月十二日（日）、朝九時、函館を発つ、森、八雲と街頭キャンペーンのみ行い、長万部に入る。ここで室蘭腎友会の佐藤会長、石井副会長、合田氏、鈴木氏、篠原健一氏と駅前で合流する。日曜日、休日なのに有難い。さっそく、駅前広場と国道沿いをキャンペーン。国道で信号待ちの車中の人にもチラシを配る。



伊達長崎屋前で買物客にキャンペーン

そのあと、長万部名物の力二めしで昼食をとり、豊浦町、（農協ストア前）、虻田町（駅前）とキャンペーンを続け、三時すぎ伊達市に入り、長崎屋前広場で、店長の許可を得て、キャンペーンを始める。大植洋子さんが新たに加わる。小一時間のあと、室蘭市に向かう。

室蘭市では、真直ぐ、いろいろご協力をいただいている室蘭民報社に直行、編



室蘭丸井デパート前で参加者とパチリ

集局長に快撥のあと、高木記者のインタビューを受け、丸井デパート前の街頭キャンペーンの場所に急ぐ。ここで、佐藤さん、中津氏、奥さんも応援に、室さん、それに看護婦の中村さんも駆けつけてくれた。総勢十五人でチラシを配る。丁度、相撲さん一行が巡業に来ており、おすもうさんにもチラシを渡すと「輸血ならするが、腎臓は少し待ってくれ」との事、

「早く強い関取さんになってね」と激励する一幕もあった。

夜は、今次キャンペーンの最後の宿泊なので、登別グランドホテルに宿泊し、室蘭腎友会の役員さんも泊まって夜おそくまで、交流会が続いた。この日走行二六五キロ。

最後の札幌、大通公園お互いの健闘をたたえ打ち上げ

八月十三日、愈々最終日となった。温泉街をおりて、国道沿いの本町の市役所に伺う。平日なので、役所の訪問が再開する。

市役所で関藤助役が待っていて下さった。腎疾患対策、腎登録運動では、全道有数の熱心な市で、日頃の協力のお礼を述べ、今回のキャンペーンの趣旨を話し、改めて協力をお願いする。「更に努力しましょう」と力強いご返事をいただき、次の白老町に向かう。

白老町では、先日の日曜日、町職員が海水浴で溺死したとの事で、葬儀の忙し

い中、山手町長にお会いできた。また、社会福祉協議会の野村義一会長、保健指導係長の星さんにも面会でき、具体的にいろいろお願いする事が出来、わざわざ車まで送っていただき、一路高速道路を使って、千歳市へ入る(苫小牧は第一次の日程に入っている)。千歳市に入って、時間を合せて一時丁度に市長を伺う(千歳の患者会のお力で予定をとっていたいた)。

東峰元次市長、堤民生部長が昼休み時間から待っていたいたとの事、かえって心配をおかけし恐縮する。千歳市の厚い通院助成事業に感謝をする。市長から千歳市にも患者が増えてきたので、市立病院に透析室を設置したいと、方針を伺い、私共にとって誠に嬉しい計画だ。くれぐれもお願ひし、時間がなくなり、恵庭市は次回の時にお邪魔する事を誓い、高速を走り、最終地、札幌の大通公園へ一走り。佐藤副隊長は透析のため、ここで分かれ、愈々今回のキャンペーンの総しめくり、札幌市に入る。町並みが新鮮に見える。豊平川を渡り都心に入る。

献腎登録を呼び掛け 全道キャラバン室蘭入り

「献腎登録に、ぜひ協力を」と。北海道腎移植センター、北海道腎バンク開設を記念して、七月末実績で約三千七百の腎提供登録促進週一周キヤンペーン・キャラバン（中村信夫隊長、五人）が、十二日午後室蘭入りし、室蘭民衆社を訪れて趣旨を説明、理解を訴えた後、市内中島町の丸井今井室蘭支店前で、道行く市民に献腎を呼び掛けた。

今キャラバンは、先月下旬の道東一巡に続く第二陣。十一日に札幌を出発し、この日函館から室蘭入りした。翌日は、まず献腎PR、献腎登録は五十二年から実施されており、七月末実績で約三千七百（道内）実際の腎提供標準は年間、登録者五千人に一人といわれるだけに、腎バンク開設を契機に弾みをつけ、今年中に二万人を達成したいと意気込んでいる。

一行は、室蘭地方腎友会佐藤利国会長（メンバー十人）と白旗し、午後五時半から中島町の繁華街でPR活動。チャリや風船などを市民に配って、献腎登録を呼び掛けた。キャラバンは、きょう十三日、登別、白老、千歳などを回って最終目的地の札幌に入る。献腎登録に関する問い合わせは、北海道腎バンク（電話011-261-2033）まで。



12日に室蘭入りした腎提供登録促進週一周キャラバンの一行

昭和59年 8月13日 室蘭民報

昭和59年 8月14日 北海道新聞



○：中村隊長自身、週三回の人工透析を受けているが「これまで登録者は三千人。キャラバンの中は、直接単に登録申し込みに来る人など、反応も良かった」と説明。東峰市長も「広報誌で登録の呼びかけをします」と、一行を励ましていた。

○：人工透析を続ける患者のため、道内にも今年、シン臓バンクとシン臓移植センターが発足。同隊はバンクへのシン臓提供登録を訴えるため、七月末から2回にわたり、車で道内を回った。今回は道南から札幌に帰る途中。市役所で中村隊長「写真左」が、東峰市長に登録促進の趣意書を渡した。

○：シン臓患者連絡協議会の、全道一周キャラバン隊（中村信夫隊長）が十三日、千歳市役所を訪れた。



○：シン臓患者への登録を広めようと、



東峰千歳市長を訪問、市立病院での透析開始の意向を伺う

全国統一キャンペーンのなじみの場所、駅前通りに進む。札幌腎友会のメンバーが見える。庄司会長、鈴木副会長、村本事務局長。各病院の幹事の皆さん。透析を終わったばかりの会員、これから透析に入る前の時間をさいて駆けつけてくれた夜間透析の皆さん、総勢二〇人余り。マイクを持つ手にも力が入る。「道内二



札幌大通公園最後の街頭キャンペーン

千キロを走破し、只今札幌に帰って参りました」「多くの道民の皆様の暖かいご協力を各地でいただき、大きな成果を挙げた事が出来ました」「札幌市民の皆様何卒よろしく」と日差しの強い中、公園で休んでいる人、路上の人に、力強く呼びかける。本州からの人が帰ったら地元で登録しましょうと約束してくれる。風



中村 信夫隊長

船も無くなる。ティッシュもなくなる。チラシも予定通り消化。一時間あまりのキャンペーンを終え、夜間の人は病院に急ぐ。

われわれ隊員も、それぞれの病院にかけつける。大きな仕事を終えた満足感とこち良い疲労感を感じつつ、ベッドに横になる。みんなが労をねぎらってくれる。いつの間にか浅い眠りに入っていた。

今回のキャンペーンは、全国的にも何泊もして行うのは、おそらく初めての事でしょう。それは広大な地域を持つ北海道だから出来たと言えましょう。二、〇〇キロ近く、走ったのですから。

賛助金をご協力下さった多くの皆さん、

有難うございました。各地の腎友会の皆さん、われわれの行動に大きなバック・アップをしていただいて有難うございました。そして、登録をしていただいた道民の皆さん、誠に有難うございました。まだまだ登録を必要とする数は少ないですが、皆様一人ひとりの善意が積み重なり、大きな力となって、移植を希望する透析患者の明日に、大きな夢と力と希望を与えてくれる原動力となる事と感謝申し上げます、報告いたします。(隊長 中村信夫記)

当時事務局長であり、隊長の中村信夫氏(昭63年)第二次副隊長の佐藤 昇氏(昭62年)、第一・二次隊員の住野健次氏(平10年)は、それぞれ逝去されております。改めて心よりご冥福をお祈り申し上げます。

腎登録促進全道一周キャラバン・キャンペーン



第2次隊員
(札幌)
千葉 重則



第1・2次隊員
(札幌)
佐野 健夫



第1次副隊長
(札幌)
鈴木 啓三



第2次隊員
(札幌)
桜田 泰憲



第1次隊員
(札幌)
岡根 徳政



第2次副隊長
(室蘭)
佐藤 昇

全道キャラバン 大きい成果



広がるジン臓提供の輪

七月二十四日二十七日まで、第 二次は今年十一月までの けもした。
間、道東、道南のあわせて 五十市町を巡回し、街頭でチラシ を配るなどして住民に協力を呼び かけた。
岩崎会長は「これまでどちらかとい

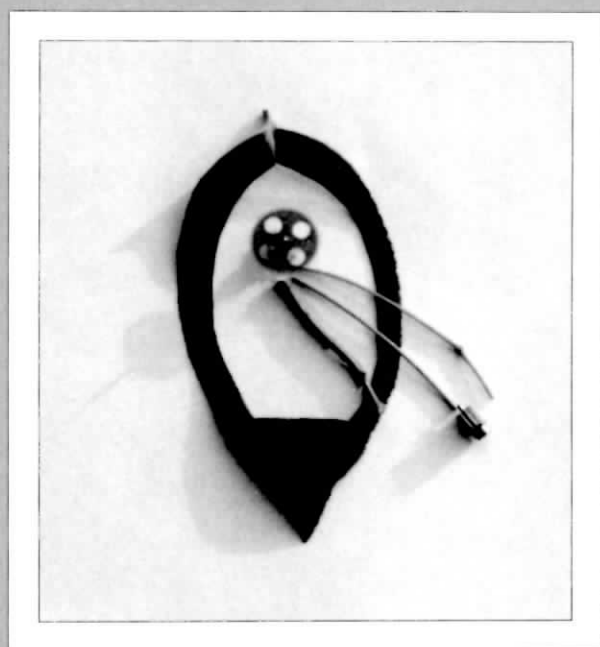
七月から道ジン臓提供連絡協 議会の協議が、会員千五百 人が二班に分けて実施したジン 臓提供登録推進のための全道一周 キャンペーンが大きな成果を収め、 人も集まり、キャラバン隊長とし て登録業務を受け持つジン臓バ ンクと移植手術などを担当するシ ン臓移植センターと連携して、死 各地で新たに登録した住民は約二 千人に達した。同協議会は、集まった

二百人が新登録

若者にも理解を深める

百人とくに、二十歳代を中心に 登録カードを返す道ジン臓バンク 若者層にジン臓提供への理解が深 まで大々として、同協議会は感激し ている。
今回のキャラバンは、シン臓病 患者の長年の願ひだった道ジン臓 バンクと道ジン臓移植センターの 間取り合点して行われた。第一次

金融機関など民間からのものを含 めると、寄付金の総額は百万円近 くに達した。期間中、職員は各地 の病院六十カ所人工透析患者と 患者らに見送られ礼儀を出発す るキャラバンのメンバーたち
7月24日午前8時30分



資 料 編

年度別役員名簿

●昭和52・53年度

土江太郎	高木昭蔵	金巻卓郎	田中竜一	武田誠剛	藤田勉	大西政弘	西嶋重夫	留目英生	増田康彦	菊地憲二	赤松明	宮嶋真理子	鈴木啓三	古賀貞二	阿部隆	廣岡達矢	五百島制也	細川哲夫
(室蘭)	(室蘭)	(道南)	(道南)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(苫小牧)	(室蘭)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(苫小牧)	(室蘭)	(札幌)

●昭和54年度

岩崎薫	宮嶋真理子	鈴木啓三	阿部隆	福士博明	留目英生	堀口功	廣岡達夫	細川哲男	西本昇	玉根靖子	八代洗	梅津政一	加賀健一	早坂要	谷沢忠	石川后郎	清水新太郎	吉田一郎
(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(室蘭)	(苫小牧)	(札幌)	(苫小牧)	(苫小牧)	(帯広)	(帯広)	(釧路)	(釧路)	(北見)	(北見)	(北見)	(留萌)

●昭和55年度

副会長 廣岡達夫	会長 岩崎薫		池田錠治	五十嵐与三郎	重堂忠美	梅津政一	早坂要	上田弘	竹田昂	伊藤正衛	平田好作	石井俊光	土江太郎	中野龍一	釣巻卓郎	武田誠剛	阿部栄	渡辺俊雄	菊地憲二
(苫小牧)	(札幌)		(苫小牧)	(苫小牧)	(十勝)	(十勝)	(釧路)	(釧路)	(北見)	(留萌)	(留萌)	(室蘭)	(室蘭)	(函館)	(函館)	(札幌)	(札幌)	(苫小牧)	(室蘭)

年度別役員名簿

小野寺 三千男 (留萌)	吉田 敬子 (苫小牧)	佐竹 信夫 (苫小牧)	田中 中央 (室蘭)	堀口 卓功 (室蘭)	釣卷 卓郎 (函館)	中野 龍一 (函館)	阿部 誠剛 (札幌)	武田 誠剛 (札幌)	松山 近義 (旭川)	渡部 俊雄 (苫小牧)	堀口 嘉郎 (室蘭)	津田 嘉郎 (小樽)	宮本 好和 (札幌)	坂上 敏弘 (札幌)	宮嶋 真理子 (札幌)	鈴木 啓三 (札幌)	阿部 隆 (札幌)	福士 博明 (札幌)	留目 英生 (札幌)	田中 繁雄 (室蘭)
--------------------	-------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------

●昭和56年度

宮本 好和 (札幌)	宮嶋 真理子 (札幌)	留目 恭子 (札幌)	福士 博明 (札幌)	阿部 隆功 (札幌)	堀口 功夫 (室蘭)	副会長 廣岡 達夫 (苫小牧)	會長 岩崎 薫 (札幌)	岡崎 輝幸 (帯広)	加藤 健聖 (帯広)	早坂 要弘 (釧路)	上田 弘忠 (釧路)	谷沢 忠茂 (北見)	井上 健一 (北見)	川添 健義 (旭川)	松山 近義 (旭川)	早坂 栄二 (稚内)	柏木 新造 (稚内)	南義 光 (留萌)
------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	--------------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------

●昭和57年度

村本 徳雄 (札幌)	鈴木 修一 (苫小牧)	中村 信夫 (札幌)	宮本 好和 (札幌)	阿部 隆功 (札幌)	堀口 功夫 (室蘭)	石原 三夫 (函館)	松山 近義 (旭川)	鈴木 啓三 (札幌)	井上 茂弘 (北見)	上田 弘夫 (釧路)	副会長 廣岡 達夫 (苫小牧)	會長 岩崎 薫 (札幌)	上田 弘夫 (釧路)	鈴木 修一 (苫小牧)	津田 嘉郎 (小樽)	坂上 敏弘 (札幌)	鈴木 啓三 (札幌)	松山 近義 (札幌)
------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	--------------------------	-----------------------	------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

年度別役員名簿

幹事

庄司勝利	大西政弘	柳本健一	川添隆七	乙竹自立	渡辺興治	飯田定一	寺嶋理一	薄藤健爾	加藤哲夫	小椋子	玉根靖好	新沼和一	水沢秀一	早坂要昇	小玉悟夫	松野正忠	金沢忠	谷沢忠	生沢公太郎	福田一成
(札幌)	(札幌)	(旭川)	(稚内)	(小樽)	(小樽)	(留萌)	(留萌)	(帯広)	(帯広)	(苫小牧)	(苫小牧)	(釧路)	(釧路)	(室蘭)	(室蘭)	(北見)	(北見)	(函館)	(函館)	(函館)

幹事
事務幹事

委員
事務局長

副会長
会長

●昭和58年度

会計監査

福田一成	船木卯之吉	庄司勝利	佐藤昇	飯田興治	村本信夫	中村信夫	宮本好和	阿部隆夫	石原三夫	松山近義	鈴木啓三	井上茂弘	上田弘夫	廣岡達夫	岩崎薫	津田嘉郎	福士博明	福原真理子
(函館)	(札幌)	(札幌)	(室蘭)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(函館)	(旭川)	(札幌)	(北見)	(釧路)	(苫小牧)	(札幌)	(小樽)	(札幌)	(札幌)

●昭和59年度

会計監査

副会長
会長

松山近義	鈴木啓三	上田弘	廣岡達夫	岩崎薫	津田嘉郎	福士博明	福原真理子	大西政弘	新倉義太郎	川添健一	新沼和好	谷沢忠	乙竹隆七	堀井和彦	渡辺自立	水沢秀一	寺嶋定一	佐藤利国
(旭川)	(札幌)	(釧路)	(苫小牧)	(札幌)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(帯広)	(旭川)	(苫小牧)	(北見)	(稚内)	(札幌)	(小樽)	(釧路)	(留萌)	(室蘭)

年度別役員名簿

石原三夫	津田嘉郎	中村信夫	宮本好和	村本徳雄	飯田興治	庄司勝利	佐藤昇	堀井和彦	堀西政弘	大西政弘	福原真理子	渡辺自立	佐藤あつ子	寺嶋定一	乙竹隆七	福田一成	元村竹平	佐藤利國	新倉義太郎	水沢秀一	川窪健次
(函館)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(小樽)	(札幌)	(室蘭)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(小樽)	(旭川)	(留萌)	(稚内)	(函館)	(苫小牧)	(室蘭)	(帯広)	(釧路)	(北見)

辻正広	川添健一	昭和60年度	岩崎薫	副会長	廣岡達夫	上田弘	鈴木啓三	松山近義	津田嘉郎	中村信夫	宮本好和	福原真理子	猪村和子	飯田興治	佐藤昇	中野龍一	川窪健次	堀井彦次	大西弘	岡根徳政	
(札幌)	(旭川)		(札幌)		(苫小牧)	(釧路)	(札幌)	(旭川)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(小樽)	(室蘭)	(道南)	(北見)	(札幌)	(札幌)	(札幌)

渡辺自立	佐藤敦子	池田利男	乙竹隆七	山下昭治	馬飼野秋雄	梶沢隆弘	佐藤道美	新倉義太郎	早坂要	谷沢忠	金野正夫	井上茂	辻正弘	川添健一	昭和61年度	相談役	細川哲男	岩崎薫	廣岡達夫	上田弘
(小樽)	(旭川)	(留萌)	(稚内)	(道南)	(滝川)	(苫小牧)	(室蘭)	(十勝)	(釧路)	(北見)	(網走)	(中湧別)	(札幌)	(旭川)			(札幌)	(苫小牧)	(釧路)	(釧路)

年度別役員名簿

馬飼野秋雄	山下昭治	乙竹隆七	池田利男	佐藤昌夫	高橋夕マ	福原真理子	岡根徳政	大西政弘	堀井和彦	川窪健次	中野龍一	佐藤自昇	渡辺和子	猪村和務	芳賀好和	宮本信夫	中村信夫	津田嘉郎	松山近義	鈴木啓三
(滝川)	(道南)	(稚内)	(留萌)	(旭川)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(北見)	(道南)	(室蘭)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(小樽)	(旭川)	(札幌)

事務局長	中野信夫	津田嘉一郎	鈴木啓三	上田弘	副会長 廣岡達夫	会長 岩崎薫	●昭和62年度	柳本一	辻野正廣	星野英市	山田良明	須藤亮	井上茂	金野正夫	川股幸	橋本巖	岡崎輝幸	佐藤道美	本村升平
	(札幌)	(道南)	(小樽)	(札幌)	(釧路)	(苫小牧)		(旭川)	(札幌)	(岩見沢)	(岩見沢)	(夕張)	(中湧別)	(網走)	(北見)	(釧路)	(十勝)	(室蘭)	(苫小牧)

橋本巖	岡崎輝幸	佐藤道美	枇沢隆弘	馬飼野秋雄	山下昭治	乙竹隆七	池田利男	宮武明博	高橋夕マ	福原真理子	岡根徳政	大西政弘	堀井和彦	柳本一	川窪健次	佐藤自昇	渡辺和子	猪村和務	芳賀好和	宮本信夫
(釧路)	(十勝)	(室蘭)	(苫小牧)	(滝川)	(道南)	(稚内)	(留萌)	(旭川)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(旭川)	(北見)	(室蘭)	(小樽)	(札幌)	(札幌)

迎撃委員

年度別役員名簿

●昭和63年度役員名簿

										會計監査							
										安	辻	星	山	井	須	金	川
川	佐	平	宮	堀	中	津	鈴	上	廣	岩	江	野	田	上	藤	野	股
窪	藤	原	本	井	野	田	木	田	岡	崎	亮	正	英	茂	亮	正	良
健	立	身	好	和	龍	嘉	啓	弘	夫	薫	和	廣	一	明	亮	夫	幸
次	昇				一	郎	三										
(北	(室	(札	(札	(札	(道	(小	(札	(釧	(苦	(札	(旭	(札	(岩	(中	(夕	(網	(北
見	蘭	幌	幌	幌	南	樽	幌	路	小牧)	幌	川	見沢)	湧別)	張)	走)	見)	

會計 幹事

山	井	須	金	東	橋	藤	石	柁	渡	山	乙	池	佐	齊	雨	岡	大	芳	木	柳
田	上	藤	野	一	本	田	井	沢	辺	下	竹	田	藤	藤	宮	根	西	賀	村	本
良			正	夫	一	一	俊	隆	節	昭	隆	利	昌	一	英	德	政	務	幸	一
明	茂	亮	夫	夫	巖	義	光	弘	生	治	七	男	夫	子	子	政	弘	務	雄	一
(岩	(紋	(夕	(網	(北	(釧	(十	(室	(苦	(滝	(道	(稚	(留	(旭	(小	(札	(札	(札	(札	(十	(旭
見沢)	別)	張)	走)	見)	路)	勝)	蘭)	小牧)	川)	南)	内)	萌)	川)	樽)	幌)	幌)	幌)	幌)	勝)	川)

●平成元年度

										會計監査						
										安	村	岡	小	田	星	
										江	本	田	林	中	野	
										良	德	昌	康	稔	英	
										和	雄	治	夫	稔	市	
柳	西	佐	棧	川	宮	堀	中	津	鈴	上	廣	岩	岡	崎	夫	薫
本	木	藤	村	村	本	井	野	田	木	田	岡	達	夫	薫		
一	戸	利	隆	隆	好	和	龍	嘉	啓	弘	夫					
(旭	(北	(室	(札	(札	(札	(札	(道	(小	(札	(釧	(苦	(札	(旭	(札	(旭	
川	見	蘭	幌	幌	幌	幌	南	樽	幌	路	小牧)	幌	川	見沢)		

年度別役員名簿

幹事
會計

田中稔 (江別)
山田良 (岩見沢)
井上茂 (紋別)
須藤亮 (夕張)
原田幸一 (網走)
東村一夫 (北見)
忠村敏義 (釧路)
藤田一義 (十勝)
渡辺節生 (滝川)
合田晃 (室蘭)
伊藤粹裕 (苫小牧)
田中政夫 (道南)
池田利男 (留萌)
乙竹隆七 (稚内)
佐藤昌夫 (旭川)
斉藤一子 (小樽)
永田和之 (札幌)
雨宮英子 (札幌)
大西政弘 (札幌)
芳賀務 (札幌)
木村幸雄 (十勝)

●平成2年度

會計
川村隆志 (札幌)
田中政夫 (道南)
木村幸雄 (十勝)
柳本一 (旭川)
西木戸隆博 (北見)
佐藤利國 (室蘭)
芳賀務 (札幌)
棧賀勇 (札幌)
宮本好和 (札幌)
堀井和彦 (札幌)
津田嘉郎 (小樽)
鈴木啓三 (札幌)
上田弘 (釧路)
廣岡達夫 (苫小牧)
會長 岩崎薫 (札幌)
副會長 廣岡達夫 (苫小牧)
會計監査
辻田昌治 (浦河)
岡田治 (根室)
村本徳雄 (札幌)
安江良和 (旭川)

幹事

梶沢隆弘 (千歳)
岡田昌治 (根室)
辻田伸夫 (浦河)
田中稔 (江別)
山田良明 (岩見沢)
三浦春雄 (夕張)
原田幸一 (網走)
東村一夫 (北見)
忠村敏義 (釧路)
藤田一義 (十勝)
渡辺節生 (滝川)
合田晃 (室蘭)
伊藤粹裕 (苫小牧)
白岩政春 (道南)
乙竹隆七 (稚内)
池田利男 (留萌)
佐藤昌夫 (旭川)
斉藤一子 (小樽)
柳沼正一 (札幌)
佐藤裕子 (札幌)
永田和之 (札幌)

年度別役員名簿

会計監査

村本徳雄 (札幌)
安江良和 (旭川)

●平成3年度

会長 岩崎 薫 (札幌)
副会長 廣岡 達夫 (苫小牧)

事務局長 堀井 和彦 (札幌)
事務局長次長 川村 隆志 (札幌)
運営委員 宮本 好和 (札幌)
佐藤 朱美 (札幌)
佐藤 勇 (札幌)
佐藤 利美 (札幌)
西木戸 隆博 (北見)
柳本 一 (旭川)
木村 幸雄 (十勝)
田中 政夫 (道南)
村本 徳雄 (札幌)
幹事 佐藤 裕子 (札幌)

會計 田中 政夫 (道南)
幹事 佐藤 裕子 (札幌)

会計監査

永田和之 (札幌)
安江良和 (旭川)

●平成4年度

会長 岩崎 薫 (札幌)
副会長 廣岡 達夫 (苫小牧)

事務局長 堀井 和彦 (札幌)
事務局長次長 川村 隆志 (札幌)
運営委員 宮本 好和 (札幌)
佐藤 朱美 (札幌)
佐藤 勇 (札幌)
佐藤 利美 (札幌)
西木戸 隆博 (北見)
塚本 義彦 (十勝)
田中 政夫 (道南)
村本 徳雄 (札幌)
佐藤 裕子 (札幌)
幹事 柳沼正一 (札幌)

會計 田中 政夫 (道南)
幹事 柳沼正一 (札幌)

年度別役員名簿

会計監査

安江良和	永田和之	増田実	谷目守	岡田昌治	毛内裕之	進藤繁幸	三浦春雄	下田武秀	井上茂	原田幸一	橋本巖	岡崎由紀夫	合田晃	村田明光	白岩政春	薄木隆七	乙竹隆七	佐藤昌夫	斉藤一子	三沢祥子
(旭川)	(札幌)	(深川)	(千歳)	(根室)	(浦河)	(岩見沢)	(夕張)	(北見)	(紋別)	(網走)	(釧路)	(十勝)	(室蘭)	(苫小牧)	(道南)	(留萌)	(稚内)	(旭川)	(小樽)	(札幌)

●平成5年度

			幹事	會計							迎賓委員	事務局長	事務局長			副会長	会長			
斉藤一子	三沢祥子	柳沼正一	佐藤裕子	村本徳雄	田中政夫	塚本義彦	柳本隆一	西木戸隆博	佐藤利國	佐藤朱美	棧勇	宮本好和	川村隆志	堀井和彦	津田嘉郎	鈴木啓三	上田弘	廣岡達夫	岩崎薫	
(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(道南)	(十勝)	(旭川)	(北見)	(室蘭)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(小樽)	(札幌)	(釧路)	(苫小牧)	(札幌)	

会計監査

安江良和	棚田まゆみ	鈴木春美	江島寛	岡田昌治	渡辺寛	進藤繁幸	三浦春雄	下田武秀	井上茂	矢部昭子	橋本巖	伊藤進	嘉見照子	合田晃	村田明光	横内栄松	岡崎嘉奈恵	乙竹隆七	佐藤昌夫
(旭川)	(札幌)	(深川)	(千歳)	(根室)	(浦河)	(岩見沢)	(夕張)	(北見)	(紋別)	(網走)	(釧路)	(十勝)	(滝川)	(室蘭)	(苫小牧)	(道南)	(留萌)	(稚内)	(旭川)

年度別役員名簿

●平成6年度

幹事	會計	會長	副會長	上田	鈴木	川村	三上	堀井	宮本	棧本	佐藤	佐藤	西藤	柳本	塚本	田中	齊藤	村本	村本	柳井	三沢
祥子	一雄	正雄	弘夫	隆三	啓三	隆志	留美子	和彦	好和	好和	美勇	利國	隆博	一博	義彦	政夫	一子	德雄	德雄	義雄	正雄
(札幌)	(札幌)	(札幌)	(苫小牧)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(道南)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)

會計監査

北征子	佐藤昌夫	乙竹隆七	藤田勝美	横内栄松	村田明光	合田晃	土角福寿	橋本巖	原田幸巖	井上幸一	小原洋一	浦正明	進藤繁幸	渡辺繁幸	岡田昌治	江島昌治	鈴木春美	棚田まゆみ	安江良和
(小樽)	(旭川)	(稚内)	(留萌)	(道南)	(苫小牧)	(室蘭)	(滝川)	(釧路)	(網走)	(紋別)	(北見)	(夕張)	(岩見沢)	(浦河)	(根室)	(千歳)	(深川)	(札幌)	(旭川)

●平成7年度

幹事	會計	會長	副會長	上田	鈴木	川村	三上	堀井	宮本	柳沼	柳沼	佐藤	佐藤	西藤	柳本	鈴木	田中	齊藤	村本	村本	三沢
祥子	一雄	正雄	弘夫	隆三	啓三	隆志	留美子	和彦	好和	好和	美一	美一	利國	隆博	一博	茂夫	政夫	一子	德雄	德雄	義雄
(札幌)	(札幌)	(札幌)	(苫小牧)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(道南)	(小樽)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)

年度別役員名簿

会計監査

安江良和	棚田まゆみ	鈴木春美	江島悦子	岡田悦子	渡辺寛	進藤繁幸	柳原政雄	小原洋一	井上幸茂	原田幸一	橋本義彦	塚本義彦	土角福寿	合田秀晃	黒田秀樹	横内栄松	藤田勝美	足立清栄	佐藤昌夫	北藤征子
(旭川)	(札幌)	(深川)	(千歳)	(根室)	(浦河)	(岩見沢)	(夕張)	(北見)	(紋別)	(網走)	(釧路)	(十勝)	(滝川)	(室蘭)	(苫小牧)	(道南)	(留萌)	(稚内)	(旭川)	(小樽)

●平成8年度

	幹事	會計	会長	副会長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長
三沢祥子	村井義雄	澤内繁雄	村本徳雄	斉藤一子	田中政夫	鈴木茂	柳本一	西木戸隆博	佐藤利國	佐藤朱美	柳沼正一	宮本好和	堀井和彦	三上留美子	川村隆志	鈴木啓三	上田弘	廣岡達夫	岩崎薫		
(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(小樽)	(道南)	(十勝)	(旭川)	(北見)	(室蘭)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(札幌)	(釧路)	(苫小牧)	(札幌)		

会計監査

棚田まゆみ	鈴木春美	江島悦子	岡田悦子	渡辺寛	大原賢三	進藤繁幸	柳原政雄	小原洋一	井上幸茂	金野正夫	橋本義彦	塚本義彦	宇野峯治	合田秀晃	黒田秀樹	横内栄松	藤田勝美	足立清栄	佐藤昌夫	北藤征子
(札幌)	(深川)	(千歳)	(根室)	(浦河)	(江別)	(岩見沢)	(夕張)	(北見)	(紋別)	(網走)	(釧路)	(十勝)	(滝川)	(室蘭)	(苫小牧)	(道南)	(留萌)	(稚内)	(旭川)	(小樽)

年度別役員名簿

●平成9年度

安江良和 (旭川)

会長 岩崎 薫 (札幌)
副会長 上田 弘 (釧路)

田中政夫 (道南)
鈴木啓三 (札幌)
佐藤昌夫 (旭川)
佐藤利國 (室蘭)
澤内繁雄 (札幌)
事務局長 佐藤利國 (室蘭)
事務局長 澤内繁雄 (札幌)
事務局長 棧内 勇 (札幌)
三上留美子 (札幌)
堀井和彦 (札幌)
宮本好和 (札幌)
柳沼正一 (札幌)
齊藤一子 (小樽)
合田一晃 (室蘭)
西木戸隆博 (北見)
柳本一 (旭川)
塚本義彦 (十勝)
桑島智義 (道南)

会 計 幹 事

掛札 聖光 (釧路)
村田 明 (苫小牧)
村本 雄 (札幌)
村井 義雄 (札幌)
酒井 幸則 (札幌)
梅田 幸明 (札幌)
北 征子 (小樽)
近江谷 守 (旭川)
横内 栄松 (道南)
橋本 巖 (釧路)
山口 信一 (苫小牧)
山田 精一 (室蘭)
浅田 治 (滝川)
宇野 治 (滝川)
鈴木 茂 (十勝)
金野 正夫 (オホーツク)
井上 茂 (紋別)
小原 洋一 (北見)
小野 勇 (夕張)
薄木 理 (留萌)
椿分 百合江 (江別)
進藤 繁幸 (岩見沢)

会 計 監 査

渡辺 寛 (浦内)
足立 清栄 (稚内)
江島 寛 (千歳)
岡田 悦子 (根室)
鈴木 春美 (深川)
棚田 まゆみ (札幌)
青柳 正一 (旭川)

あ ゆ み

1954年 (昭29年)	道腎協 20年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
1956年 (昭31年)		米ハーバード大で世界初の腎移植 東大で日本初の血液透析(臨床) 日本で初の腎移植
1967年 (昭42年)		12月 人工透析に健保適用
1968年 (昭43年)	9月 (北大で道内初の腎移植成功)	6月6日 全腎協結成総会(東京) 10月18日 全腎協第一次国会請願実施
1971年 (昭46年)		6月25日 全腎協第二回総会(東京) 10月1日 身体障害者福祉法改正・腎機能障害者が内 部障害者に含まれ更生医療適用(十八歳未 満育成医療)
1972年 (昭47年)		11月7日 全腎協第二次国会請願実施
1973年 (昭48年)	10月 (北海道に於て重度身体障害者医療 給付制度適用)	3月23日 「腎移植普及会設立」 4月25日 全腎協第三回総会(東京) 10月1日 健康保険法改正さる ・家族七割給付 ・高額療養費制度新設

1973年 (昭48年)	道腎協 20年のあゆみ	12月7日 全腎協第三次国会請願実施	国・全腎協・その他の動き
1974年 (昭49年)		4月1日 小・中・高生の隔年検尿実施 血液代金の無料化 腎機能障害者にも身体障害者雇用促進法を適用 4月28日 全腎協第四回総会(神戸) 5月8日 慢性腎炎難病に指定さる 12月13日 全腎協第四次国会請願実施	
1975年 (昭50年)		5月18日 全腎協第五回総会(岐阜) 11月4日 全腎協第五次国会請願実施	
1976年 (昭51年)		5月16日 全腎協第六回総会(東京)	
1977年 (昭52年)	3月6日 道腎協結成準備会 腎移植の映画と講演(札幌医師会館) 10月1日 北海道腎臓病患者連絡協議会(道腎協)結成 会長 細川哲夫氏(全道七ブロック) (「北海道腎移植をすすめる会」発足―北大泌尿器科)	2月1日 全腎協第六次国会請願 2月20日 日本で初めて腎移植女性出産 4月1日 一歳六ヶ月児の検尿実施 5月8日 全腎協第七回総会(京都)	
1978年 (昭53年)	3月5日 道腎協会議(札幌) 3月14日 「どうじん」創刊号発行	1月31日 全腎協第七次国会請願実施 2月1日 医療費改訂(透析医療費実質的引下げ)	

	<p>3月25日 全道一斉街頭署名活動</p> <p>6月18日 道腎協第一回総会（札幌）</p> <p>7月10日 道内透析患者の実態調査</p> <p>11月7日 道に道東三地区より通院交通費助成の請願書</p> <p>11月24日 道内の通院交通費実態調査実施</p> <p>12月23日 （道、道東三地区からの「通院交通費助成請願」採択）</p>	<p>・夜間透析加算・腎移植健保適用</p> <p>・透析に時間制導入</p> <p>・給食費の保険適用</p> <p>4月1日 家庭婦人の検尿体制発足</p> <p>4月2日 「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族集会」開催</p> <p>5月14日 全腎協第八回総会（名古屋）</p>
<p>1979年 （昭54年）</p>	<p>6月17日 道腎協第二回総会（札幌） 腎移植に関する講演会</p> <p>6月 （通院交通費知事査定で削られる）</p> <p>10月10日 「どうじん」2号発行</p> <p>10月17日 通院交通費で三者会談（全道労協・難病連・道腎協）</p> <p>11月28日 通院交通費で記者クラブ会見</p> <p>12月2日 通院交通費で全道決起集会</p> <p>12月4日 通院交通費で要望書提出</p>	<p>1月30日 全腎協第八次国会請願</p> <p>3月31日 内部障害者に乗用車の物品税免除適用</p> <p>4月1日 腎臓移植手術に更生医療適用 小・中学生 毎年検尿義務化 国立佐倉病院腎移植センターオープン</p> <p>5月20日 全腎協第九回総会（広島）</p> <p>12月11日 角膜及び腎臓の移植に関する法律成立</p>
<p>1980年 （昭55年）</p>	<p>5月2日 健保改悪阻止ハガキ行動</p> <p>6月15日 「北海道透析白書」完成</p> <p>6月29日 道腎協第三回総会（札幌） 会長 岩崎薫氏就任</p> <p>7月1日 （道が腎機能障害者通院交通費補助事業実施）</p> <p>9月14日 腎移植プロジェクト会議開催</p>	<p>2月5日 全腎協第九次国会請願実施</p> <p>5月18日 全腎協第十回総会（福岡）</p>

	道腎協 20 年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
1980年 (昭55年)	10月1日 「どうじん」3号発行 12月8日 道腎協事務局長 留目英生氏死去	
1981年 (昭56年)	5月23日 道腎協第四回総会(旭川) 5月24日 「腎不全を考える集い」旭川大会開催 11月8日 第一回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施	1月1日 国際障害者年スタート 2月3日 全腎協第十次国会請願 6月1日 透析医療費再引下げ ・腎提供者にも健保適用 6月7日 全腎協第十一回総会(東京) 7月 第二臨調第一次答申「医療・福祉の抑制策」打ち出す 11月8日 第一回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン(全腎協)
1982年 (昭57年)	5月29日 道腎協第五回総会(札幌) 5月30日 道腎協五周年記念講演 8月1日 「どうじん」4号発行 9月19日 第二回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン 9月22日 (道内初のUS腎移植成功) 11月 道に「腎疾患対策委員会」の設置を要望 12月3日 道議会請願六項目(一万、三六四名) 12月30日 (初の道内透析者より角膜移植)	2月2日 全腎協第十一次国会請願実施 5月16日 全腎協第十二回総会(大坂) 8月5日 国民年金法改正案成立 8月10日 老人保健法成立(昭五八年二月一日実施) 9月19日 第二回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン 12月2日 全腎協厚生省に医療費改正で七項目を要求
1983年 (昭58年)	1月1日 「どうじん」第5号発行 1月30日 道腎協会員一千名を超える	2月1日 老人保健法スタート 医療費改訂で透析医療費再引き下げ

<p>1984年 (昭和59年)</p>		<p>6月1日 「どうじん」第6号発行</p> <p>6月7日 道に腎移植センターの設置を要望</p> <p>7月3日 道腎協第六回総会(札幌)</p> <p>9月18日 第三回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>9月19日 自民党道支部に腎移植センター設置を要望</p> <p>10月29日 東北ブロック会議に初参加</p> <p>11月1日 「どうじん」第7号発行 健保改悪にハガキで抗議運動</p>	<p>3月25日 「どうじん」第8号発行</p> <p>5月28日 (「北海道腎バンク発足」)</p> <p>6月10日 道腎協第七回総会(札幌)</p> <p>7月10日 「どうじん」第9号発行 腎提供拡大広報誌掲載活動</p> <p>7月 道に重度身体障害者医療給付制度</p> <p>7月24日 ④の改正要望</p> <p>腎提供(登録者拡大全道一周キャラバン隊出発(二、〇〇〇キロ走破))</p> <p>9月16日 第四回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>10月1日 道、人工透析と血友病の限度額一万円に④を適用</p> <p>11月1日 (北海道腎移植センター、市立札幌病院に開設)</p>	<p>2月2日 全腎協第十二回国会請願実施</p> <p>2月3日 CAPD液薬価基準収載</p> <p>5月10日 神奈川県腎友会全腎から退会を通告</p> <p>5月15日 全腎協第十三回総会(宮城)</p> <p>9月18日 第三回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>11月28日 厚生省「年金制度改革案」を諮問</p> <p>12月24日 連絡会「健保改悪に反対する全国決起集会」</p> <p>2月2日 全腎協第十三次国会請願実施</p> <p>3月1日 医療費改訂で透析医療費再び引き下げ CAPD在宅でも健保適用</p> <p>3月20日 全腎協災害対策マニュアル「どうする災害時」作成</p> <p>5月20日 全腎協第十四回総会(静岡)</p> <p>7月30日 「ゆたかな……患者、家族」連絡会「健保改悪反対」で社会労働委員会に要請</p> <p>8月7日 健康保険法成立(十月一日実施・健保本人の給付率引き下げ(十割↓八割)・高度療養費の中の長期高額疾病に人工透析、血友病が指定され限度額一万円となる)。</p> <p>9月16日 第四回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>10月1日 身体障害者福祉法改正</p>
--------------------------	--	---	--	--

1984年 (昭59年)	道腎協 20年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
1985年 (昭60年)	11月11日 腎臓病に関するシンポジウム開催 12月20日 「どうじん」第10号発行 5月1日 「どうじん」第11号発行 5月25日 専門委員会制発足 5月26日 道腎協第八回総会(札幌) 6月16日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン 9月22日 第五回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン 10月27日 初の腎疾患総合対策シンポジウム開催 11月1日 道内患者の実態調査実施	12月6日 警察庁に「腎バンク登録者拡大について」要請 2月7日 全腎協第十四回国会請願実施 3月1日 医療費改訂(透析医療費引き下げ)・腎関係の診療報酬点数時間区分二段階に 3月12日 「ゆたかな：患者、家族」連絡会、医療と生活の保障を求め国会請願 4月15日 全腎協マニュアル「なぜ今腎疾患総合対策なのか」作成 4月24日 「国民年金」「厚生年金」法改正(六十一年・四月実施) 5月19日 全腎協第十五回総会(岡山) 6月11日 小児腎炎の研究班発足 7月1日 厚生年金、障害年金の事後重症制度五年制限を廃止 9月22日 第五回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン 12月6日 厚生省「脳死に関する研究班」判定基準をまとめる
1986年 (昭61年)	2月25日 医療関係者との懇談会(札幌) 3月1日 「どうじん」第12号発行 3月 知事候補に公開質問状	2月6日 全腎協第十五回国会請願実施 2月28日 「ゆたかな：患者、家族」連絡会、全日空と道路公団に身障者割引要請

<p>1987年 (昭和62年)</p>	<p>5月1日 「どうじん」第13号発行 5月25日 道腎協第九回総会(札幌) 5月27日 前会長細川哲夫氏死去 6月15日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン 8月10日 「どうじん」第14号発行 10月5日 第六回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p>	<p>4月1日 医療費改訂(透析点数引き下げ)CAPD 加温器給付 新年金法施行(基礎年金制度 導入) 5月16日 全腎協第十六回総会(東京) 6月1日 老人医療一部負担金上がる 7月17日 児童扶養手当問題で厚生省に全腎協申し入 れ 10月 厚生省毎年十月を腎移植推進月間として施 行 10月5日 第六回全国一斉腎提供登録街頭キャンペ ーン</p>
<p>1987年 (昭和62年)</p>	<p>3月10日 「どうじん」第15号発行(道内患者実態調 査報告集) 3月31日 道腎協会員千八百名を超える 5月10日 「どうじん」第16号発行 5月31日 道腎協第十回総会(札幌) 10月4日 第七回全国一斉腎提供登録街頭キャンペ ーン 11月10日 「どうじん」第17号発行 12月30日 十周年記念誌「どうじん」発行 11月29日 JRなど運賃割引で運輸建設両省に陳情 12月5日 国際障害者年日本推進協議会「国民会議'87」 (六日まで)</p>	<p>2月10日 全腎協第十六次国会請願実施 3月 十五周年事業として「実態調査報告書」 「福祉制度のしおり」(改訂版)発行 5月24日 全腎協第十七回総会(新潟) 5月27日 臨床工学士法成立 7月 「献腎」テレフォンカード製作販売 9月2日 運賃割引で全腎協国会請願 10月4日 第七回全国一斉腎提供登録街頭キャンペ ーン 10月29日 日本腎臓学会が「腎炎ネフローゼ患者の生 活指導指針」をまとめる。 11月4日 身体障害者実態調査結果概要発表(身体 障害者二四一万人)</p>

1987年 (昭62年)	道腎協 20年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
1988年 (昭63年)	<p>2月2日 ・JR、航空、有料道路料金割引についての請願署名展開・道議会請願、藤井議長に二万名分を越える署名届け、JR運賃等内部障害者に適用するよう要望・江差、羽幌、中標津に透析病院の実現を要請</p> <p>1月10日 「どうじん」18号発行</p> <p>2月17日 国会請願行動、道からも三名参加（中村、岡根、川村）</p> <p>1月28日 道透析医会に転院問題で要望書提出</p> <p>3月10日 「どうじん」19号発行</p> <p>4月 道腎協十周年記念の会旗完成</p> <p>5月10日 「どうじん」20号十周年記念号発行</p> <p>5月22日 十周年記念第十一回定期総会（道庁別館地下ホール二五〇名の参加）</p> <p>十年表彰、感謝状四九名に記念特別講演太田和夫教授</p> <p>6月29日 道議会で岩崎会長が身障者運賃割引請願書の趣旨説明</p>	<p>12月22日 運賃割引でJR四国に陳情</p> <p>12月28日 八八年度政府予算案決定 ①腎不全予防対策費②都道府県腎移植推進情報センター連絡会経費③同オンラインシステム開発費</p> <p>1月12日 日医生命倫理懇談会、最終報告書で脳死、臓器移植認める</p> <p>1月19日 運賃割引でJR東日本に陳情</p> <p>1月29日 運賃割引でJR西日本に陳情</p> <p>2月2日 運賃割引でJR北海道に陳情</p> <p>2月12日 運賃割引でJR九州に陳情</p> <p>2月16日 第十七次国会請願（衆、参採択）</p> <p>2月12日 小児腎疾患研究班シンポジウム</p> <p>2月24日 JPC、運賃割引で運輸省に陳情</p> <p>2月25日 診療報酬改定（人工腎臓の水処理加算を新設、移植点数増額）</p> <p>3月1日 JPCが運賃割引で国会請願（不採択）</p> <p>3月18日 運賃割引でJR東海に陳情</p> <p>4月1日 マル優廃止</p> <p>5月26日 八九年度予算で厚生省に陳情</p> <p>7月6日 「全腎協」百号記念号発行</p> <p>7月13日 フィリピン生体移植問題で会長談話発表</p> <p>8月 全腎協会員数が五万人突破</p>

<p style="text-align: center;">(昭64年 平元年)</p> <p style="text-align: center;">1989年</p>	<p>6月29日 事務局長中村信天氏死去</p> <p>8月10日 「どうじん」21号発行</p> <p>8月8日 JR運賃等割引制度導入請願が道議会で採択される</p> <p>10月9日 ・第八回腎キャンベーン全道で約四百名の会員が参加・臓器移植推進請願署名六千八十五名分集まる・国会請願署名募金、一万八、一六〇名、百十万一八四円の募金、JPC分は、署名七、五七九名分、一六万九、二〇五円の募金</p> <p>10月29日 第二五回ブロック会議</p> <p>10月30日 医療講演会</p> <p>12月6日 道腎協で初めてのハワイツアーを実施、大好評(〜13日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」22号発行</p>	<p>9月7日 腎不全対策推進会議が「当面緊急に対応すべき腎不全対策」を厚生省 ・保健医療局長に報告</p> <p>9月8日 「臓器移植の促進に関する請願」(不採択)</p> <p>10月1日 厚生省が腎移植推進月間(三一日まで)</p> <p>10月9日 第八回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンベーン</p> <p>10月25日 厚生省、労働省が「長寿・福祉社会を実現するための施策の基本的考え方と目標について」「長期プラン」を発表</p> <p>11月6日 ・腎バンク全国に十七カ所に・腎バンク登録者数二一万人を・超える・臨床工学技師試験初めて実施</p> <p>12月1日 「脳死・臓器移植」に関する会員意識調査実施</p> <p>12月7日 「脳死臨調」設置法案、自民党・調査会がまとめる</p>
	<p>3月10日 「どうじん」23号発行</p> <p>4月8〜9日 第二六回ブロック会議</p> <p>4月11日 沖繩旅行に三十名参加元気に珍道中出発</p> <p>5月10日 「どうじん」24号発行</p> <p>5月28日 第十二回定期総会・記念講演(北農健保会館三十名)</p>	<p>1月24日 八九年度政府予算案決定(国立佐倉病院の臨床研究部の設置、腎不全医療研究費)腎臓に関する予算は二億四、七〇〇万円</p> <p>2月1日 臨時福祉特別給付金支給</p> <p>3月30日 第十八回国会請願(衆、参採択)</p> <p>福祉関係三審議会合同企画分科会が「今後</p>

<p>1989年 (平元年)</p>	<p>道腎協 20年のあゆみ</p>	<p>国・全腎協・その他の動き</p>
	<p>6月10日 「どうじん」25号発行 6月29日 JR北海道本社に請願行動 割引早期実現の要望(役員五名) 9月10日 「どうじん」26号発行 9月17日 第一回役員研修会 9月17日 第二七回道腎協ブロック会議において全腎協の分担金、値上げを合意、これにより五十円アップされることになる(十八日まで) 10月8日 第九回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン 12月10日 「どうじん」27号発行</p>	<p>4月1日 の社会福祉のあり方」を意見具申 消費税3%導入 5月1日 「患者サービスの在り方に関する懇談会」(厚生省)が提言 5月11日 JRなど運賃割引で運輸省に申し入れ 5月21日 第十九回総会(埼玉) 6月1日 九十年年度予算で厚生省に陳情 高額療養費の自己負担限度額が五万七千円に引きあげ、特定疾病は据え置き 7月11日 血液が不適合の人同士でやりとりする腎臓移植の成功が全国で相次ぐ 7月17日 大蔵省に陳情(自動車購入時の消費税免税) 9月 脳死の患者を抱えた家族に臓器提供の依頼をしたり、救急病院と移植病院との橋渡しをする「移植コーディネーター」を二国立病院に配置 10月1日 厚生省が腎移植推進月間(三一日まで) 10月7日 厚生省が腎移植推進国民大会(京都)、全腎協に大臣感謝状が贈られる 10月8日 全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン 11月13日 市立札幌病院腎移植センターは、心臓死患者から取り出した腎臓を他の二人の腎臓病</p>

<p>患者に同時移植することに成功。心臓死者からの腎移植は道内で九年ぶり三例目</p>	<p>11月14日 J R 割引制度実現。来年2月からと運輸大臣発表</p>	<p>12月1日 「脳死臨調」設置法案が成立</p> <p>12月5日 厚生省に陳情（エリスロポエチンの早期認可など）</p>	<p>12月14日 国民年金等を一部改正する法律が成立 ①</p> <p>学生の強制適用②完全自動物価スライド制の導入③保険料のアップなど</p>	<p>12月20日 中央薬事審議会がエリスロポエチンの製造承認を答申 J R 六社が身体障害者運賃割引に内部障害者を含める認可申請</p>	<p>12月21日 「高齢者保健福祉十カ年計画」（ゴールドプラン）を発表。在宅推進を強化</p>	<p>12月29日 九十年代政府予算案を決定（腎移植推進員等設置費、摘出協力病院経費、都道府県腎移植推進・情報センター経費などが新規事業）</p>	<p>12月31日 全国腎バンク登録者数二四万八、〇二二人となる</p>
---	--	---	---	---	--	---	--------------------------------------

	<p>道 腎 協 20 年 の あ ゆ み</p>	<p>国 ・ 全 腎 協 ・ そ の 他 の 動 き</p>
<p>1990年 (平2年)</p>	<p>3月10日 「どうじん」28号発行 4月7日 第二八回ブロック会議「札幌難病センター にて、三〇名(八日まで) 4月12日 国会請願行動に三名。一万七、二一五名分 署名を届ける。 5月10日 「どうじん」29号発行 5月18日 道腎協主催、四国一周の旅実施「三七名参 加 5月27日 第十三回定期総会開催「北農健保会館、百 二〇名 6月10日 「どうじん」30号発行 9月10日 「どうじん」31号発行 10月7日 第十回腎バンク登録拡大キャンペーン全道 各地で展開 10月27日 第二九回ブロック会議「北農健保会館二九 名参加 10月28日 文化講演会 12月10日 「どうじん」32号発行 12月18日 道立羽幌病院に透析施設設置人工透析治療 始まる</p>	<p>1月31日 小児慢性腎疾患研究班がシンポジウム(一 日まで) 2月1日 JRなどの運賃割引が内部障害者にも適用 脳死臨調が初会合 2月23日 診療報酬改定 (透析の休日加算を新設、 食事加算が一〇円アップ、老人医療に定額 払い制導入) 3月10日 第五八回定例幹事会にて分担金引き上げを 承認 4月1日 初の組織強化月間(三十日まで) 6月22日 福祉八法改正案成立 8月5日 昨年に続き死体腎移植「市立札幌病院で三 三歳の男性へ 9月23日 要介護者問題対策委員会を設置 10月1日 厚生省が腎移植推進月刊「世帯更生資金が 貸付け対象を拡大し「生活福祉資金」と改 称 10月7日 第十回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャン ペーン 11月1日 「有料道路料金身体障害者割り引きの内部 障害者への適用拡大に関する」国会請願 (不採択) 雲仙不賢岳噴火活動開始</p>

		<p>11月26日 厚生省健康政策局長宛に医療法「改正」に関する公開質問状「『医療法一部の改正』」に関するお尋ね」を提出</p> <p>12月8日 韓国腎臓植協会との交流のため全腎協代表が訪韓(十一日まで)</p> <p>12月8日 全腎協バッジ作成、販売開始</p> <p>12月29日 九一年度予算政府案決定 (ゴールドプラン推進予算、医療保険高額療養費制度自己負担限度額引き上げ、腎対策に新規事業なし)</p>
<p>1991年 (平成3年)</p>	<p>1月17日 北海道腎臓バンクへ臓器移植募金箱より五万円を寄附</p> <p>1月31日 運転免許試験場(道内六ヶ所)への腎登録カード設置が実現</p> <p>2月18日 国会請願署名二万四、五二九名分</p> <p>3月10日 「どうじん」33号発行</p> <p>4月13日 第三十回ブロック会議・専門委員会(一四日まで)</p> <p>4月 富良野協会病院透析施設設置</p> <p>5月10日 「どうじん」34号発行 「どうじん」臨時号発行(PR版)</p> <p>6月2日 第十四回総会・札幌北農健保会館</p> <p>6月10日 「どうじん」35号発行</p> <p>7月27日 難病連道大会出席(二八日まで)</p>	<p>1月6日 要介護者問題対策委員会が中間報告を提出</p> <p>1月21日 医療法「改正」についての全腎協公開質問状に対して厚生省が回答</p> <p>3月 二十周年記念誌「歩みとどまらず」発行</p> <p>4月1日 組織強化月間</p> <p>5月6日 会報「全腎協」カラー化実施</p> <p>5月8日 第百二十回通常国会で社会労働委員会が厚生委員会と労働委員会に分離されることが決まる</p> <p>5月25日 二十周年感謝の集い</p> <p>5月26日 結成二十周年記念第二一回総会 二十周年記念行事</p> <p>6月1日 要介護者問題対策委員会が実態調査・ケーススタディ開始</p>

	<p style="text-align: right;">1991年 (平成3年)</p> <p style="text-align: center;">道 腎 協 20 年 の あ ゆ み</p> <p>8月24日 全腎協総会北海道大会実行委員会（札幌四〇名（二五日まで））</p> <p>9月10日 「どうじん」36号発行</p> <p>10月6日 第十一回全国一斉腎提供拡大街頭キャンペーン</p> <p>11月9日 第三一回ブロック会議（三二名参加）</p> <p>12月10日 「どうじん」37号発行</p>	<p style="text-align: center;">国 ・ 全 腎 協 ・ そ の 他 の 動 き</p> <p>6月3日 雲仙普賢岳に大火砕流発生、会員宅に被害</p> <p>6月27日 長崎・雲仙普賢岳噴火災害で現地調査（二十八日まで） 雲仙普賢岳噴火非常災害対策本部・長崎県知事宛に「透析患者の治療と生活保障についての要望書」を提出</p> <p>6月29日 雲仙普賢岳被災者救援カンパを全国の会員に呼びかける（全腎協一、七〇〇万円カンパ）</p> <p>7月15日 北海道臓器移植連絡協議会を結成</p> <p>7月18日 厚生省、社会保険庁に障害年金制度の改善要求を求める陳情</p> <p>7月20日 県立宮崎病院で精神障害者の透析が拒否され、死亡する事件が発生</p> <p>7月22日 精神障害者の透析拒否で会長表明を発表</p> <p>7月31日 中央心身障害者対策協議会が「国連・障害者の十年」最終年で首相に意見具申</p> <p>8月9日 「脳死臨調」が東京で初めて公聴会を開催</p> <p>9月6日 二十周年記念ビデオ「歩みとどまらず」完成</p> <p>9月11日 JRなど身体障害者運賃割り引き制度が精神薄弱者に対象拡大</p> <p>9月12日 老人保健法「改正」案が成立（患者一部負担の引き上げ、スライド制の導入、老人</p>
--	--	---

<p>1992年 (平4年)</p>	<p>2月8日 国会請願署名集約、二万三三八六名分 3月10日 「どうじん」 38号発行 4月25日 第三二回ブロック会議(二六日まで) 5月23日 第二二回全腎協総会が札幌市で開催(二四日まで) 6月10日 「どうじん」 39号発行 7月19日 第十五回定期総会(医療講演) 8月10日 「どうじん」 40号発行 10月4日 第十二回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン 10月10日 「どうじん」 41号発行</p>	<p>11月9日 要介護者問題対策委員会が最終報告を提出 11月22日 「脳死臨調」最終答申で脳死の臓器移植を容認 3月6日 公益法人化をめざし検討委員会を設置 3月26日 第二次国会請願(八十万人署名) 有料道路割引でも請願 4月1日 医療費改定で透析患者の血液検査に定額制を導入(一月に一回を限度とし算定) 5月6日 全腎協二十周年記念誌「歩みとどまらず」完成 5月24日 第二十二回全腎協総会が札幌で開催(参加一、一四六名) 前日、定山溪で六百名の</p>
		<p>保健施設療養費の公費負担の引き上げ、訪問看護制度の創設) 10月1日 腎不全患者アンケート(実態調査) 開始 10月3日 公益法人化検討委員会発足 10月6日 第十一回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン 10月26日 全腎協事務局移転(東京・豊島区へ) 日本腎移植者協議会結成 11月6日 先の臨時国会で老人保健法の改正案が成立。現行入院時四百円を来年一月から六百円。九三年度から七百元、現行通院月八百円を、九三年度から千円に</p>

	<p>道腎協 20年のあゆみ</p>	<p>国・全腎協・その他の動き</p>
<p>1992年 (平4年)</p>	<p>10月24日 第三回ブロック会議(二五日まで)</p>	<p>5月28日 透析患者の検査の定額化が一部改善(合併症患者などに対応)</p> <p>8月25日 自民党綿貫幹事長帯広で暴言「人工透析やらないだけでもお国のため」に全腎協抗議文</p> <p>10月3日 第十二回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン 「脳死と移植と患者と」と題し神戸でシンポジウム</p> <p>11月7日 スペインで国際シンポジウム</p> <p>12月 全国の腎友会では、地元選出国会議員に対し「臓器移植法案」の早期成立を促す要請</p> <p>12月10日 要介護透析患者対策の早期着手について、全腎協は厚生省に対し陳情</p>
<p>1993年 (平5年)</p>	<p>2月10日 「どうじん」42号発行</p> <p>3月25日 国会請願行動に道から三名参加地元議員に訴えた</p> <p>3月30日 国会請願署名過去最高二万六、一三二名分</p> <p>北海道腎臓バンクに臓器移植基金</p> <p>募金箱から一五万円寄附</p> <p>4月24日 第三四回ブロック会議(二五日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」43号発行</p>	<p>1月22日 腎臓移植普及会が、二十周年を迎え祝賀会</p> <p>1月23日 全腎協と愛知県腎協が、名古屋において要介護透析者対策についてのシンポジウムを開催</p> <p>2月5日 医療法改正の診療報酬決まる 「特定機能病院」と「療養型病床群」にわけ、格差をつけた</p> <p>3月25日 第二十二次国会請願行動、過去最高の八五</p>

5月29日	第二三回全腎協総会（滋賀）道腎協からも四五名参加（三十日まで）	4月1日	万人分の署名を持って一六一名が参加 福祉八法の改悪により、福祉行政の権限が従来の都道府県から市町村に移行
6月6日	第十六回定期総会	5月29日	第二三回全腎協総会（滋賀）
6月10日	「どうじん」44号発行	6月3日	厚生省への陳情行動、要介護対策の緊急性を訴える
7月12日	北海道南西沖地震発生、会員への被害なし	7月1日	厚生省は難病対策見直し専門委員会を設置
8月1日	運転免許試験場での腎提供登録運動が札幌手稲運転免許試験場で許可された	7月18日	日本透析医療法学会は透析患者が十二万三、九二六名と発表。前年より七、六二三名の増加
9月10日	「どうじん」45号発行	7月22日	透析を理由に解雇された長野県のタクシー運転手「川野さん」長野地裁に提訴
10月10日	第十三回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン	9月6日	医療保健審議会は給食代などの患者負担を六月二十三日に発表。これに対し反対はがき送付、反対署名運動を展開
10月15日	札幌地下街において腎登録啓発パネル展を開きキャンペーン（十七日まで）	9月24日	中央社会保険医療協議会の診療報酬基本問題小委員会は、包括化払い方式を容認する報告書を提出
10月21日	厚生大臣より道腎協に対して業績を認定され、感謝状	9月30日	健康保険法・年金問題について改悪絶対反対の要望を申し入れた
10月28日	健康保険制度改悪反対JPC署名（一万六、二九四名分）	10月8日	難病対策二十周年記念シンポジウム
10月30日	第三五回ブロック会議	10月10日	第十三回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン
11月15日	社会保障・医療の後退反対集会（東京、広島副会長参加）	10月12日	老齢年金六五歳支給（年金審議会が意見書）
12月10日	「どうじん」46号発行		

1993年 (平5年)	道腎協 20年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
1994年 (平6年)	<p>1月 第二三次国会請願署名く二万六、二五四名分</p> <p>3月10日 「どうじん」47号発行 「どうじん」臨時号発行</p> <p>3月29日 北海道腎バンク臓器移植募金箱から十万円<small>の寄附</small></p> <p>3月31日 道内の会員数二、八一三名、一三五名増加</p> <p>4月23日 第三六回ブロック会議</p> <p>5月10日 「どうじん」48号発行</p> <p>6月5日 第十七回定期総会(室蘭) 前日に総会記念交流会</p> <p>6月6日 道腎協結成十五周年記念シンポジウム</p> <p>6月10日 「どうじん」49号発行</p> <p>9月10日 「どうじん」50号発行</p> <p>9月11日 全道一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p>	<p>12月9日 障害者基本法の成立(二三年ぶりに改定)</p> <p>1月18日 全腎協法人化について厚生省と折衝</p> <p>1月25日 臓器移植法案国会提出へく通常国会に条件つきで</p> <p>2月18日 厚生省が入院給食費の患者負担を一日八〇〇円、低所得者で六六〇円とすることを決定</p> <p>2月18日 厚生年金法案の改正案国会提出く支給年齢六十歳から六五歳へ</p> <p>2月23日 透析医療費(保険点数)の包括化く一回の透析二万一千円</p> <p>HDF(血液透析ろ過)が初めて保険に加入えられた</p> <p>3月22日 入院時食事代の患者負担導入をめざす健保法案国会へ提出される</p> <p>3月31日 第二三次国会請願行動、九三万の署名が一</p>

<p>1995年 (平7年)</p>	
<p>1月 国会請願署名・JPC署名(三万九七名分・一万五七六名分) 3月4日 九、四三六円 3月10日 「どうじん」52号発行 3月30日 道腎バンクに平成六年度分の募金箱より六万八、二二八円寄附 4月20日 第三八回ブロック会議(二二日まで) 5月10日 「どうじん」53号発行</p>	<p>10月2日 全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン 10月1日 入院給食費自己負担(一日六〇〇円)開始。 更生医療指定外施設に入院した場合は全額自己負担 10月15日 第三七回ブロック会議(一六日まで) 札幌地下街において腎登録啓発パネル展示(十六日まで) 12月10日 「どうじん」51号発行</p>
<p>1月17日 阪神大震災発生・死者五千人を大幅に越える、その内透析患者二〇名死亡・八四〇人余りが臨時透析 3月6日 高齢者介護自立支援：研究会が報告書を提出し、公的介護保険の導入を提言 3月29日 昨年の劇症肝炎事件は院内感染と判明 3月30日 第二四回国会請願行動、九二万二、五八六名分の署名を持って一六六人が参加</p>	<p>七七名の仲間の手によって国会の場合へ 5月22日 第二四回全腎協総会(千葉) 6月6日 健保改悪法案阻止の座り込み(衆議院議員第一議員会館前で 6月17日 健保法案共産党の反対以外、各党の賛成で可決成立、これにより入院給食費一日六百円 10月1日 有料道路の料金割引制度が内部障害者にも適用(半額) 9月～10月 東京の西新宿診療所で透析患者四名が劇症肝炎になり相次いで死亡 12月 全国透析患者数一四万三、七〇九名、そのうち会員七万七千人、組織率約五〇%あまり 12月 厚生省は、高齢者介護支援システム研究会を設置</p>

1995年 (平7年)	道腎協 20年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
6月4日	第十八回定期総会(釧路) 前日交流会	4月 国立佐倉病院を中心に新腎移植ネットワークシステムが稼動。移植システムスピード
7月22日	二〇周年記念事業第一回実行委員会	化
8月24日	入院給食費自己負担の医療助成について陳情行動	5月21日 第二五回全腎協総会(宮崎)
8月27日	札幌腎友会と共催でSTV二四時間チャリティに参加し、キャンペーンを兼ねた初の試み	5月25日 透析診療報酬に五時間枠要求→厚生省交渉 6月13日 臓器移植法案または継続審議に 7月15日 日本腎臓移植ネットワーク東北北海道ブロックセンター発足
9月7日	札幌地下街において腎登録啓発パネル展示(八〇名の腎登録者を得る(十日まで))	9月17日 災害時の透析確保に向け全腎協がシンポジウム開催(岩手と共催)
9月10日	第一五回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン	9月 透析医療の定額制度撤廃の要望→透析医会、厚生省などに要望提出
「どうじん」55号発行	「どうじん」55号発行	10月8日 第十五回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン
10月21日 第三九回ブロック会議	第三九回ブロック会議	11月1日 移植法案で発の地方公聴会→衆議院更生委員会 11月 全腎協が災害マニュアルを作成、全国に配布
12月10日 「どうじん」56号発行	「どうじん」56号発行	11月11日 JPC全国交流集会以、介護保険構想に真っ向から反対 12月18日 政府の障害者対策推進本部は「障害プラン→ノーマライゼーション七カ年戦略」を策

	<p>1996年 (平成8年)</p>	<p>定</p>
	<p>2月25日 国会請願署名活動(三万二、三四四名分) (過去最高)</p> <p>3月10日 「どうじん」57号発行</p> <p>4月20日 第四〇回ブロック会議(二一日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」58号発行</p> <p>5月26日 第十九回定期総会(函館)前日交流会</p> <p>6月10日 「どうじん」59号発行</p> <p>8月4日 医療講演会(北見にて)</p> <p>9月8日 全道一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>9月10日 「どうじん」60号発行</p> <p>9月15日 シンポジウム開催</p> <p>10月26日 第四一回ブロック会議(二七日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」61号発行</p>	<p>1月23日 日本腎移植ネットワークの登録データの不備が発覚</p> <p>1月31日 老人保険福祉審議会が介護保険二次報告書提出(介護保険対象は六五歳以上)</p> <p>3月28日 第二五次国会請願行動、九五万の署名、一五五人の代表とともに国会議員へ</p> <p>4月1日 これまで四時間を境に二段階とされてきた透析診療報酬に「五時間以上」が追加された</p> <p>4月2日 臓器移植法案の早期審議入りと早期成立を求め全衆院議員に要請</p> <p>5月19日 全腎協結成二五周年記念</p> <p>6月21日 第二六回全腎協総会(東京)</p> <p>6月21日 医療保険審議会は「医療保険改革」案を提示(本人二割、老人定率負担へ)</p> <p>7月13日 第二回相談員研修会を開催(十四日まで)</p> <p>七月自由配布制の「意思表示カード」の作成、配布</p> <p>9月26日 全国腎臓病患者連絡協議会に社団法人許可(社)全国腎臓病協議会に名称変更</p> <p>10月1日 入院時の給食費自己負担額が現行六〇〇円が八〇〇円に引き上げ</p>

	道腎協 20年のあゆみ	国・全腎協・その他の動き
1996年 (平8年)		10月6日 第十六回腎バンク登録キャンペーン 10月13日 第十一回腎移植推進国民大会(福岡市) 10月21日 「介護保険」で全腎協が厚生省に陳情 11月16日 第一回全腎協青年交流集会(十七日まで) 12月 日本腎臓移植ネットワークは移植希望登録患者の更新を毎年三月に行い、その際、更新料を五千円と決定
1997年 (平9年)	3月10日 「どうじん」62号発行 3月27日 腎バンクへ臓器移植基金募金箱より7万円寄附 4月19日 第四二回ブロック会議(二十日まで) 5月10日 「どうじん」63号発行 5月25日 創立二十周年記念第二十回定期札幌総会、前日交流会 6月10日 「どうじん」64号発行 9月10日 「どうじん」65号発行	2月9日 人工臓器学会が在宅血液透析でシンポジウム 4月14日 タクシー運転手川野訴訟第一回 4月21日 医療と介護の拡充を求める請願を国会へ 5月18日 全腎協が兵庫県腎友会共催で全国大会(神戸)前日交流会 6月17日 臓器移植法が成立 9月1日 健康保険法等改正施行

編集後記



編集責任者

堀井 和彦

昭和五十二年十月に発足した道腎協は今年度で二十年を迎え、患者会員三千数百名の大組織になりました。透析医療技術の進歩、医療社会保障制度の充実等、様々な要因のお陰と感謝申しあげなければなりません。そして忘れてならないのは、道腎協結成に尽力された、細川哲夫初代会長、財政困難の中の事務局運営をされた留目英生事務局長、腎提供登録者拡大全道一周キャラバンを成功させた行動力の中村信夫事務局長等、物故役員・会員、さらに医療スタッフ・行政関係者等、沢山の方々の献身的な協力の賜物だと、肝に命じなければなりません。最後にこの記念誌発刊にあたり、お忙しい中、快くご寄稿戴いた、行政・医療関係の皆様により深く感謝申し上げます。



委員

澤内 繁雄

記念すべき道腎協20周年の総会におきまして、はからずも事務局長に選出されました。心もとないところはありますが誠意をもって会の発展に尽す所存でございます。又、この記念誌の編集に微力ながらお手伝いさせていただいた事に感謝しております。



委員

村本 徳雄

早いもので、札幌の円山にあるホテルサンハイツで、全道八ブロックが集まり設立委員会を開いてから二十年が経ち、今、こうして20周年記念誌の編集に携わる事が出来た事に感謝の気持ちでいっぱいです。この記念誌が会員の皆様の大切な一冊となればと思います。



委員

福原真理子

先人のことは、今に生きる人のことは、支えてくれた人々の想い、形となった多くの事柄、



委員

三上留美子

編集に関わり、二十年間を振り返り、今自分がこうして生かされている事を、諸先輩に改めて感謝したい気持ちでいっぱいです。そして、これから私たちが何もしなければ、何も残りはないのだという事を、次の時代の仲間の為にも。できれば30周年の記念誌にも携わってみたい。



委員

石井 典子

私が透析を始めた時は、既に医療費はかからず、そのことを当然と生きていました。しかし、それが先輩方の運動によって得られた賜物であり、さらに道腎協結成には、たくさんの方々の苦勞・努力があったことなどを、当時を知る諸先輩より直接聞くことが出来たことは何よりも有意義であり思いを新たにしました。



(透析歴16年・勤医協中央病院)

田中 まゆみ

- <略歴> 1980 新道展初出品／北海道平和美術展出品（～'84）
1983 新道展佳作賞（北海道新聞社賞）／新道展会友推挙
1984 自由美術展 佳作作家（東京都美術館）／新道展会員推挙
1985 自由美術展 佳作作家（東京都美術館）／個展（札幌大同ギャラリー）
1992 全腎協第22回総会のポスターデザイン制作
1993 手のひらサイズのチャリティー個展（札幌時計台ギャラリー）
1994 インスタレーション個展（～'97札幌時計台ギャラリー）
Pacific Rim Art Now '94（海外交流展、市立小樽美術館）
札幌腎友会結成20周年記念誌デザイン制作
1997 リムープ展（札幌 函館 帯広）／私の一点展（ギャラリー山の手）
Pacific Rim Art Now '97（海外交流展、市立小樽美術館）
SAPPORO ART ANNUAL '97（北海道文化放送賞リーセント美術館）

■アトリエ／〒003 札幌市白石区本郷通3丁目南1-38-101 ☎(011)863-5090

道腎協結成20周年記念誌

風と大地と微笑みと

発行日 1998年3月30日

発行 北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫

〒060-0035

札幌市北区北35条西5丁目1-10 フレンズ南麻生308

TEL・FAX (011) 747-0217

印刷 (株)北海道機関紙印刷所

